



Congrats!

★ 合格体験記 ★

HAPPY!!



LEGENDARY STUDENT

読むだけで
合格マインドが身につく

50の伝説



Success is connected with action. Successful man and woman keeps moving.

They make mistakes, but they don't quit!

I wish you happy beginnings to the start of a new chapter in life.

やるからには、本気になって 限界の向こう側を見てみないか？

今の自分に満足していない、キミへ。
あきらめるのは、まだ早いですよ。

運命は、一瞬にして、変わるのですから。

いま、「大学受験塾ミスターステップアップ」で講師を務める私も、そうでした。
この塾の創始者・南極老人との出会いをきっかけに、人生が180度、変わったのです。

当時、高校3年生の私にとって「京都大学」は、まさに雲の上の存在でした。
京大志望の友だちと比べても、やっぱり自分とは、レベルが違いすぎる。
学校の先生にも、「お前に京大はムリだろ」と、笑われる始末……。

ところが私は、一年間の浪人を経て、あっさり京大の合格通知を手にしていました。
偏差値44、E判定からの大逆転でした。
ちなみに、なんの対策もせず受けた早慶上智も全勝でした。

どうして私に、このような奇跡が起きたのか。
その秘密は、この続きを読めばわかります。



E判定でも逆転できる！
柏村真至

The show must go on.

You'll face it with a grin.
On with the show.

受験は頭の良さを競うものではない

大学受験でいちばん大事なのは、頭の良さではありません。

ずばり、「エネルギー」です。

あなたの全身、あなたの心、あなたの欲望、あなたの怒り、あなたの妬み、あなたの喜び、あなたの楽しみ、あなたの悲しみ。それらは、あなたの中にある目に見えないエネルギーで作られています。

合格に必要な要素 —— やる気、集中力、忍耐力、直感力、時間、情熱 ——
もまた、すべてエネルギーから生まれます。

あなたの中のエネルギーを「すべて」とは言いませんが、その7割を、いや、半分でも、自分の目標を実現させるために使ったなら、おそらく、たいいていの夢は叶うでしょう。そう、あなたも「第一志望に合格できる」ということです。

しかし、多くの受験生は（多くの大人ですらも）、気分振り回され、欲に流され、考えなくともいいことに悩み、他人の目を気にして、まったくどうでもいいことにエネルギーを浪費し、たれ流しに生きています。

入試本番のギリギリのところでは、学力だけでなく、いかに自分のエネルギーを集め、目標達成のためだけに注ぎ込むことができるか、なのです。



もつとも差が生まれるポイント

多くの受験生は、勉強の「やり方」を求めがちです。勉強のノウハウ、計画の立て方、解法のテクニック……。もちろん、それらを知らなければ合格はできません。

しかし、考えてみてください。今は情報化社会です。それこそスマホ一つあれば、誰もがいくらかでも情報を手に入れることができるのです。

つまり、人よりちょっと優れたノウハウやテクニックを知っていても、さほど有利にはならない。じゃあ、どこで差が生まれると思いますか？

それは、**受験生としての「あり方」**です。

「あり方」とは、勉強に取り組む姿勢や、情熱、本気度、覚悟、生き様のことです。

たとえば、スポーツでも、音楽でも、どんな分野でも、上達するための「やり方」を知るのとは簡単です。プロになるまで、何歳の時から、どんな練習メニューを、一日何時間こなしてきたとか。

でも、その「やり方」を知ったからといって、誰もが同じようにプロになれるでしょうか？
普通は、なれませんよね。

それは受験生でも同じなのです。

“あり方”で差をつけたいと
受験には勝てない!



合格する人、できない人、最大の違いは？

たとえば、東大合格者と同じ参考書を使い、同じカリキュラムで勉強を進めて、ソックリそのまま真似しても、同じ結果になるとは限りません。

理由はかんたんです。

その人たちが成功した背景には、想像を絶するような努力や、人並み外れた情熱や覚悟によって、幾度となく**限界を超えた経験**があるからです。

そして、遊び、恋愛、趣味、家族の団欒だんらんなど、多くの人が経験するような、さやかな幸せと引き換えに、その類まれなる才能が得られたのです。

では、自分の限界を超えられた人は、どうしてそんなに努力できたのか？
その熱意や覚悟は、どこから生まれたのか？

その「あり方」にこそ、大逆転合格の秘密が隠されています。

それなのに世間では、「こうすればラクして成績が上がりますよ」という「やり方」ばかりに注目が集まり、「あり方」の大切さを、誰も教えてはくれないのです。

人は焦って不安になるほど、目先のものに飛びつきます。
そして、裏ワザ的な「やり方」の情報に踊らされるのです。

受験生が「やり方」ばかりを求めるものですから、当然ながら、YouTubeも、書店にならぶ本も、そのニーズに答えるように、方法論、ノウハウ、テクニック、術ばかりに偏ってしまうのです。

しかし実際のところ、受験生が苦しんでいることは、

- ・努力が大事という、あたり前のことがわかってはいるけど、努力できない
- ・勉強のやり方はわかってても、ヤル気や集中力が続かない
- ・そもそも、何のために勉強しているのか、わからない
- ・まわりのデキる受験生と自分を比べてしまつて、自信がもてない

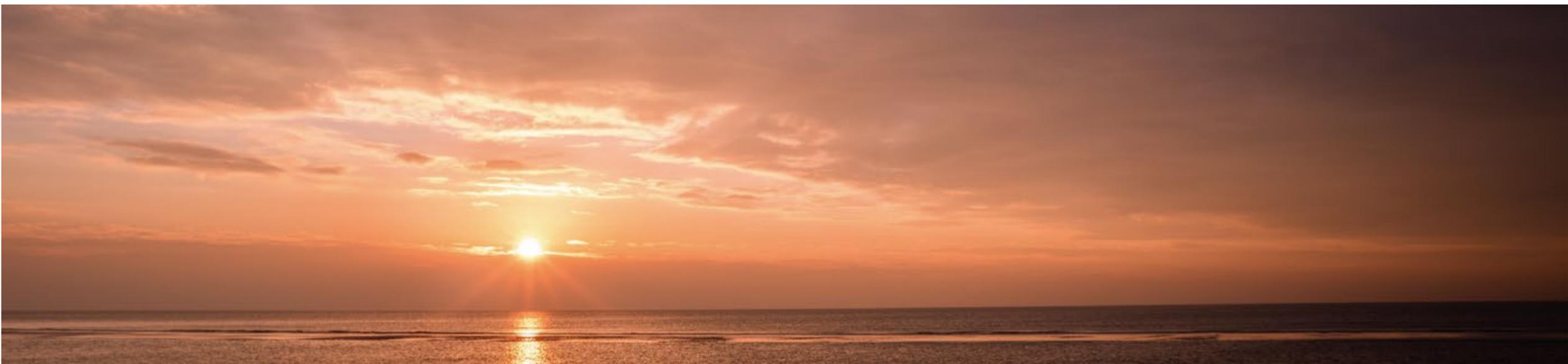
そういった、「やり方」**以前の問題**ではないのでしょうか？
つまり、何度も言うように「あり方」の問題なのです。

単なる「やり方」とどまらず、限界を超えられる受験生の「あり方」を、あなたに会得してもらうことが、この『合格体験記』の目的です。

これまで不可能と思えるような逆転合格を果たしてきた、当塾卒業生のエピソードの数々は、読むだけで、熱さが伝わってきて、きっと、あなたの内側からも勇気が湧いてくるはず。

そのエネルギーを、あなたの合格に変えましょう。

ぜひ、受験生としての「あり方」を学ぶつもりで読み進めてみてください。



えええ!? この量をひたすらひく。

「どうすれば、合格できますか?」

入塾説明でそう聞かれたとき、防衛医科大学校(医学部)に合格した卒業生・永井くんが使っていた教材を見せます。

すると、みんな言葉を失います。

もはや「やり方」うんぬんではなく、「あり方が変わらなければ、この域に達することはできない」と、誰もが一目でわかるのです。日本中を探しても、これほど熱心に勉強した受験生はいらぬだろうか?

真剣にそう思うほど、彼の本気度は常識破りでした。

そして、難関の防衛医科大学校、国立医学部、私立医学部に、ことごとく合格したのです。

なぜ彼は、その「あり方」に目覚めたのか?

もともと、彼が特殊な受験生だったわけではありません。それどころか、入塾したての頃は、むしろ目立たない生徒でした。受験のプレッシャーを感じつつも、本気になれず、煮え切らない表情をした、どこにでもいるような浪人生。そこからのスタートだったのです。

中には、

「こんな量、才能ないとムリですよ…」

「やっぱり、もともとの性格の違いでしょ…」

なんて言う生徒もいます。

けれど、そういう目線で見えしまうと、何も学べません。

彼の輝かしい部分だけではなく、臆病な自分、情けない自分、恥ずかしい自分からの、変化の歴史が記された体験記から、ぜひ合格する受験生の「あり方」を感じとってみてください。

格好いい部分だけでなく、泥くさい部分も、包み隠さず本音で書いてくれた、貴重な体験記です。

永井くんが卒業時に「今後の受験生の参考になれば」と、託してくれた置き土産です。すべての教材が、使い込まれてポロポロ。ひとりの人間が一年間でこなしたとは、とうてい思えない、圧倒的な冊数。その中身を見ると、全ページに、びっしりと書きこみがあり、さらに驚きます。





この勉強法は
まるで魔法のようだった。
一年で、別人になれた。

あの一冊の本に、運命を感じた

かつての僕は、医学部に幻想を持っていました。「きっと合格する人は、すごい人ばかりなんだろうな…」と。けれど、いざ自分がその立場に立ったとき、できていないことは山ほどありました。朝はよく寝坊するし、入試には遅れそうになるし、試験会場に着くまでに必ず一度は道に迷うし…、ほんとうにあげればキリがないくらいです。それでも、合格できました。

大切なことは、本番で実力を出しきることに。自分に不完全なところがあっても、そのこと自体を受け止めて、学んでいけることだと思います。

僕は今まで生きてきて、「永井くんなら、できるでしょ。大丈夫だよ」と、できる人みたいな枠にあてはめられてきました。一見したら肯定されているようだけれど、僕はそれが苦しかったんです。「本当は、そんなじゃないのに…」そんな気持ちをわかってくれる人はいなくて、次第に、自分の殻にとじこもっていくようになりました。ひとりになるとき以外は、いい子ちゃ

たわけではありません。

「もう逃げよう」
「来ない方がよかったかも」
「なんで医学部なんか、目指したんやろう」
とか、もう何度、思ったことか。
僕には、勉強方法うんぬん以前に、乗り越えるべき問題がありました。いや、これは僕だけではなく、だれでもいつか迎える壁なのかもしれません。

“心に穴があいたような感じで、何をしても満たされない…”

現役生の時は、それを紛らわせるように、暴飲暴食することも多々ありました。たとえば、チョコレートやスナック菓子の大袋を買ってきて、一人で1日のうちにぜんぶ、食べてしまう。正直、自分でもあきれるぐらい、変な食べ方をしていました。それで、あとで気持ち悪くなる。

「ああ、オレもうアカンわ…、終わりや。わかってくれる人なんて、いるわけないし、一人で苦しんだらいいんや…」

中毒みたいになって、そんな自分がどんどん嫌いになりました。なにを隠そう、入塾したときも、まだそれは残っていました。

でも、塾の食堂「ゆにわ」で食事をいただくようになり、その習慣が少しずつなくなっていくと、夜食の量に反比例して、成績は右肩あがりになりました。心が軽くなっていくのを感じました。

ん”を演じていました。

自分の欠点を見られるのがイヤだから、発言を避けて、遊びに誘われても断る。

本心で付き合える人は、いませんでした。

当然ながら、モチベーションはあがるわけもなく、現役の時センター試験72%で医学部は断念。

『限界突破勉強法』を読み、ミスターステップアップのことを知ったのは、ちょうど、そんなときです。

この塾には、E判定にも関わらず、志望校に合格したという、ものすごい話がたくさんあることを知りました。「すごいなあ〜。でも、ホンマにそんなこと、起こるんかなあ？」

心の中で疑いつつも、どこか、この勉強法に憧れている自分がいました。さんざん迷いましたが、今年も中途半端な気持ちで終わったら、一生後悔する。

そう思い、ミスターステップアップの入塾説明に足を運んでみました。

そこで聞いた話で、僕は変わりました。

それまでの自分の勉強の甘さ、効率の悪さを痛感。

同時に、「ここなら、できるかもしれない!」と思えたのです。

そして、入塾を決意しました。

心にあいた穴

ミスターステップアップに入塾してからも、すべて順風満帆にうまくいっ

脳内クリーニングをする方法

頭の中がモヤモヤして、勉強に集中できないときの対処法も教わりました。

悩みや妄想を紙に書き出す「ブレインエネマ」という方法です。

頭の中だけで考えていると、ゴチャゴチャして無限にあるように思えた悩みも、いざ書き出してみると、数限りあるものだとわかり、「なんだ、たいしたことないじゃん」と思えました。

先生に相談してスッキリするのもいいですが、四六時中、先生のお世話になるわけにはいきませんから、紙を相談役にして、自分で解決しようと思ったのです。

そして、いざというときには、思い切って先生に相談しました。

「こんなしょうもないこと、相談していいのかな」とか、思うこともありましたが、でも、話し終わった後は、いつも気分爽快で、思いきって打ち明けて、本当によかったと思えました。

はじめは勇気がいりましたが、最終的には、ここでは書けないような恥ずかしいことでも、悩みを打ち明けました。ちゃんと先生は、受け止めてくれました。

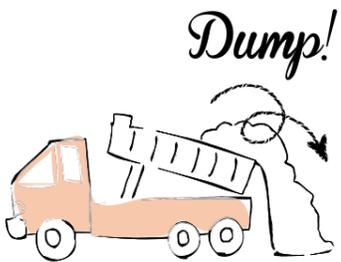
時には夜中まで、相談にのっていただいたことも。

自分にダメなところがあっても、諦めたり、隠したりせず、ちゃんと向きあえば、いずれ出口が見えることを知りました。

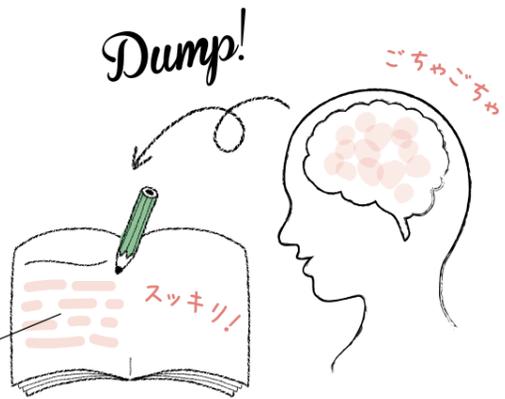
Brain enema
ブレインエネマ
脳内浣腸

ブレインエネマ（脳内浣腸）とは、脳の中身をすべて『吐き出す』行為のこと。つまり、あなたの思考を紙に書き出すことをいいます。

思考や感情のゴミを捨てて脳内の大掃除をすることで、おどろくほど頭が冴えて回転が速くなる。



- 書き出す内容
- ・やりたいこと
 - ・やるべきこと
 - ・実現したい夢
 - ・悩んでいること
 - ・もやもやすること
 - ・・・・etc



とにかくアタマの中が空っぽになるまで考え込まずに、出して、出して、出し尽くすことがポイント!

自分をFAKEして潜在意識の使い手になる

新しいことを学ぶために大事なものは、たとえ今、できなくても、できるかのようにならなければならない。まず解答を書き出すところからのスタートでした。

FAKEとは、「見せかける、でっちあげる」という意味です。

僕の場合、ずっと物理に苦手意識がありました。でも、入試に必要なことから、なんとかしなくてはならない。まず解答を書き出すところからのスタートでした。

その時に、「写しただけだから、実力じゃない」なんて、ゆめゆめ思うなかれ。自分の中で100%「できた!」と思いつくことが重要です。

僕は嘘だろうが、なんだろうが、ありとあらゆる問題に対して、さっぱりわからなくても、「できた!」、「解けた!」と、ノートや参考書に書きまくりました。

「やべえ!自分、入試で満点とっしょうた!」と、口に出して、一人で言ってみることもありました。そうすることで、自分の潜在意識に言い聞かせたのです。

自分の中で嘘をつく分には、誰にも迷惑はかけない。でも、嘘で終わらせるつもりは、ありませんでした。そのように書いておきながら、先生には質問をし続けました。納得がいくまで、しつこく、しつこく。

面白半分、「これはセンターに出る!」とか、「防衛医大で狙われる!」と、

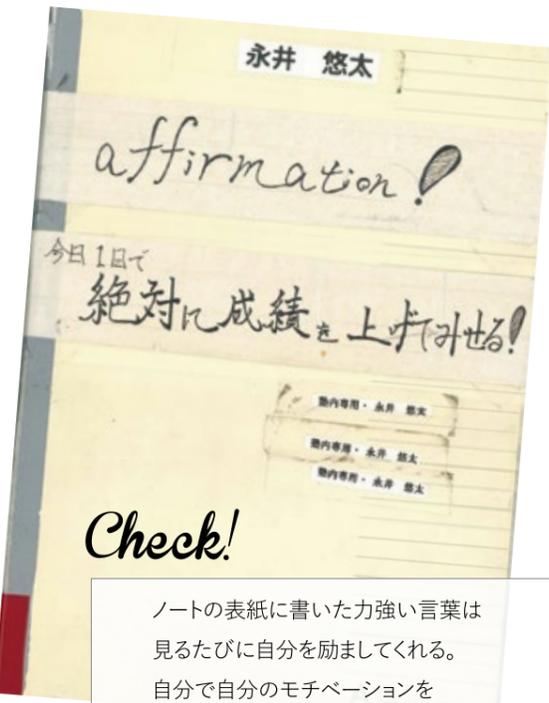
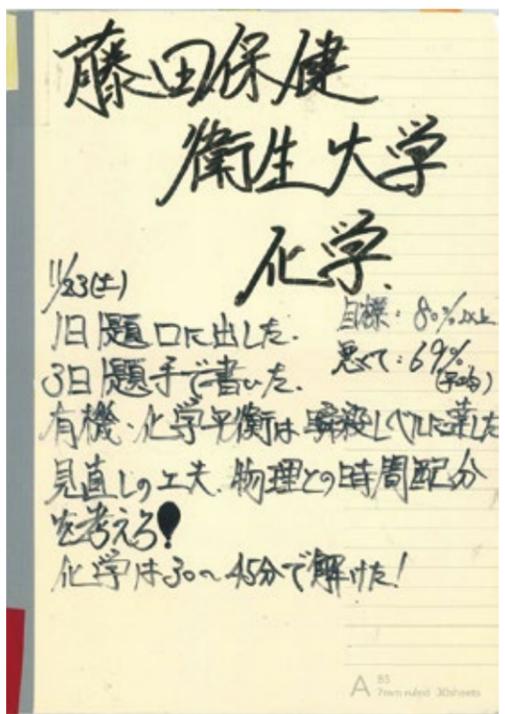
自分の直感で書いた問題が、本当に本番で出題されたのです。

このことが、合格の後押しになりました。

まるで魔法のようですよね。けれど、自分の中では、「ほら、やっぱり」ぐらいの感覚でした。気づけばしぜん、潜在意識の使い手になっていたのです。

Next!

「潜在意識」について次のページで解説します。



Check!

ノートの表紙に書いた力強い言葉は見るたびに自分を励ましてくれる。自分で自分のモチベーションを高められてこそ、上級の受験生だ。

Conscious

10%
顕在意識

- ・短期記憶
- ・思考、判断
- ・願望、悩み

ふだん自覚していて言葉で説明できる、はっきりした意識

Subconscious

90%
潜在意識

- ・長期記憶
- ・習慣、クセ
- ・信念、夢
- ・無意識の行動
- ・偶然を引き寄せる力

自覚しておらず言葉では説明できない、もやもやした意識

long term memory.
habits.
belief systems.
creates dreams.
law of attraction.
seat of psychic abilities.
taps into the collective.

活用するには？ How to Unlock and Use Its Power

潜在意識を活用するコツは、毎日できることを続けること。

- 英文を毎日5分でいいから音読。
- 毎日単語を3個でもいから覚える。
- 数学なら必ず毎日一問、解法を覚える。

このように簡単なこと、楽なことでもいいので、絶対に毎日できることを、毎日、必ず実行する。それにより、潜在意識が味方になっていく。

The subconscious mind is the powerful secondary system that runs everything in your life. Learning how to stimulate the communication between the conscious and the subconscious minds is a powerful tool on the way to success, happiness and riches.

人間の秘めたるパワー

潜在意識とは？

Subconscious Mind Power Explained

アタマでは「あの大学に合格したい！」「勉強しよう！」と思っても、すぐに勉強が手につかなくなる。ヤル気が出ない。集中できない。欲に流される。

そのような経験は、あなたにもありませんか？

その原因は、単にあなたの意志が弱いからではありません。

最大の理由は、あなたの意識のウラに潜む「もう一人のあなた」を、うまく飼いならせていないからなのです。

その「もう一人のあなた」のことを「潜在意識」といいます。

頭で思っていること、つまり、オモテの意識が「顕在意識」。

自覚することができない、ウラの意識が「潜在意識」です。

人の行動のじつに「90%以上」が、潜在意識によって決まると言われています。潜在意識は、顕在意識よりも何十倍、何百倍も影響力があるのです。

この関係は、海に浮かぶ冰山に例えられます。(左図)

日頃の小さな選択も、なにげない表情も、気分の上がり下がりも、行動やしぐさも、好き嫌いも、得意不得意も、すべては潜在意識が決めているのです。つまり、あなたの人生はほとんど潜在意識が決めているということがわかるでしょう。

いくら強がって、「合格するぞー！」と言っているも、潜在意識で「やっぱりダメかも…」とビビっていたら、どんな勝負にも勝てません。

「潜在意識」には、生まれてから現在に至るまでに、見たこと、聞いたこと、あらゆる情報が貯蔵されています。

例えば、口グセで、

「私、数学できないんです」

「国語は、ぜんぜんダメです」

と言い続けていると、潜在意識が「できない」と思い込みます。時間がたてばたつほど、思い込みは深くなり、あなたの才能や能力にブレーキがかかってしまうのです。

逆に、プラスの暗示がかかっている場合は、少々成績が悪かろうが、「やればできる」「必ず合格できる」と信じているので、すぐに挽回できます。

さらに、あなたにとって有利な情報や、タメになる話や、成績アップのコツが、どこからともなくトンドンとあなたの耳に入ってきます。

実際にミスターステップアップでは

・入試の前日に勉強したところが、入試本番で出た！

・夜、夢で見たところが、入試に出た！

・友達と電話で話していたところが、偶然入試に出た！

という、単なる偶然では片づけられないような話が、数えきれないくらいあります。

実は、それらの偶然を引き起こしているのも、潜在意識の秘められたチカラです。

これこそが、当塾でE判定からの大逆転合格が続出する理由なのです。

異次元の速さの「音読」&「セルフレクチャー」

この潜在意識の活用と『限界突破勉強法』の「超・超・超高速学習」が組み合わされば、ほんとうに向かうところ敵なしでした。まず、音読。

勉強の進度に合わせて、オリジナルの音読文をつくりました。それと、とにかく読みました。酸欠に近い状態になるまで。理性がふっとぶくらいまで。ただひたすらに読みました。

その言葉が、自分の中に溶け込んでくるまで、毎日、少しでもいいからやる。ノルマを決めてやる。昨日よりも、かならず一歩進む。音読を人に聞かれたら恥ずかしい、という受験生もいますが、そんな関係ありません。

次第に読むスピードは増して、何を読んでいるのかすら、わからないほど高速になっていきます。まるで念仏です。

気合いをいれるために受験中は坊主頭にしていたこともあり、僕に付いたあだ名は「修行僧」でした。

英語の音読に限らず、どの教科も、とにかく反復しました。「合格可能性は、反復回数に正比例する」

塾で教わった、この言葉に嘘はありませんでした。

最速のときは、数学の『実力アップ問題集』の数学ⅠA、ⅡB、Ⅲの3冊、合計約420題を、あわせて30分で「セルフレクチャー」できました。

「セルフレクチャー」とは、問題を見て解き方を口に出して説明する高速学習法です。

速学習法です。

これのおかげで、**頭の回転スピードは恐ろしく速くなりました。**

ページをめくるスピードと、頭のスピードが合わないときもあるほど。

反復練習は7回とかで終わらせずに、100回、200回、1000回、2000回と、反復するとよいと思います。本当に、すばらしい方法ですから。

情報を圧縮する「一元化ノート」

反復の回転数を飛躍的に高めるポイントは、情報の圧縮です。

重要な知識だけを二冊の参考書、一冊のノート、一枚の紙に、集めていくのです。先生から、これを教わったときは、けっこむつかしいな、と思いました。けれどコツをつかむと、勉強がますますスムーズに進むようになりました。

知らない情報に出会ったら、その都度、参考書に書き加えていきます。それと同時に、できるようになった問題は反復回数を減らしていく。それを、日夜くり返し、反復の能率を高め続けました。

特に、**集めるべき情報は、自分の弱点。**つまり、ミスした問題です。

ミスしたとき、止まったときは、何が足りていないということ。じゃあ、なぜ解けなかったのか。それを徹底的に追求しました。

この勉強法に出会う前は、「ミスした」と反省するだけで終わってしまふことがありましたが、そのときは案の定、また同じミスをしました。しかし、ちゃんと原因を分析するようになってからは、ミスが急激に減りました。

Point!

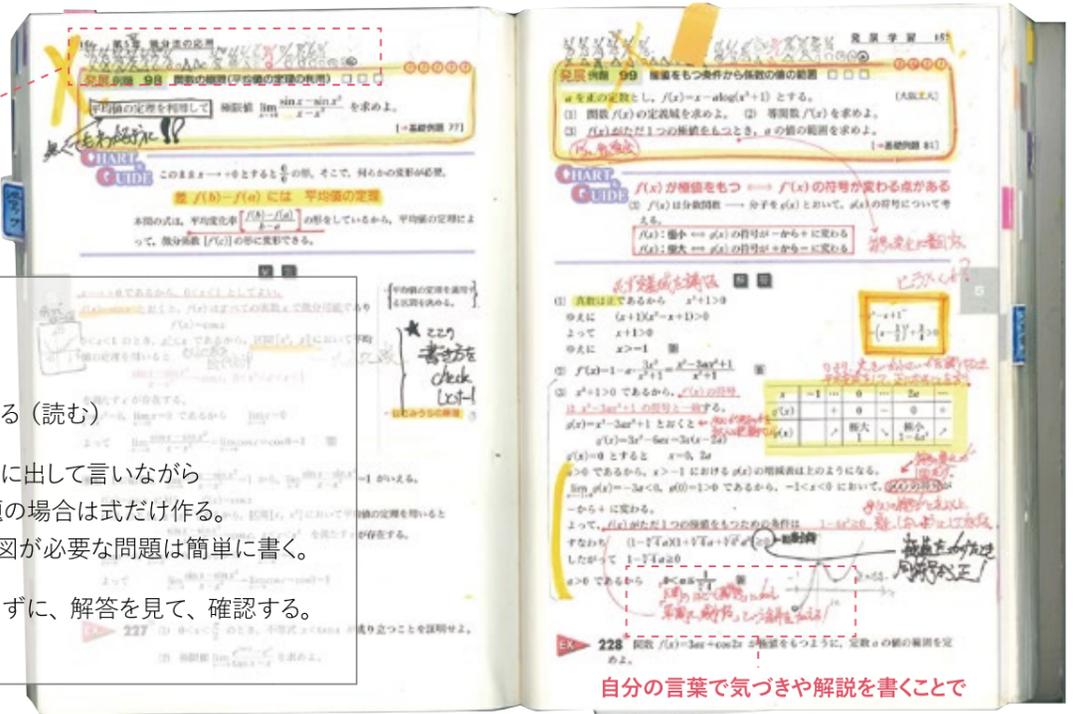
- 印をつけて問題を仕分けする
- ◎ 完ぺき
 - できる、覚えている
 - △ わかるけど、できない、覚えていない
 - × わからない

Self lecture セルフレクチャー

手を動かして一つひとつ解法を書いて勉強するのではなく、声に出して解法を読み上げていく高速学習法。

『白チャート』すべての問題を20回以上反復している。

- ### やり方
- 1 問題を見る(読む)
 - 2 解法を口に出して言いながら計算問題の場合は式だけ作る。グラフや図が必要な問題は簡単に書く。
 - 3 式は解かずに、解答を見て、確認する。



自分の言葉で気づきや解説を書くことで記憶に定着しやすくなる。

Summary Notes 一元化ノート

ふだんから「できる問題」と「できない問題」を仕分けしていく。そして広大な受験の範囲から、できないところだけを集めていく。終盤になると、だんだんとエッセンスだけが凝縮されてノートの見開き1ページにまとまるようになる。あとはその濃密なオリジナル教材を反復すれば、無敵になる。



大ききなようですが、これは自分の中での「革命」でした。そうやって、参考書からミスしたところだけを、コピーして切り貼りしたり、書き写したりして、**濃縮したオリジナルの「二元化ノート」**を何冊もつくりました。ぜんぶ、見開き二ページにおさめました。ちいさな文字で、ページいっぱい、びっしりと書きました。「センター数学5年分なんて、見開き一ページにおさまらないんじゃないの?」と思うかもしれませんが、大問一つに対して書いているのはせいぜい1〜2行だけです。

けれど、何度も何度も反復した問題ですから、それを見るだけで、どんな問題だったか? 解法のポイントは? どの公式が必要か? 計算のプロセスは?

それらが瞬間的に解凍されて、頭の中でセルフレクチャーすることができました。これが、いかにすごいことか。

そのページを開けて、**ざっと5分見るだけで、「はい! センター5年分の復習完了!」**というおそろのべき芸当が、誰にでもできるようになるのですから。これで成績が上がらないはずがありません。

1冊のノートだけで、大学受験の全範囲を空中散歩しているようでした。負ける気がしませんでした。

このようにして、ただぼんやりと反復するのではなく、昨日より今日、今日より明日と、妥協なく反復の密度を濃くしていけば、やがて能力の限界にまで迫ることができるのです。

いつでもベストを尽くすための魔法

最後にひとつ、試験本番でベストを尽くすための魔法をお伝えしたいと思います。これこそが、もともとプレッシャーに弱かった僕が、合格を手にできた一番の秘訣かもしれません。

それは、「**他人の幸せを願う**」ということ。

僕はどんなテストでも、「この試験会場にいる人が、**ベストを尽くせますように**」と願っていました。宮崎大学医学部を受験した日も、宮崎観光ホテルでこのセリフを書いたメモが、今も残っています。

普通の人からすれば、意味がわからないことだと思えます。けれど、これこそが潜在意識、無意識を味方につける方法だと教わったのです。

ある時、有名なプロゴルファー、タイガー・ウッズの話を、柏村先生から聞かせてもらいました。

あるトーナメントの最終ホール。ライバルがパットを外せば、ウッズの優勝が決まるシーンがありました。普通ならば、「入るな!」と願うところでしょう。

しかし、**ウッズは相手のパットを「入れ!」と願うのです。**

結果は、ライバルがパットをミスしてしまい、ウッズの優勝となりました。どうして、ウッズはそのように願ったのか?

相手の失敗を願うということは、「**相手が失敗しないと、自分は勝てない**」という意識の表れであり、それだけ自分に「**自信が無い**」ということを証明しているようなものだからです。

相手の成功を願うことは、最高の自分であるための方法でもあったのです。



タイガー・ウッズ
Eldrick Tiger Woods

ゴルフ史に残る数々の偉業を成し遂げた、天才プロゴルファー。歴代2位のメジャー選手権優勝15回、史上2人目のトリプルグランドスラム達成、生涯獲得賞金額1億ドルを突破し歴代1位。

Genius mind
天才マインド

Question

相手がパットを外せば
自分の優勝が決まる場面

あなただったらどんな気持ちで
相手のパッティングを見守りますか?

2005年のアメリカンエクスプレス選手権最終日のプレーオフでの出来事でした。相手がパットを外せば自分の優勝が決まる場面。タイガー・ウッズは、この時、本気で「入れ」と相手のパットが入ることを祈ったそうです。

Point!

模試や過去問は、復習してこそ意味がある。実際に解く中で見えてきた弱点、やってしまいがちなミスをしっかりまとめて、確実に対策をしていくことで学力に差がつく。最終的に志望校の過去問は、試験時間の半分で満点がとれるくらいまで、問題、正解、解法を頭にたたきこもう。

このタイガー・ウッズの話は、受験でも同じです。周りの受験生に対して「周りみんな失敗すればいい」と考えるのは、いかにもセルフイメージ(自分への評価)が低い人のやることです。

だから僕は、「みんながベストを尽くせますように」と願っていました。すると自分自身も、自然体で試験に臨むことができたのです。

逆に、それまで自分のことだけを考えて、「とにかく合格できれば…」と受けた試験には、見事に落ちてきました。

皮肉ですが、きっと自己の願いだけにフォーカスしていると、無意識からの応援が受けられないのでしょうか。

僕は、たくさんの方から応援してもらったおかげで、医学部に合格することができました。

ほんとうに、幸せものです。もう、感謝しかありません。

僕の心にぽっかりと空いた「穴」は、いくら「埋めよう、埋めよう」としても、埋まりませんでした。まるで、底なし沼のように思えました。

でも、そんな「穴」のことなんて忘れてしまうくらい、自分を逃げられない状況に追いこんで、毎日毎日、死ぬほど反復練習しました。将来、自分が医者になつたとき、助けを求める「だれか」のために。

その思いが極まって、忘我の境地に至ったら、もう、「穴」は消えていたのです。それが僕の、一年間でした。

この一年で、僕は変わりました。

僕はきっと、世の中を明るく変えていくことができる。

みんなのためなら、なんでもできそうな気がする。

そう思えるようになりました。

ほんとうに、ありがとうございます。

熟選びにおいては、「合格実績」を一つの判断材料にされる方は多いでしょう。

しかし、あの手この手(※)を使って、合格者数、合格率を水増しするのが受験業界では常識です。

ですから、ハッキリと申し上げますが、そうした宣伝文句(数字)だけを鵜呑みにして、塾・予備校をお選びになつても、同じ結果が得られるとは限りません。

そもそも、みんなスタートの条件が違うのです。結果だけを見比べても、本質を見失います。

「本質とは、受験生のひとりひとりが、どれくらいのレベルや状況から受験勉強をスタートして、どのように勉強し、どうやって弱点を克服し、いかに成績を伸ばしていったか、という過程であり、物語です。」

Legend is born

実績よりも

塾・予備校の合格実績に真実はない
数字には表れない本質を見てほしい

伝説を残せ

受験は人生の縮図である。大学受験を通して、自分の限界を超えたこと。弱点を克服したこと。すべてが後の人生を支えてくれる。だから、せっかく受験勉強をするからには、人に一生語って聞かせられるくらいの「伝説」を作れ。それがミスターステップアップの哲学です。

当塾に、入塾テストはありません。入塾条件は、「合格したい」、「自分を変えたい」というあなたの意思だけです。あなたの意思で、ここに来れば、必ず別人のように変われます。

「そう言われても、ほんとかなあ…」とお思いかもしれませんが、この後に続く、合格体験記を読んでもいただければ、きっとわかります。ミスターステップアップで、数々の奇跡が生まれてきた、その理由が――。



It is invaluable



Check out!

永井くんが受験時代のことを語ってくれた動画はYouTubeで見ることができます。



卒業後も、定期的にもミスターステップアップに顔を出して勉強に励む受験生たちを応援してくれています。



(※)合格実績を高めるために、有名予備校は入塾時から優秀な生徒をかき集めます。さらに、模試や授業に一回出席しただけなのに、合格者にカウントして人数を稼いだり、優秀な受験生が、一人でいくつもの大学に合格したら、それらすべて合格実績に加えて合格率を水増ししたり。そのような工作(インチキ)が平気でまかり通る世界なのです。

どんな逆境も楽しめるようになった。

この一年は、最高だった。



退屈な毎日を抜け出す

僕はもともと、ビビリだった。でも今は、みんなから「チャレンジだね」って言われる。なにが僕を変えたのか？

そう、大学受験をとおして、僕は生まれ変わった。

高校生の頃は、雲のうへの遙か彼方にあると思っていた、京都大学の最難関・理学部合格を果たした時から。いや、正確に言えば、浪人を決めた時から、僕は別人になっていたのかもしれない。それぐら

い、ここでの受験生活は僕にとってはおおきな経験だったから。

受験も人生も、チャレンジを忘れた時から、つまらなくなると思う。僕の受験生活は、本当に挑戦の日々だった。一日も、息をつく間がなかった。もちろん、そんな濃密な日々を送ることができたのは、勉強だけに没入没頭できる、最高の受験環境を与えてもらったからだ。

もともと僕は、関西の有名大学の附属高校に通っていた。ほとんどの生徒は、内部進学。勉強しなくても、卒業さえできれば一流大学にエスカレーター式に進めるのだから、そのおいしい環境に甘んじている。

僕は、そんなメンツに囲まれた高校生活が退屈だった。勉強なんて、つまらない。やる気がしない。ただ毎日、部活に明け暮れていた。

でも、高校3年生になり、このまま内部進学しても、おもしろくない。かといって勉強するのはもっとイヤだ…。

そんな時、ある一冊の本のことを思い出した。高校一年生のときに書店でたまたま見つけた『大逆転勉強法』だった。

その本を読むと、不思議な感覚になった。勉強する気が起きない時も、読むとやる気が湧いてくる。

どうせ受験勉強をするなら、この「ミスターステップアップ」って塾に行ってみよう。そんな気持ちで、日に日に募っていった。

いよいよ火がついた

意を決して、親に気持ちを打ち明けたら案外すんなり、OKしてくれた。

やった！これで、入塾できる！

実際にミスターステップアップに足を運んでみると、僕のイメージを超える空間が用意されていた。

僕の直感は、正しかった。

365日、24時間、自分専用の自習机。

しかも早朝から夜遅くまで、ずっと使えるのがありがたい。

塾内はいつも、すみずみまで掃除されていて、これまで何人も受験生が戦ってきた歴史を感じるのに、いつも空気は新鮮だった。

塾の食堂「ゆにわ」の食事も、食べたことがないくらいおいしい。スタッフの方々も、み



んなやさしくて、笑顔がキレイだった。

そして、頼もしい村田先生、柏村先生。

こんな恵まれた環境でやるからには、誰にも負けたくない。もう、本気になるしかない。もともと、負けず嫌いの性格に、火がついた。

先生方に、合格までの道すじを立ててもらい、僕の受験勉強がはじまった。本当にゼロからの戦いだった。とにかく、猛烈に勉強した。

自分を高めることだけに、こんなに集中できる時なんて、今しかない。みるみる成績は伸びて、同志社大学や、大阪府立大学に現役合格した。

親も、友達も、周りみんな、おどろいていた。でも、僕は不満だった。結果への不満じゃない。まだ、限界を超えていない自分への憤りだった。

僕は、親と先生に、泣きながら頼んだ。「自分はまだ、限界じゃない。あと一年！あと一年あれば、もっと上を目指せる気がする。だから、どうかやらせてください！お願いしますー！」

こんなに本気で、人に頭をさげたのは、人生ではじめての経験だった。

浪人したからといって、だれでも必ず成績が伸びるわけじゃない。現役のところより、モチベーション維持もずっと難しい。

そのことは知っていた。でも、いちど火がついた思えば、止まらなかった。

「あとで後悔するかもしれないよ？」そう言われても、挑戦せずに後悔するより、後悔のないところまで挑戦したかった。

僕の思いを汲みとってくれた親と先生は、浪人を許可してくれた。ただし、勝負はこの一年しかない。自分でもそれはわかっていて。

そして浪人すると同時に、僕は「限界突破コース」に移った。さらに親元を離れて、塾から徒歩1分のところに部屋を借りた。

宣言文で迷いを消す

はじめに、先生に呼ばれて、「一緒に」宣言文をつくった。

それを、毎朝、欠かさず声に出して読んだ。まるで、覚悟を試す儀式のようだった。「合格できるか、できないか…」という迷いは消えて、「合格する」という意志しかなかった。

Point 古市くんが実際に使っていた「宣言文」を次ページに掲載しています。

凡人と天才のちがいは

この塾で教わったとおり、最終的に勝敗を分けるのは、熱意と根性の差だと思う。どれだけ妥協なく、必死にやれるかどうかで決まる。

あとは、自分の可能性を信じてること。凡人でも、秀才を超えられると、疑われないこと。僕は自分の自習机に、おもしろいものを貼っていた。

そこには、ガリレオ、ニュートン、ボーア、フロイト、アインシュタイン…、だれでも知っているような過去の天才たちの写真を貼った。その中に「自分の写真」も並べて貼って、下にはこう書き加えた。

「日本を変えた天才・古市圭（京都大学・理学部卒）」と。

半分、悪ノリ。でも半分は、マジだった。

I'll become the genius to exceed all geniuses!



過去の天才たちは、自分の手の届かないところにいる存在だ…。もし、そのような思いが、わずかでもあるなら、それこそが、あなたが作りだした「限界」という名の幻想だ。

勉強とはそれを、破壊することだ。

反復スピードの 極限に達する

数学は『合格！実力アップ問題集』（マセマ出版社）を反復していた。IA・II B・IIIの3冊あわせて、入試問題が約420問。はじめは、わからない問題を飛ばしても、一冊あたり一時間以上かかった。でも毎日反復していくと、「一問、また一問と、確実にできる問題が増えていき、夏頃から加速度がついた。最終的には、数学の全範囲を、30分で一巡できるようになった。」

セルフレクチャーして、問題を見た瞬間、ひとりごちのように解答を言う。1問あたり約5秒。隣で聞いていても、早すぎて何を言っているかわからないと思う。でも、頭の中ではちゃんと数式が動いていた。



中盤から終盤に最適なテキスト。オーソドックスな問題が網羅されていて、難関大のためのバイブル本になる。

「なんとなく」で 終わらせるな

もちろん、自分ひとりでは超えられない壁もたくさんあった。

数学と理科は、もともと好きな教科だっただけに、はじめは「なんとなく」の感覚で解いてしまっていたことがわかった。…というより、村田先生が、見事にそれを見ぬいてくれた。

「だから、点がとれる時、とれない時の浮き沈みがあったんだ！」

その原因がわかったのは、すごい発見だった。どの教科も、「なぜこの問題は、この解法で解くのか」という必然性を考えることが大切だと知った。

どんな秀才でも、どこかで成績が伸びなくなる時期を迎える。それは、センスや才能にまかせて「なんとなく」問題を解いているからだ。

僕はもともと、秀才じゃない。だからこそ、自分の弱点をひとつひとつ、徹底的に追いつめて、つぎつぎと作業を大事にした。

その努力の甲斐あって、京都大学の入試本番ですら「この解き方で100%間違いない」と自信をもって解けるようになった。

覇気をまとう受験生に

それから、1日15時間以上、自習机にはりついた。たまに、ごはんを食べるのも忘れてしまうほど、集中できた。こうなると、ほかの受験生も、気安く話しかけてこなくなかった。

よく「勉強する気持ちはあるけど、友達から話しかけられて、邪魔されるんです」と相談している受験生がいたけれど、気迫で追い返せば、しぜんに話しかけられなくなる。

これはノウハウじゃない。気迫の問題だ。

勉強は日増しに、勢いづいた。自分の苦手分野、できない問題は、徹底的に追い詰めていった。



合格よりも価値の あることを見つける

それでも正直、入試本番の一週間前ともなると、緊張で食事もう通らなかつた。

積み重ねてきたものが大きかっただけに、怖かった。それが崩れたら、どうなるのか。でも、ゆにわのごはんを目の前になると、やっぱり食べることができた。だって、おいしいんだから、仕方ない。そして、食べるとうんわり、安心感に包まれた。

僕は最後の最後まで、信じる事ができた。自分の可能性と、この勉強法を。そのギリギリのところを支えてくれたのは、講師とスタッフの皆さんだった。

受験当日の朝、日が昇る前からお弁当を用意してくれて、全員であたたかく見送ってくれた時は、しょーじき涙が出そうだった。でも、泣いている場合じゃない。これから、戦に出るんだ。あの応援は、本当に頼もしかった。受験会場についても、まるで自分のまわりだけ光に包まれていて、守られているように感じた。

本当に、ありがとうございます。絶対に、自分なら大丈夫だ。その安心感のおかげで、これまでの努力のすべてを、出しきることができた。

京都大学・理学部合格。



Point

一元化ノート

情報は圧縮することが大事だと教わり自分の弱点を、一冊のノートにまとめた。全教科まとめて、一冊にまとめるのがコツ。どんなに、自分の弱点がその一冊の中に集まっていくな。まるで、何百時間、何千時間という勉強の歴史が、すべて凝縮されていくようだった。

ノートを開いただけで、英語の全範囲、数学の全範囲、過去問のすべてを見渡せるのだから、まるで仙人にでもなったような気分だった。その1ページから思考を派生させたら、すべて思いつくことができた。

これは、すごい。これが天才の考え方なのか！僕はこのノートを一日中、肌身はなさず近くにおいて、ひたすら反復した。お守りであり、頼もしい相棒だった。

もはやこうなっていると、勉強している時間と、そうでない時間の境目すらわからなくなっていた。それくらい、受験勉強と一体化していた。

突き抜けた先に 見たこともない景色が見える

こんな受験生は少ないのかもしれないけれど、合格通知を見ても、飛び上がるような喜びはなかった。それよりも、一年間の受験生活で経験した充実感のほうが、勝っていたから。自分にとっては、そちらの方が価値があった。今までの人生の中でも、ダントツに濃い時間を経験させてもらった。

これで、「あともう一年やりたい」なんて言ったら、さすがに親も先生も、ぶったまげたと思うけれど（笑）、さすがにそれはしなかった。もう、悔いはなかったから。

高校生までの僕は、いつもなにかに怯えていた。入試どころか学校の定期テストですら、緊張して夜眠れなかった。試合の前は、食欲がなくなつて、なにも食べられなかった。ずっと、失敗するのが怖かったんだと思う。

でも、ミスターステップアップで学んで、失敗することよりも、なにも挑戦せず、悔いだけを残すことの方が、ずっと怖いっていうことを教えてもらった。それ以来、どんな壁があらわれても、どんな試験があっても、僕の人生は喜びでいっぱいになった。いや…むしろ、壁や試験があるから、本当のしあわせに出会えるのだと知った。

僕の受験生活は、最高だった。あなたにも限界の向こう側を、見てほしい。

何に対しても冷めていた。そんな自分が、受験を通して熱い生き方ができるようになりました！

Congratulations!
もり ゆうき
森勇樹

神戸大学(医学部医学科)



**本気でやるなんて、
ダサイと思ってた**

もともと僕は、人生の中で、何かに対して本気で努力することを「ダサイ」と思っていました。たとえ懸命に頑張ったとしても、結果が出ないのを見ると、努力しても意味がないとすら思うくらいでした。

当然、部活も人間関係も、中途半端。「長い物には巻かれる」の精神で、親や学校の先生といった、目上の人の言うことを鵜呑みにして、自分の気持ちよりも、周りの期待に応えることばかりしてきました。

そうやって、常に周りの目を気にして、嫌われないようにと空気を読んでいた僕の口癖は、「そうっすね」という、相手の話に同意するだけの言葉。

誰かと違う意見を述べることは、恐怖しかありませんでした。しかし、入塾してすぐに、村田先生はそんな僕の弱点を見抜き、「今年の課題は、『脱い子ちゃん』だね」と言ってくれたのです。今まで、自分がいい子ちゃんなんだ

と気づいてなかったもので、(え、僕っていい子ちゃんなんだ)と、内心驚きました。

村田先生が、自分ではよく分からなかった息苦しさの原因を見抜いてくださった、フツと気持ちが軽くなり、一気に視界が開けたのを覚えています。

**『言えない』という
ブレーキが外れたとき**

それでも、人の顔を伺ったり、人生に対しても、社会に対しても、どこか冷めた目で見てしまうというクセは、塾に来てなかなか抜けませんでした。

そんな僕に、変化が起きました。それは、弓場さんに本気で怒られた時のことでした。今までだったら、怒られた時は何も言わずに黙ってうなずくだけだったのに、その時は、面と向かって、自分の思っていることを言えたのです。

年上の人に対して自分の意見を言えたのは、生まれて初めてかもしれないというくらい、僕にとっては大きなこ

とでした。

このことは、今でもずっと胸の中に残っています。

弓場さんは、怒ることもなく、僕の話聞いてくれて、「自分の意見を言うてもいいんだ!」と思えました。

それ以降、「目上の人に意見を言えない」というブレーキが外れて、少しずつですが、自分の思っていることを口に出せるようになってきました。

**力が抜けたら、
すごい力が湧いてきた**

受験直前期になって、不安が襲ってきました。

志望していた大学が、国公立医学部だったので、共通テストでコケると、受けられなくなってしまいうからです。加えて、二次でも失敗はできません。

「絶対に失敗できない」という重圧から、腹痛に悩まされ、ごはんもいつもの半分くらいしか食べられなくなってしまいました。

いよいよ神戸大を受験する前日、緊張はピークになっていました。そんな僕に、柏村先生から

「森ぞう(僕のあだ名です)、お前はもう十分やった。いつも通りにやっこい」と言ってお腹をほらしたとき、思わ

ず泣きそうになりました。肩の力がふっと抜けた瞬間でした。

現役の受験では、数学が伸び悩み、それが原因で落ちてしまいました。今年はずっと平常心で試験に臨むことができ、なんと、5問中3完2半という実力以上の結果が出せました。

**講師の先生、仲間とともに
つかんだ合格!**

僕は、自分の弱点と向き合いながら勉強を続けて、なんとか第一志望校に合格できました。

この合格は決して自分一人だけの力とは思いません。講師の先生や、一緒に勉強してきた仲間がいたから頑張れたし、最後まで続けられました。みんなで勝ち取った合格でした。

今までは、「努力なんて無駄だ」とか「この世は才能がすべてだ」とか思っていました。この塾の、どんな状況の人でも決して見捨てないあたたかみに触れて、自分の中の価値観が変わりました。努力している人がかっこいいし、テクニクなどの「やり方」ではなく、どのように受験勉強をする



「これだけやってきたんだから大丈夫だな」と思わせてくれた教材たち。



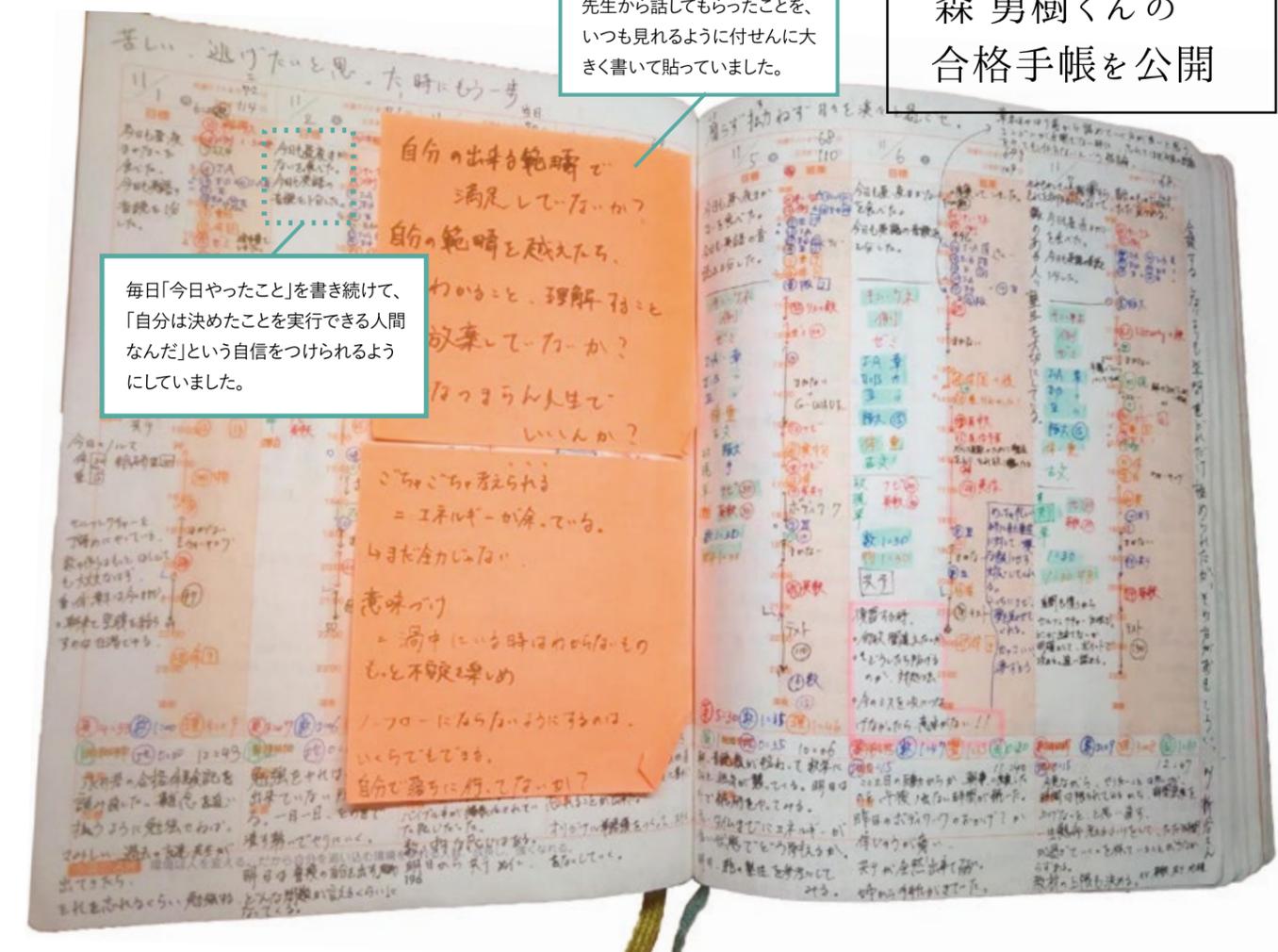
か、といった「あり方」のほうが大切だと分かりました。これからも、塾で学んだ「あり方」を大事にしていきたいと思えます! 未だ見ぬ自分(新しい自分)に会いたいなら、ぜひこの塾で学んでみてください!

pickup

森 勇樹くんの 合格手帳を公開

先生から話してもらったことを、いつも見れるように付せんを大きく書いて貼っていました。

毎日「今日やったこと」を書き続けて、「自分は決めたことを実行できる人間なんだ」という自信をつけられるようにしていました。

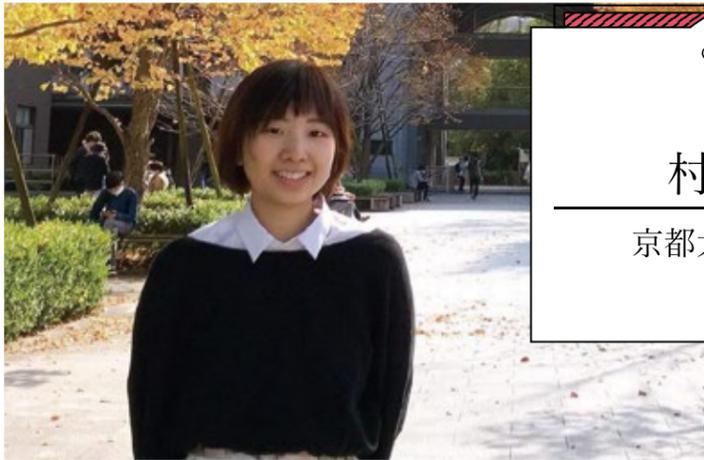


ありのままがいい。イイ子ちゃんをやめたら 感覚が一気に飛躍。



村山由佳

京都大学 (文学部)



私を変えた先生の 意外な一言

私はずっと、自分に嘘をついて生きてきました。子供の頃から、まわりの評価ばかり気にして、本当は文系に行きたいと思っていたのに、学校の先生から「文系より理系の方が就職に有利だから、そっちを目指した方が良い」と言われ、「文系に行ったら、嫌われる」と思い、理系を選択していました。けれど、いつまで経っても、数学の成績が上がらないのです。

京大を目指していたのに、共通テストも、数学II Bはたった30点。京大の過去問には、まったく手が出ませんでした。努力が報われなくて苦しんでいました。そんなある日、私の苦しみを村田先生に打ち明けると、驚くことを言われました。

「良い子ちゃんをやめなさい。君がずっと伸び悩んでいるのは、まわりの目を気にしすぎているからだ。本心を押し込めているうちは、本当のチカラは発揮できな

いよ。」胸にグサツと刺さりました。

先生は続けて「本当は文系に行きたいんでしょ？ なら文転したら良い。心から行きたいと思うところを全力で目指してごらん」と。さらに、「まわりにガツカリされることを恐れてはいけないよ。ここにいる人は、どんな姿を見せても誰もガツカリしない。ダメな部分も、素直に見せてほしい」と言われたのです。

まるで私の心の中を、全て見透かされているかのように。私は嫌われるのが怖く、必死に優等生を演じて、何か聞いてもすぐ分かったフリをしていました。でも、本当は全然分かっていませんでした。私は今まで押し込めていた本心を、泣きながらすべて先生にぶつけました。見ていられないようなひどい顔だったと思います。全てを出し切った時、「先生は私の全てを受け入れてくれた」と思いました。心から安心でき、胸がじわっとあたたかくなりました。「もう何も隠す必要はないんだ」と思った時、身体の奥底からとてつもないパワーが湧いてきました。

数学の感覚が変わったきっかけ

私の数学が一気に飛躍したきっかけは、先生が、実際に数学を初見で解く姿を、真近で見せてくれたことでした。驚いたのは、数学が得意な先生でさえも一発で解けるわけではなかったことです。ペクトルを書き出してみても、解けないとわかったら、方針を方程式に切り替えるのです。試行錯誤する様子を見せてくれて、先生も完璧じゃないと気づき、私の数学の感覚が一気に飛躍したのです。その時の先生の言葉を今も鮮明に覚えています。

「数学が得意な人は、常に色んなアプローチを考える。それらが全てゴールにたどり着けるわけではなく、問題によってどのルートが正解かは違う。たとえ間違ったルートだとしても、どこまで解けて、どこで詰まるのか？ が分かったら、問題の構造が見えてくる。だから他の解法が思いつくだ。

教科書には、このアプローチ法が全く載っていない。すでに答えを知っている人の解説を聞いても見えてこない。だから、実際に難問を前にして、必死に挑戦し、火花を散らしている姿を見て、その空気を感ずるんだ。

数学が得意な人がどんな感覚で解いて

いるのか、独特の呼吸を感じてほしい。試験本番でも、心を落ち着かせて、満点が取れる人の呼吸を真似して解いてみると良い。ゴールまで続く無数の光の道が見えてくる。どの道が、最後まで続く道なのかを見極めるんだ。この世界が見えた時、数学は楽しくなる。思う存分、楽しんでら良い」

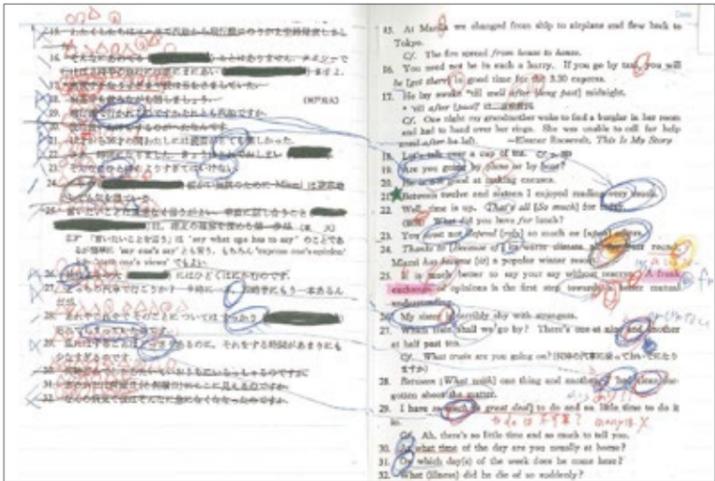
その瞬間、京大数学で満点を取れる人の感覚が分かった気がしたのです。その後、奇跡が起きました。ずっと3割だった数学が、共通テスト数学I Aで87点、II Bで100点を取ることができ、かなり有利になったのです。そして、12月までずっと0点だった二次試験が、5問中4問を完答。最後の最後までできたのです！

受験を終えて

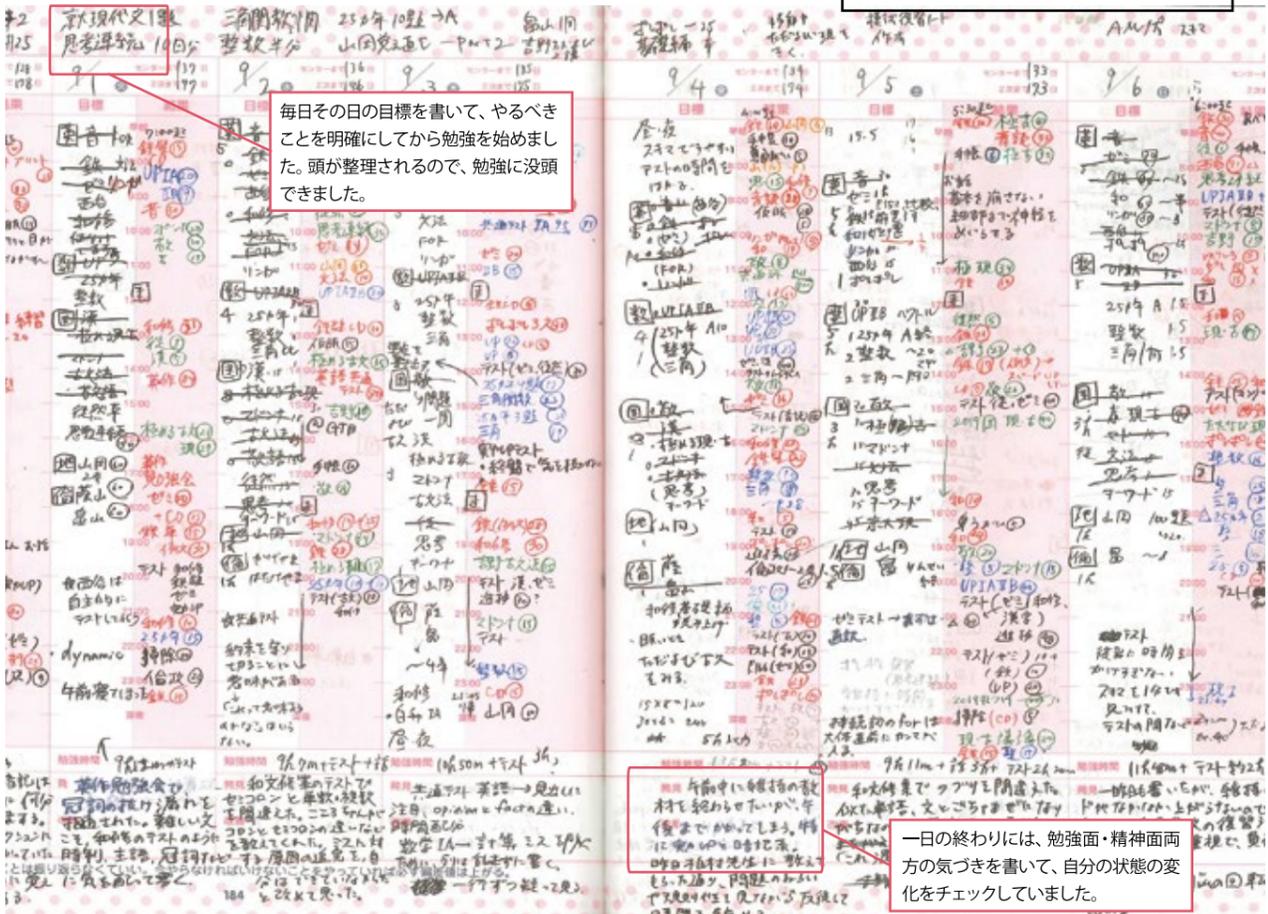
私は子供の頃から、ずっとまわりの目を気にして、本音を言えずに生きてきました。だけど、受験を通して、ありのままの自分を生かされるようになりました。京大に合格できただけじゃなくて、生

き方そのものを変えてくれた塾に、心から感謝しています。人生はいっだって変えられます。どんな人も大逆転できる！ このことを多くの受験生に伝えていきたいと思えます。

pickup 村山由佳さんの合格手帳を公開



参考書の問題と、京大の入試問題の一部が似ていたのを発見したら、必ずチェック。試験本番でどんな問題が出るかアンテナを立てていました。



ぶっとんだ勉強で限界突破！ 京大の英語がカンタンに見えた！



**数学40点の悔しさを噛みしめ
京大へ再挑戦！**

僕は再受験生として、憧れの京都大学へ闘いを挑みました。決して楽な毎日ではありません。特に越えるべき壁は、数学と英語でした。
一浪目の時の京大の数学は、150点中40点でした。基礎知識がつかっておらず、実力が安定しないまま本番に突入してしまっただけです。結果、5問中1問しか完答できず、砂を噛むような思いをしました。

**教材との対話で感覚を高め、
ついに数学8割へ！**

そこで今年は、自分のベースになる教材の知識を、様々な問題に対応できるように、体系的にまとめていきました。さらに鍵となったのは、他の塾生との議論です。難問を考え抜いた塾生同士で、「なぜこの解法で解いたのか?」「他の人と自分の解答では、何が違うのか?」など、各々の疑問をぶつけ合うことで、



教材によっては100回以上
反復したものもありました。

考え方が柔軟になりました。

すると、初見の問題と普段解いてきた問題が「つながっている」ように見えたのです。なぜその解法になるのかが手に取るようになり、議論の途中で全く別の発見をすることがよくありました。得られた感覚を忘れないよう、議論の後は圧倒的な問題量と反復回数をこなし、自分のものにしていきました。

その議論は、教材を相手にも行いました。「この参考書の著者と同じ感覚をつかむには、どうしたらいいのか?」「数学ができる人の感覚って、どんなものなんだろう?」と、教材と対話しながら考え続けたのです。

その効果か、以前の僕は本番で焦ってしまい、実力を発揮できないことが多かったのですが、問題を見てすぐに分からなくても、焦らなくなりました。成績はうなぎ登りで、京大模試の偏差値は75に。そして迎えた本番で、京大数学8割という高得点を叩き出したのです!

京大の英語がカンタンに見えた

英語は得意でしたが、問題を解くときに考え込んでしまつて、余裕を持つて解けないことが続きました。

そんな時、先生から「ある程度の学力を持つ受験生が、さらに突き抜けるためには、少しぶっとんだ勉強が必要だ」という言葉とともに、数冊の教材を渡されました。どれも骨のあるものばかりで、同時に、京大レベル以上の英文を口頭で即時に和訳するという、難易度の高いテストも行いました。

大変でしたが、そのおかげで思考の瞬発力と集中力がつきました。気づけば、京大模試で偏差値72まで上がっていたのです。加えて、辞書ほどの厚さのある「挫折率90%以上」と呼ばれる単語帳を完全に暗記しました。

多義語も全て覚えたおかげで、圧倒的な語彙力がつき、文脈に合わせた訳が可能に。「一般的な大学受験だったら、これくらいの勉強量だね」という枠を超えた、ぶっとんだ勉強を続けたおかげで、終盤には京大の問題がカンタンに見えるようになりました。

**むなしに自分に熱さが宿り、
必死で駆け抜けた日々**

僕は今まで、どこか冷めた、むなしに自分がいることに悩んでいました。「なんのために頑張ったらいんだらう」「もっと人生が面白くならないかな...」そんな、誰にぶつけることもできないようなくすぶった自分の思いに、見事に打ち返してくれたのが、この受験生活でした。

毎日、猛勉強をせざるを得ないので、むなしさを感じるヒマもありませんでした(笑)。ふと虚無感に襲われそうになつても、「参考書の著者の感覚を知りたい」「京大に受かる人の感覚をつかみたい」と思って、前を向き続けました。

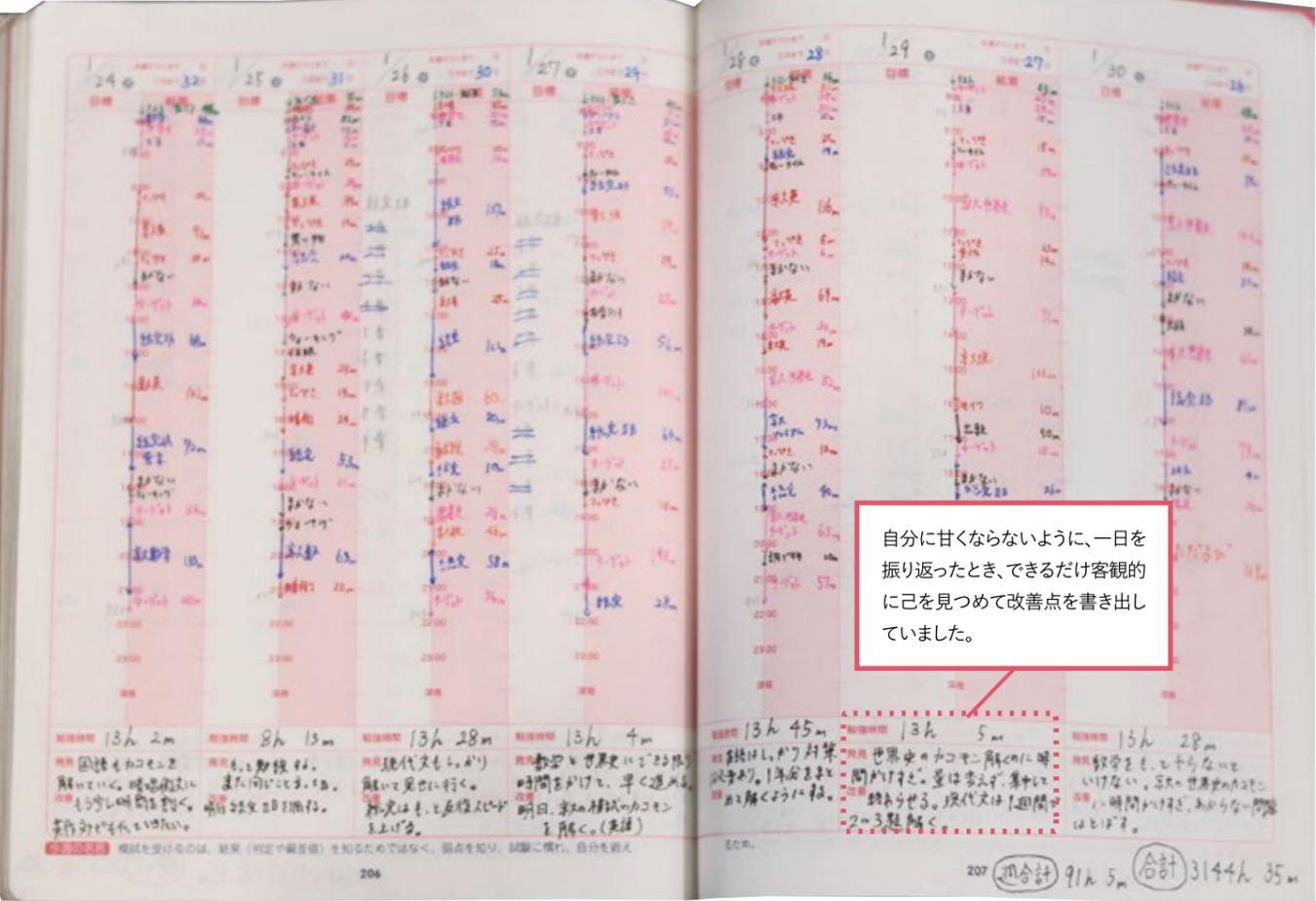
すると、空虚な自分の中に、何か熱い炎が宿ったかのように、もがきながらも駆け抜けることができたのです。
この熱い日々は、僕にとっての一生の宝です。時には挫折し、受験を諦めそうになつたこともありましたが、スタッフの皆様が、時に優しく、時に厳しく、見捨てずに関わってくださり、塾の環境があたたかく僕を受け入れてくれたので、立ち上がって、最後までやり切ることができました。受験を通して、「最高の景色」を見せてもらい、感謝の気持ちいっぱい입니다。

専用の自習机があったので、いつ塾に来てでも集中できる環境が整っていました。

pickup
**杉谷陽希くんの
合格手帳を公開**



合格後に、講師の先生や仲間たちと、受験期にどのように勉強していたかななどの動画を撮りました。



自分に甘くならないように、一日を振り返ったとき、できるだけ客観的に己を見つめて改善点を書き出していました。

多くの人からエネルギーをもらって勉強に没頭！

大切なものは、いつも目の前に。

Congratulations!

うかい まり
鵜飼 真理

京都大学 (文学部)

同志社大学 (文学部)

立命館大学 (文学部)



自分を変えたい一心で入塾

私がこの塾に出会ったのは、高校3年生の11月だった。当時は学校を休んだり、遅刻する日が多く、体調不良のせいにして自分にも他人にも嘘をつく日々を過ごしていた。このままではいけない、自分を変えなければ、と心のどこかで思っていた。あるテレビ番組でミスターステップアップの映像を見たのはそんな時だった。階段で勉強する塾生とおいそうなおにぎりが映っていた。「ここに行きたい!」と思ったのだ。

塾での夢のような時間

入塾してからは驚きの連続だった。自分専用の自習席、いつでも相談できる大学生や先生、おいしいコーヒー、紅茶。何より忘れてはいけないのが毎日のごはんだ。それまでコンビニか外食で食事をすませる

ことが多く、家族の食事というものをあまり経験しなかった。しかしここでは毎日みんなで食卓を囲んで愛情のこもったおいしいごはんを食べることができた。はじめの頃は夢かと思った。こんなにも幸せな場所に自分があることが信じられなかった。食事の時間はそのくらい夢のような時間だった。

この塾だから変わった

にもかかわらず、私は秋以降、たびたびやる気が出ない状態に陥った。勉強していても頭の中でグチャグチャとした考えが浮かび、勉強に集中できなくなるのだ。皆が必死で頑張っている時にどうして自分はこんなに頑張れないんだ、と情けない気持ちでいっぱいになった。そんな時、柏村先生から「自分の評価を自分で下すことがいかに無意味であるか」を教わった。村田先生からは「答え」は自分の中にない。目の前の人、目の前の問題にあ

る「あなたは一人で生きていない、関係性の中で生きているんだ」と諭された。その言葉が腑に落ちた時、頭の中で考えをグルグル巡らせる無意味さを知り、抜け出すことができた。何より勉強と一体になって、目の前の問題と無我夢中で向き合っている時が救いの時間だった。勉強に没頭する心地良さを知ったのだ。

たくさんの方から愛をいただいた2年間

最後に、スタッフの皆さんにお礼を申し上げたい。村田先生は父親のような存在になってくださった。最も印象的な言葉は、「俺は悲しみに満ちたこの世界に怒りを感じながら、日々過ごしている」という言葉だ。私も自分自身がその悲しみの一因子にならぬように、世の中の悲しみと向き合っていきたい。私がかん底にいる時、柏村先生には何度か助けられた。先生の「曲がりながらもたく育つ、神木のようなれ」という言葉が好きだ。私はますます生きることができていなくても、「神木」のようになって、

先生のように人を導けるような人間になりたい。
本当に、たくさんの方の支えの中でこの一年過ごしてきた。この塾でなければドロップアウトしていたことは間違いなかったと思う。この一年、たくさんさんの愛をいただいた。今度は私が、世の中に愛をお返しできる人間になってみせます。本当にありがとうございます。

pickup

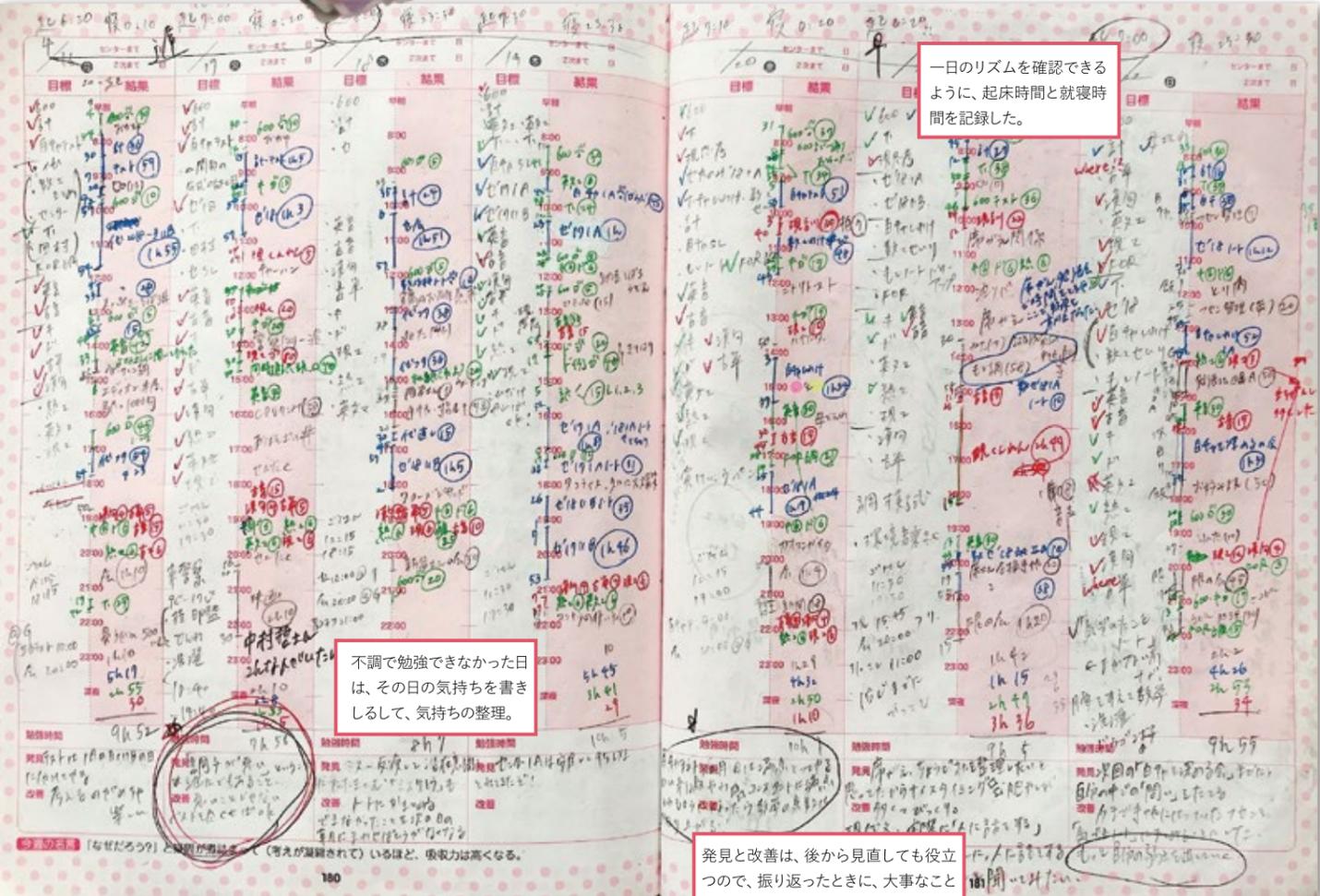
鵜飼真理さんの合格手帳を公開

一日のリズムを確認できるように、起床時間と就寝時間を記録した。

不調で勉強できなかった日は、その日の気持ちを書きしるして、気持ちの整理。

発見と改善は、後から見直しても役立つので、振り返ったときに、大事なことは、特に目立つように○で囲っていた。

1日何時間も勉強に明け暮れた。ボロボロになったノートを見返すたび、「大丈夫」と思えるようになった。



勉強のやり方も生き方も、全て変わり合格へ こんなに見てくれる塾は、他にない！



最後まで全力を出しきれない自分を変えたい！

僕は四浪目でミスターステップアップに入塾しましたが、入る前から、自分の弱点は分かっていた。本番で実力を発揮できないことと、直前期に勢いが下がってしまうことです。

僕は模試や試験本番になると、緊張して、計算ミスや問題文の読み間違いをしてしまう失敗パターンがありました。また、直前期になると、受験の終わりが見えて気持ちが緩み、勉強の勢いが失速するというのも課題でした。四浪目になり、何かを変えなければ、と思っていた時に出会ったのが、ステップアップの勉強法です。

二浪目、三浪目の時は、演習量をこなそうと、手当たり次第に問題を解き散らかしていました。しかし、その解いた問題は全く身につけておらず、本番の試験でも、何の実力にもなっていませんでした。

そこで初めて、本当に使える実力をつけるには、同じ問題を何度も反復することが大切なんだ、と気づきました。

た。そして、「この勉強法しかない！」と思って、ミスターステップアップを選びました。塾のことは、勉強法以外はどんな塾なのか何も知りませんでした。

先生方がどこまでも励まし、応援してくれる

ミスターステップアップの良かったところは、励ましの言葉をかけてくれるだけでなく、本気で叱ってくれるところです。予備校で、ここまで一人ひとりの面倒を見てくれるところなんて、ないんじゃないかと思えます。

僕は、今年も直前期に勢いが落ちるという負けパターンにはまりそうになっていましたが、その様子を見ていた弓場先生が、「限界突破コースで入塾して、自分の人生を変えにきたのに、そんなんでいいんか！」と叱ってくれて、自分の甘さと向き合い、乗り越えることができました。このような指導を受けたことは、他の予備校ではなかった経験でした。

あと、健康的な食事を毎日摂れるところも良かったです。三浪目は、食生活が乱れて、それが精神的にも影響したのか、メンタルがボロボロだったのですが、ここでは、毎日おいしくて健康的なごはんが食べられました。食べ物とメンタルって、本当につながってるんだなと思いました。

**どんな医師になりたいか？
将来への志が芽生えた**

塾で過ごしたことでの変化は、精神的に成長できたことです。これはたぶん、他の塾生もみんな感じていることだと思います。

僕は大学に行ったら、いかに楽しく遊んで暮らすかしか考えていなかったのですが、この塾に来て、モチベーションアップの会で話していただいた、過去の偉人や、様々な分野で活躍している人の話を聞いて、自分もそうなりたと思うようになりました。また、食堂に行った時に、先生方や他のスタッフの方と話す雑談の中にも、たくさん面白くてためになる話や、勉強になる話があって、まかないを食べる時間も好きでした。

気がついたら自然と「将来、どんな

医師になるのか」「医師として、どんなことをするのか」「どのように社会に貢献するのか」といった、誰かのためにと考えられるようになりました。

塾に出会うまでの三年間は、受験は自分の力で乗り越えるもので、何でもかんでも自分一人で行うものだ、と思っていました。

しかし、ミスターステップアップに来て、確かに自分で何とかする



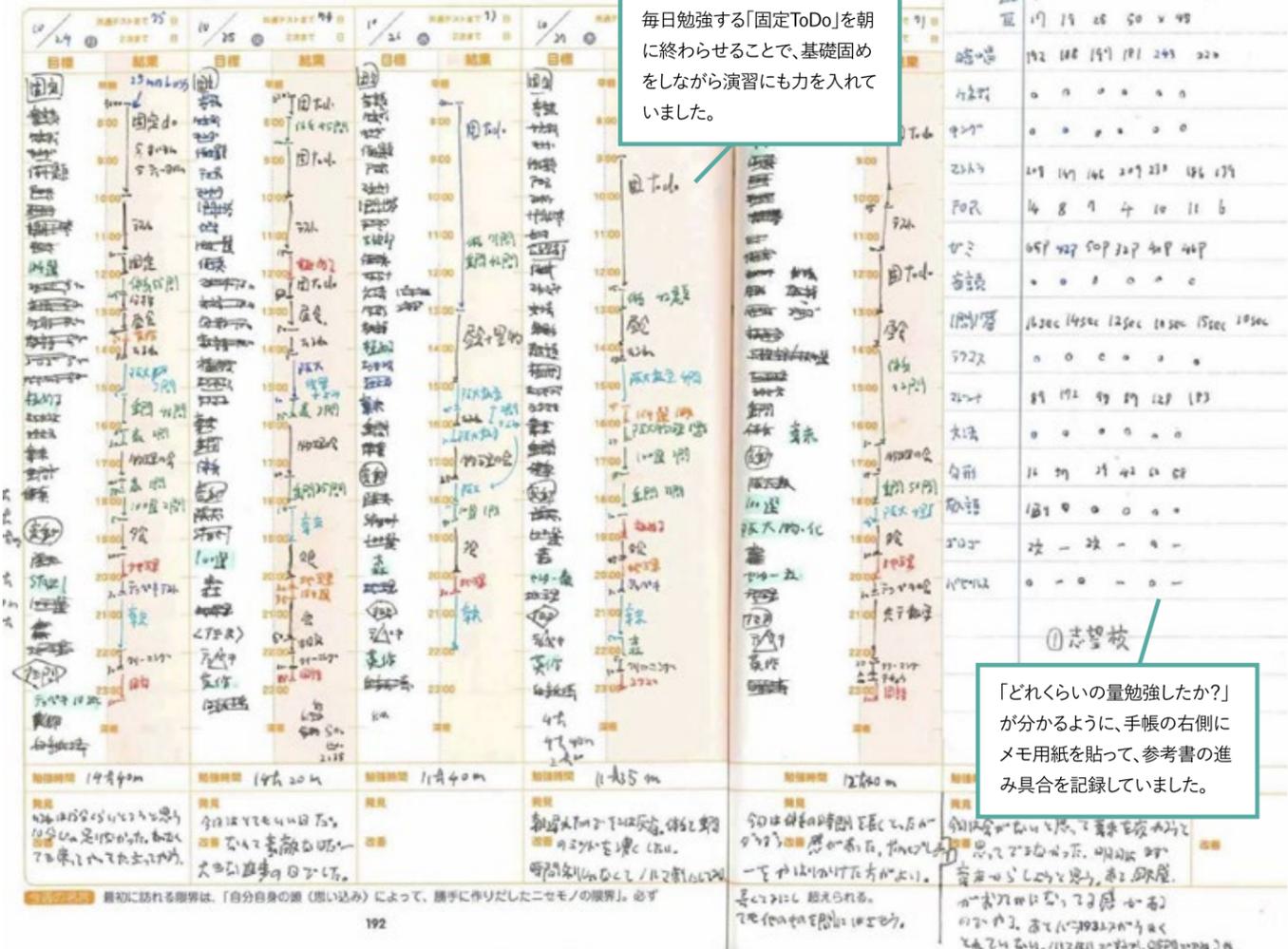
僕が塾生だったときに、塾の建物が新校舎になったので、オシャレなカフェにでもいるような気分が勉強できました。



ミスターステップアップの系列店「シロフク コーヒー」は心のオアシスでした。キャラベチーノは最高の飲み物!!

ことも大切だけど、相談に乗ってもらったりして、誰かの力を借りることも大切だということを学びました。先生方に、自分の本音をぶつけて相談することで、今まで一人でどうにもならなかったことも解決できるようにになりました。先生との二人三脚で、一年間頑張ることができた受験でした。

毎日勉強する「固定ToDo」を朝に終わらせることで、基礎固めをしながら演習にも力を入れていました。



「どれくらいの量勉強したか？」が分かるように、手帳の右側にメモ用紙を貼って、参考書の進み具合を記録していました。

合格祝賀会では、一年間を振り返り、講師の先生方との思い出や、自分がどのように変化したのかなど話をさせていただきました。

pickup

河野祐一郎くんの合格手帳を公開

勉強は、自分のためではなく、誰かのために。 一日を一生のごとく生き切った熱い日々。

Congratulations!

にいぼ ひな
新保日南

大阪大学 (外国語学部)
関西大学 (社会学部)
立命館大学 (産業社会学部)
龍谷大学 (政策学部)



誰かのために
それが、私の原動力

私には、ずっと答えを探し求めてきた一つの問いがある。「何のために勉強するのか?」という問いだ。
まだ明確な答えはつかめてはいない。だが、少なくとも勉強というものは、私自身ではなく、私以外の誰かのためにするものだ。それは、今までに出会ってきた人かもしれないし、これから出会う人かもしれない。まだ誰のためかはわからなくとも、そこに注いだ熱量は、確実に誰かに届くだろう。そして、この世界を動かす原動力となっていくのだ。これが、私の今の答えだ。
「あの人のためなら、がんばられる」。そんな気持ち胸に、これからも勉強を続けていきたい。



大学生になってから、塾主催の「保護者向け勉強会」で登壇。受験生時代に親子で乗り越えた経験や学びをお話しました。



綾部合宿では一分もムダにしない!との想いで課題に向き合いました。解けなかった問題が、ついに解けるようになったのも、綾部の力かも。



綾部合宿では、自分たちでピッキングしたご飯をいただきました。よく味わって食べることの大切さを実感!

pickup 新保日南さんの合格手帳を公開

先生から教わったヤル気の出る言葉や自分を律する言葉を毎日書き込みました。

時間の使い方のクセや偏りをなくすため、何の勉強にどれだけ時間をかけたかがわかるよう色分けしました。

今日という日は二度と来ない。一日一生を意識したことで、目の前のあらゆることに興味を持ち、大事にする姿勢が身につきました。

葛藤の末の高校中退
そして塾との出会い

この塾に出会ったのは、高校3年の9月中旬。
私は高2年の秋に高校を中退していた。学校での人間関係に疲れたからだ。同級生たちと話が合わず、何のために勉強するのかわからなくなり、担任と揉めた末に学校を辞めた。学校を辞めてからも勉強が手につかず、大学受験も諦めようと思っていた。見かねた母が、私を自立させようと、県外にある塾を探し、ミスターステップアップのHPにたどり着いた。私は言われるがままに入塾説明を受けに大阪まで行き、迷うことなく入塾を決め、一人暮らしを開始した。
入塾の決め手は、やはり、ごはんだった。母が「ごはんがしつかりしているところは間違いない」と言っていたが、本当だった。一度、ホームシックになりかけたとき、塾で食べ

た夜ごはんのシチューがおいしくて、感動で涙が出そうになった。心が温かい何かで満たされていくような感じがした。こわばった心がほぐれ不安が消え、心から「大丈夫」と思えたのだ。
浪人生活は予想以上に長く、過酷だったが、楽しくもあった。自分の限界を超える、なんて、聞いただけでわくわくしてくる! もちろん、いつも先生方に助けられた。時に励まし、時に厳しく叱ってくださった。そして全国から集まってきた仲間たちも。言葉こそ交わさないものの、彼らとは自分をさらけ出し、鼓舞し合えるような関係を築くことができた。毎日塾に行く度に新しい発見があり、早く塾に行きたい! という気持ちから、朝5時に来て勉強を開始することもあった。今思えば、早起きが苦手で家に引きこもっていた自分が、早起きして塾に行きたがるようになるとは、スゴイ変わり様だ。不思議な話だと思う。

一日を一生だと思って送った
かけがえのない日々

ある日のモチベーションアップの会で、先生から「一日一生」という言葉を教わった。「一日がまるで一生であるかのように生きる」という考え方だ。そんな受験生活を過ごしたいと思い、まずはその日にあったことをすべて書いていく「合格手帳」をはじめた。思い切り勉強に打ち込んだ日も、落ち込んで全く勉強できなかった日も、すべて細かく書き込んだ。
そうして直前期にさしかかると、ふと不安がよぎった時、手帳を見返してみた。そこには勉強に明け暮れた日々の軌跡があった。
「ああ、私ってこんなに勉強してきただんだ」といった思いがわき上がった。まるで、これまでの日々が、背中を押してくれているようだった。
受験勉強で学んだことが、日常とつながればおもしろくなる。教科書の中に書いてある原理が、身の周りや普段の行動の中に応用されているのだ。そういった発見の数々を振り返ってみると、まさに一日一生の受験生活だったなと思う。

本命の国語の試験で、見たことのある問題が！ 鳥肌でした。。。縁って本当にあるんだって。



Congratulations!

吉田 ころろ

大阪大学 (文学部)
同志社大学 (文学部)
立命館大学 (文学部)
関西大学 (文学部)

不登校から脱却させてくれた 運命の二冊

高のときに『大逆転勉強法』に出会いました。この本は立ち読みで終わらせてはいけない……！ という内なる声に従い、すぐさま読んじ。

私は高校2年生の秋ごろから、人に対する不自信、恐怖感から徐々に学校に行けなくなり、同年の冬には立派な不登校児へと化していました。そこから一年間、一切勉強していません。よく言うテスト前の「私、全然勉強してないんだ〜」というノリではなく、本当に全くやっていませんでした(笑)。当然、成績はガタ落ち。卒業するのがやっとで、私の受験生活1年目は終わりました。そして私は、高校1年生の頃から憧れていた、ミスターステップアップへの入塾を決意したのでした。

ごはんのあたたかさ スタッフさんの笑顔に救われた

入塾説明の時、初めて先生方に会い、「本に載っていた人だー」と、大興奮しました。村田先生の丁寧な説明を聞いて確信。ここなら一年間勉強できると。そして、スタッフさんの入れてくれたミルクティーがおいしすぎて感激したのを覚えています。

塾に入り、まず驚いたのは、塾生の何人が廊下や階段で勉強していたり、食堂でごはんが出てくるまでの間にも、勉強しながら待っていたことです。ここまで勉強に対して本気で取り組んでいるんだ……と驚きました。

一人暮らしで食事の心配をしていましたが、「ゆにわ」のまかないは、そんな不安をあっさり吹き飛ばしてくれました。味がおいしいのはもちろんのこと、食事をするこへのあたたかさ、豊かさを感じさせるような優しさがかもつていたからです。毎日のごはんは、私の受験生活を根底から支え続けてくれたもののひとつでした。そして、「いらっしゃい！」と迎えてくれるスタッフさんの、いつも変わら

ない笑顔も。気分が落ち込んで家に引きこもってしまった時も「いつでも食べにおいで！」と声をかけてもらい、救われたこともありました。

先生の一言で、心に火がついた

苦労したのは気持ちの振幅をなくすこと。私はノってる時は楽しく勉強できるのですが、落ち込むとどうしようもないくらいネガティブになってしまう癖がありました。21日間も勉強が手につかなくなっただけでも、また完璧主義な面があり、計画通りにいかないと、自分を責めることもしばしば。自分を責める、落ち込む、勉強が手につかなくなる、計画通りにいかない……というスパイラルに陥っていました。しかし、講師やスタッフの方々と何度も何度も対話をしていくうちに、少しずつ癖や思考パターンが直っていききました。自分の弱さや短所も認めようと、腹が決まったのです。

数学には苦しみました。高校2年から不登校だったので、はじめはお手上げ状態。初歩の教材から、10回、20回、30回と反復しました。なのに、夏に解いたセンター過去問はなんと37/100点。愕然とした

まったく同じ問題に鳥肌

て、今まで勉強してきたのは何だったのかと大泣き。その後も、鳴かず飛ばずの時期が続き、追い詰められたプレッシャーから、ちっとも上がらない成績に、とうとうメンタル崩壊。塾で一時間ぐらいつつ泣いていました。そんな私を、弓場先生は一喝してくれました。

迎えた本番。試験科目は3科目。ラストは国語でした。この教科で合格が決まる、と思いがら問題をめくると、漢文で、高校の授業でやった問題と、全く同じ文が出されたのです！ それも真面目に勉強していた高校1年のときの問題が！ 鳥肌が立ちました。ああ、自分はこの大学にご縁があるんだと確信しました。そして運命の合格発表。私の番号がありました。飛び上がるような喜びを感じるのかと思っていたのですが、こみあげてくるのは安堵感や、支えられてきたことへの感謝でした。本当にありがとうございました。吉田ころろは幸せ者です！

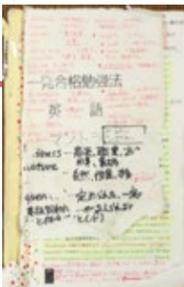
弱いところもダメなところも、全部聞いてもらった。だからこそ深い信頼が生まれ、その絆に守られた。



自分の頭と心の中を整理整頓するつもりで掃除をしたマイ自習机。いつでも集中モードになれる特別な場所へと空間が育っていった。



表紙が破れてポロポロになるまで徹底的に反復した教材「英語マントラ」。ここに刻まれた努力が自信をくれた。



心の支えにしていた「榎原神宮」と「円明院」のお守り

pickup

吉田ころろさんの合格手帳を公開

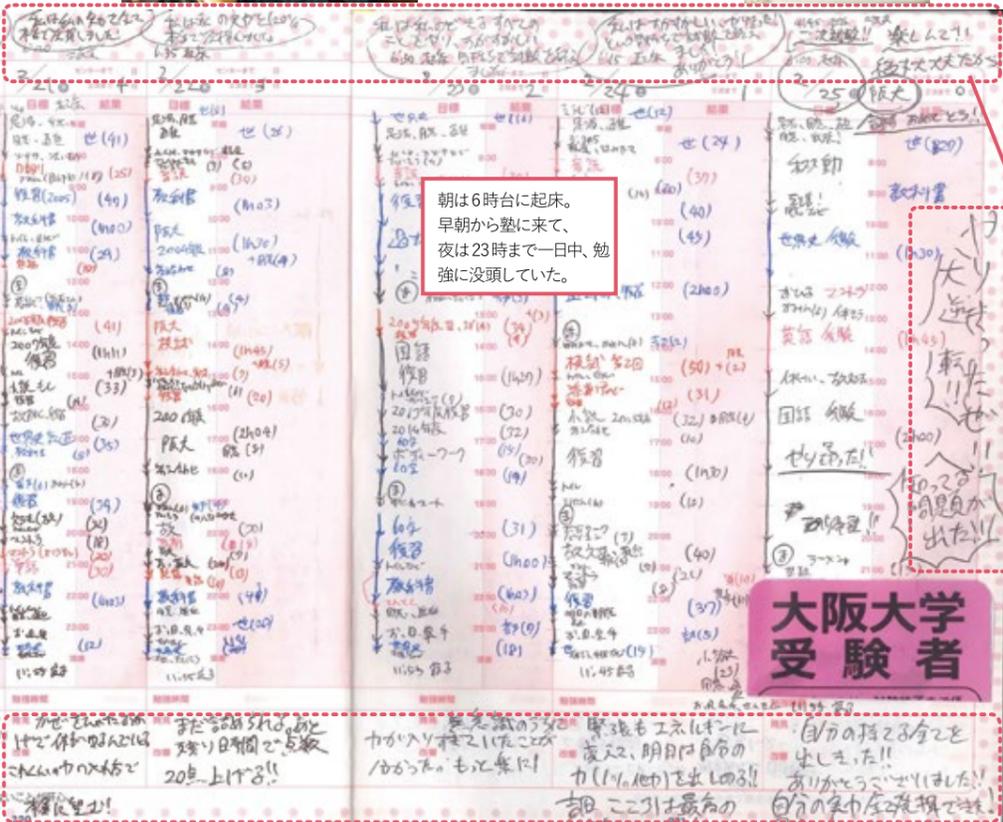
朝は6時台に起床。早朝から塾に来て、夜は23時まで一日中、勉強に没頭していた。

毎日、自分を励ます言葉を書いた。自分で自分の気持ちを盛り上げることができるとなると、高いモチベーションを維持することができる。

本命の大阪大学の受験本番の日。大きな文字で「やりきったぜ大逆転！ 知ってる問題が出た！」と書いた。

一日が終わった時に書いた反省の言葉。毎日、一歩でも改善、改良しようという気持ちの積み重ねが大きな結果に繋がった。

大阪大学受験者



一日3時間しか勉強できなかった私が、 12時間ぶっ通しでも元気に過ごせた。



重松そら

大阪大学（外国語学部）



頭の中がどんどんクリアになっ ていった春合宿

私はもともと集中力が無く、1日に3時間しか勉強できませんでした。必死に机に向かっても、途中で頭がボーっとしてしまい、気がついたら夜になってしまっています。長時間勉強できる人が羨ましい、とずっと思っていました。そんな私の人生を大きく変えたのが、この塾で年に3回行われる「京都綾部の合宿」です。施設を見て驚きました。勉強に集中できるように皆さんの工夫が施されていたからです。ここで年に3回、春と夏と秋に合宿が行われます。

春合宿では「とにかく、ゆったり過ごしてほしい」と言われました。皆で、大自然の中でのんびりと過ごしながら、いろんな場所で勉強します。ゆったり過ごしているはずなのに、いつの間にか集中が続いていました。一日3時間しか勉強できなかった私が、今までで一番勉強がはかどって、どんどん元気になっていくのです。

そして、夜は先生や塾生と一緒に焚き火をしました。火を見ていると、ふわふわと気持ちよくなってきます。すると皆、思い思いに自分の心の中を話すようになり、「俺、こんな夢があるんだ」とか、「こんな悩みがあって…」とか。先生が「大自然の中で身体がゆるむと、今まで抑え込んで言えなかったことが出てくると思う。過去の嫌な経験や苦しかったことは、全部この火で燃やし尽くそう」と言ってくれました。

私はボーっと聞いているだけでしたが、「先生になら悩みを相談できそう」と思いました。なので焚き火の後、ずっと集中力が無くて悩んでいたことを先生にコソコソと告白しました。すると、驚きの言葉が返ってきました。「あなたは、今年一年で愛され上手になるぞ」

「えっ！」思わず言うと、先生はニコッと笑って、「あなたはいつもまわりの目を気にして生きているね。本当は思っていることを全部話したいと思っているのに、誰にも言えずに溜め込んでいる。それを心の

どこかで考えているから、勉強に100%集中できていないんだ」と言われたのです。あまりにもドンピシャで、ウンウン頷くばかりでした。

先生は続けます。「愛され上手って、言いたいことを我慢して、良い子を演じることではない。自分の弱いところも素直にさらけ出せる人のことだ。ここにいる人は、全てを受け入れてくれる。安心して肩の力を抜いて良いんだよ」

それを言われた時、肩に乗っかっていた重たい何かがスッと消えていきました。安心感で満たされて、頭の中にあっただモヤモヤがなくなりました。私は、庭に出ました。頭上には満天の星空が広がっています。「なんか、変わる気がする…」と、心の中で思っていました。

それからというもの、何かあったらすぐに先生に相談するようになったら、驚くほど集中力が上がりました。頭が冴え渡って、一日の勉強時間もどんどん増えていったのです。

限界を超え、高い世界を見せてくれた夏・秋合宿

春は「ゆったりする」合宿でしたが、夏・秋の合宿は違います。こっちは「自分の限

界に挑戦する」というもので、一日5時間睡眠で、それ以外の時間はひたすら勉強です。もともと私は一日に7時間寝ていましたが、不思議と綾部では、その半分の睡眠でも元気に過ごせました。

たことは今でも覚えています。「人は、自分で勝手に限界を作っている。だから一回で良いから、限界をとことん超えて、突き抜ける経験をしてみたら良い。それだけで壁が壊れて、見える世界が変わるから」

本当にその通りでした。合宿で大きく変わった私は、そのまま入試当日まで走りきって、念願の大阪大学に合格しました。

もし、私が普通に生きていたら、きっとまわりの目を気にしながら生きていたと思います。けど、心の中の雑念を全て炎で燃やし尽くして、大自然の中で満天の星空とひとつになり、勉強と一体となることができた。さらに、

自分の限界を超える体験をして、突き抜けることができました。この塾に入ってから良くなったと思います。単に勉強ができるようになっただけでなく、人生で大切なことをたくさん教わりました。この経験は大学に入ってから、決して忘れません。

pickup 重松そらさんの合格手帳を公開

科目ごとに色分けして記入し、教科の偏りを防ぎました。

毎朝、「今日一日、悔いなく過ごしました！」という宣言文を、完了形で記入しました。調子が悪かった日も、その言葉を見るようにして、気持ちを切り替えるようにしていました。

心に響いた先生の言葉や、問題を解きながら気づいたことを書き留め、夜に先生と話をするきっかけになりました。



快適に過ごせる、環境が整った宿泊棟

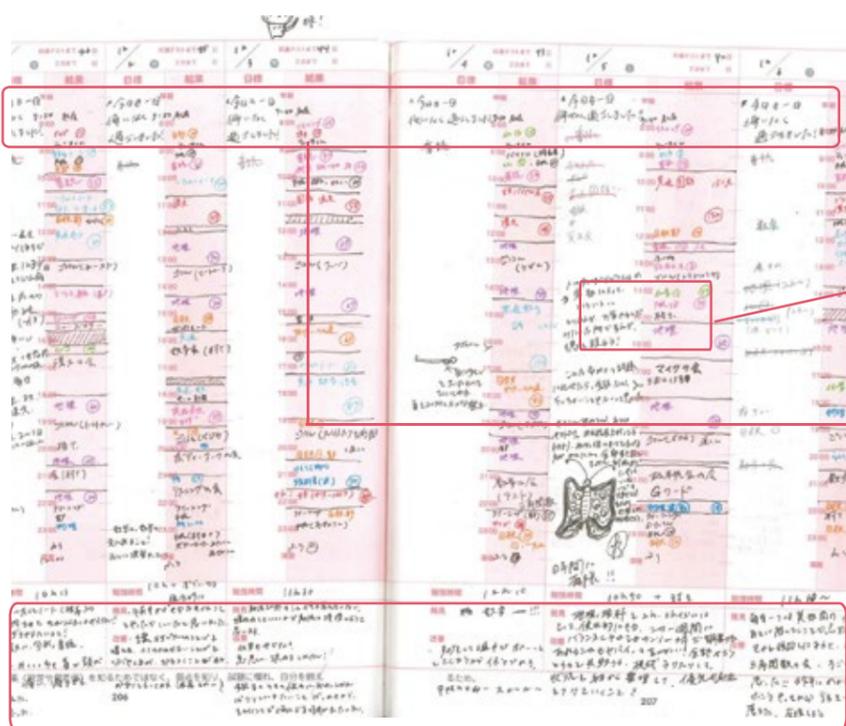


限界まで勉強した母屋



焚火を囲んでみんなで語り合った夜

勉強の後は、思わずご飯が進みます



自分を限界まで追い込み、たどり着いた境地。

虚飾を脱ぎ捨てたら、歩みたい道が見つかった！

Congratulations!

小久保 哲也 (仮名)

大阪府立大学
(生命環境科学域)
立命館大学(理工学部)
日本大学(理工学部)



偶然の流れにのって
2浪目は大阪へ

僕は、1浪目の9月によなたんがその年最後に募集したミスターステップアップの通信コースに入りました。なかなか上手くいかず、医学部は全落ちでした。心がすっきりしないまま、大阪へ最後の受験に行つたついでに社員食堂ゆにわでスタッフさんと食事をして、話しをするうちに、自分

では全く想像もしていなかった、大阪の地でもう1浪するという流れができたのです。そして、先生方の力を借りて、親を手く説得する事に成功し、なんとか入塾することができました。

2浪目の最初のうちは、医学部に行けたらいいなと思っていました。医師という仕事は人を直接的に幸せにできる唯一の仕事だと思込んでいました。しかし、スタッフさんの話を聞いていると、自分の考えは間違っているのではないかと気付き始めました。しかし、せっかく親に頂いた受験という時間を、僕は、最後までやり切つて、悔いのない受験にする”という目標と、”世界を良い方向へ変えていきたい”という目的を掲げて、勉強を続けました。

本当の自分と向き合い
100%悔いのない受験ができた

僕が、この受験で残せたものは経験です。本当に弱くて、惨めで、情けない自分と向き合い、付けていた鎧をひたすら捨ててい

く日々を、最後の最後まで続けました。時には、他人との関係が崩れて4日間家に引きこもり、1日1食で済ませるとい生活をしたリ、絶望の淵に落とされ、10年振りに泣いた時もあります。そんな中でも勉強を止めず、自分と向き合う事ができたのは、本当に良かったです。

また、僕は最後の最後で、いつの間にか世のため、人のために勉強をするという事を忘れていると、先生に指摘していただきました。僕はその日から合格発表まで、本当に倒れる寸前まで、勉強に没頭する事ができました。本気でやり切つたのです。この経験は、つねに人のためということに心がけようと思った反省に加え、最後まで悔いの残らない受験生活を送る事ができたという、とても誇らしいものになりました。

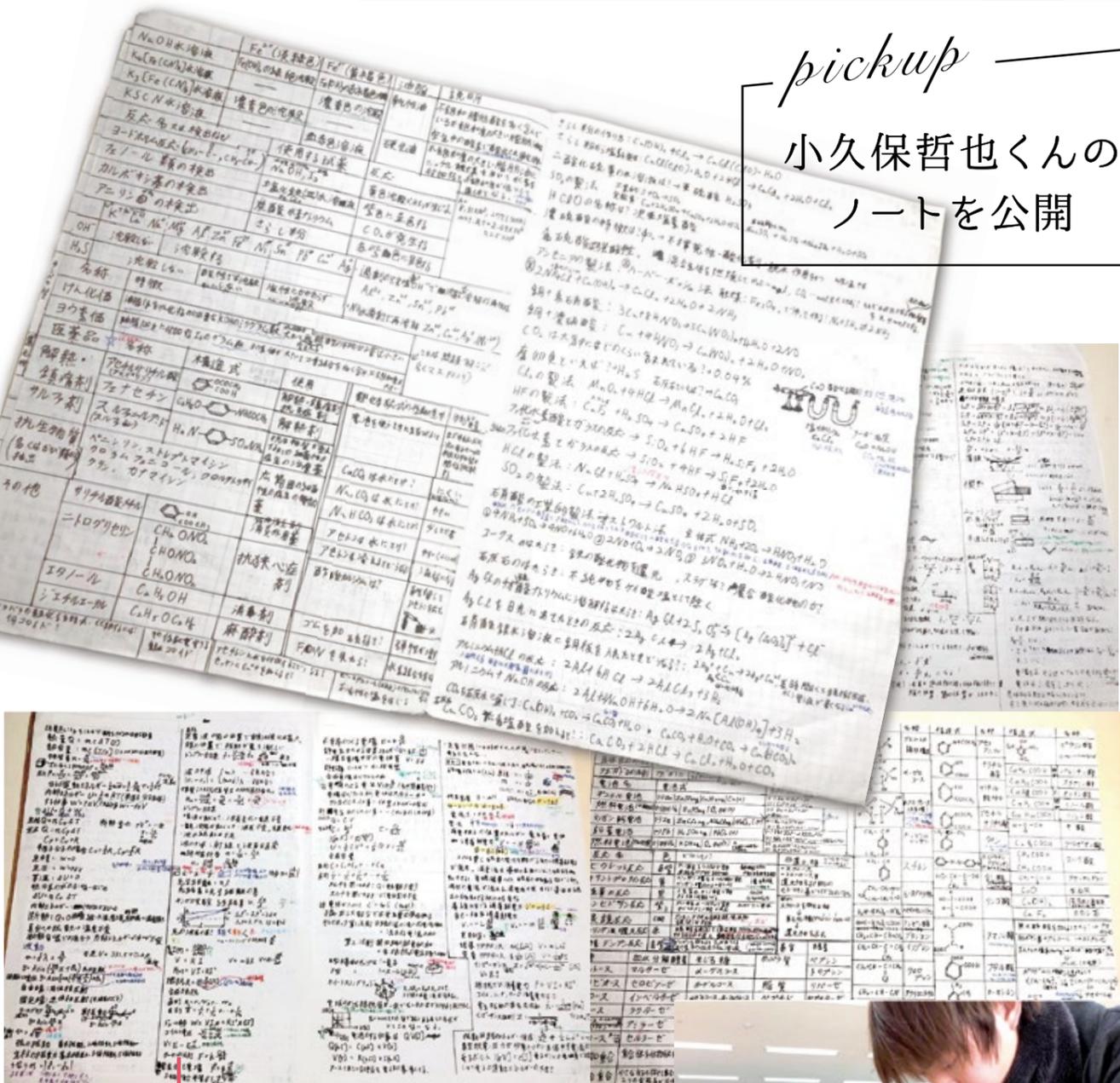
確かに、僕の受験は、決して完璧なものではありませんでした。今年も医学部は全て落ちてしまいましたが、医学部への執着や未練が残らないくらい自分と本気で向き合つて、やり切る事ができたので、本

当に後悔がないのです。良い出来事も、悪い出来事も、今では大切な思い出です。そのように導いてくださった先生方には、とても感謝しています。

これから歩むべき道を示してくれる塾

『大逆転勉強法』や『限界突破勉強法』の本に書かれている事を忠実に実行すれば、悔いの残らない勉強ができます。一生使える勉強法です。そして、この塾は、道を示してくれます。受験生が気付かないうちに見えなくなつてしまつた道を照らしてくれ、自分の進むべき方向を教えて下さるのが、講師や南極老人であると思います。そして、この体験記が、誰かの人生が変わる、一つのきっかけへと繋がるのなら本望です。この1年間、本当にありがとうございました。

pickup
小久保哲也くんの
ノートを公開



物理と化学の一元化ノート。
苦手なところだけを抽出し、見開きページでまとめた。
書きながら覚えるため、全て手書きに。
直前期の詰め込みに、とても役立ちました。



『大逆転勉強法』を信じて、慶應に逆転合格



中学までは県内トップクラスだったのに…

大学受験には、全くといっていいほど本気になれなかった。勉強時間はほぼゼロ。高校3年生の夏まで、ぶっちぎりの学年最下位だった。それは高校受験のとき、親や塾の先生からの期待に応えるために、心を押し殺して勉強をしたからだ。なかなかに追い立てられるように、恐怖心やプライドから勉強をしていた僕は、勉強が楽しいなんて思ったことは一度もなかった。

『大逆転勉強法』との出会い

そんな僕に転機が訪れた。それが、書店でたまたま見つけた『大逆転勉強法』だった。学校で最弱の学力。やる気ゼロ。まさに今の自分は、大逆転しないといけない状況だった。ただただすごいとしか言いようがなく、著者陣の勉強の感覚をつかむために、何度も何度も、それこそ20周以上読んだ。

確かに感じた成長の手応え

11月の記述模試では、英語は偏差値65、数学は70を超えていた。第一志望を慶應にして、『大逆転勉強法』のとおり、過去問5年分を徹底的に研究した。2年に1回は合格点が取れるくらい、合格も現実味を帯びてきた。迎えた慶應大学の受験当日。得意の数学で5問中3問と半分を完答した。結果は、8点差で不合格。結果こそ伴わなかったが、ここまで自分を成長させてくれた勉強法がある。

京都大学を目指して

そこからはドンドン勢いが上がっていった。たった3ヶ月で、英単語の問題集『鉄壁』を覚え、700もの英文を暗唱し、総合的研究を終えた。志望校を京都大学に変えて、夏は京大の過去問10年分を徹底的に研究した。だがそれでも、秋の京大模試はE判定だった。その模試の後は、共通テストに切り替えて勉強した。理科基礎も倫政も、ゼロからのスタートだったが、大逆転

る、ミスターステップアップに行きたい。その思いで、浪人生活をスタートさせた。

最初の1ヶ月はあんまり勉強ができてなかった。新しい生活に順応するのに時間がかかったし、勉強する体力が全くなかった。そんな僕に先輩の大学生がアドバイスしてくれたのが、「21日間本気で勉強をする」ということだった。それを聞いて、21日間、本気で勉強をした。21日目は不思議な感覚で、その夜に自分が死ぬ夢を見た。すごくハッキリ覚えてる。

その日から勉強に対する感覚が変わった。過去の自分が死んで、新しい強い自分になった感じがした。

勉強法のおかげで、どちらも2ヶ月で80%は取れるレベルまで成長できた。

共通テストでの大失敗

ところが、本番の共通テストで、大失敗をしてしまった。京都大学が難しくなってしまう、泣く泣く大阪大学に出席することにした。

けれど、私立入試が始まる1日前。大阪大学から速達で何か送られてきた。嫌な予感しかしなかった。恐る恐る封を開けると

「社会の第一指定科目が間違ってるので受験出来ません」と書かれていた。

言葉が出なかった。一周回って笑ったのを覚えている。国公立大学は受けることなく、惨敗。強制的に、私大に切り替えさせられた。そこで、去年目指した慶應大学をもう一度目指すことにした。

慶應大学に照準を当てた入試対策

慶應は独自の対策が必要だったので、解ける過去問を全て解いた。しかし、慶應の対策に特化していたことで、どっちは受かるだろうとタカをくくっていた関西大学と同志社大学の両方に落ち



問題演習や過去問を解くときに、静かで集中できる自集席は最高の環境だった。

ご縁のある大学は、本当にある

去年8点差で落ちていたため、合格点までの距離はつかめていた。問題を解いた体感ではあるが、去年より十分に点数は高かった。結果は合格だったが、飛び上がるような喜びというより、大学に行ける安堵の方が強かった。結局のところ、関西大学、同志社大

てしまった。

どこからも合格通知が届かず「一年間本気で勉強したのに、どこの大学にも受からないんじゃないか」と思っていた。精神的にも、状況的にもカンペキに追い詰められた状態だった。まさに背水の陣で、慶應大学の入試を迎えることになった。

学、慶應大学、早稲田大学と受けたが、受かったのは慶應大学のみだった。関西同様に落ちて、早慶に受かることはほとんどない。僕自身も、過去問では同志社大学も関西大学も余裕で合格点を取っていたのに、試験当日の問題との相性がとても悪かったのだ。一年間ミスターステップアップで勉強をしていて、何度か「ご縁のある大学がある」と聞いてきた。自分の能力を開花

させてくれたり、新しい可能性を広げてくれたりする出会いがある大学に、まるで導かれるように合格するのだと。関西圏の大学は全敗して、慶應大学だけ合格したのは、慶應大学がご縁のある大学だからだと思う。ミスターステップアップを通じてご縁を繋いでもらった、慶應大学での新たな出会いを大切にしていきたい。

pickup

木村元哉くんの自習机を公開

過去問を研究して、自分なりの「慶應大学研究ノート」を作っていた。これは入試本番に大いに役立った。



毎日目にする机にモチベーションが上がる言葉を書き、自分を鼓舞していた。

勉強と向き合い、恋愛の悩みを克服。 一回り成長できました！



受験勉強は、失恋との闘い

高2の2月によなたんのセミナーに行きました。今まで聞いたことのない話や、予備校の裏側の話を聞き、衝撃的でした。受験勉強という目的を忘れ、もっとよなたんの話を知りたいと思い、通信生に入ることになりました。

入会してからも驚きの連続。「潜在意識を味方につける」、「フローになる極意」、「合格する受験生の習慣」：などなど、様々な動画を見て好奇心が刺激され、毎



受験生には、勉強だけでなく、人間関係や恋愛など、人それぞれに悩みがあると思います。自分一人では乗り越えられないことも、ステップアップに入り、勉強を一生懸命頑張れば、受験が終わる頃にはいつのまにか乗り越えていて、ひと回りもふた回りも成長できます。

通信に入会しようかと考えているなら、ぜひ一度セミナーに参加してみてください。僕も卒業生として、みんなの問題解決の手助けをしていきたいと思っています。受験生の悩み、特に恋愛の相談はらせてください。応援しています！

門をくぐってすぐにある、イチヨウ並木。青山学院の象徴。



青山学院のペリーホール。このベンチでよく読書を楽しんでいます。

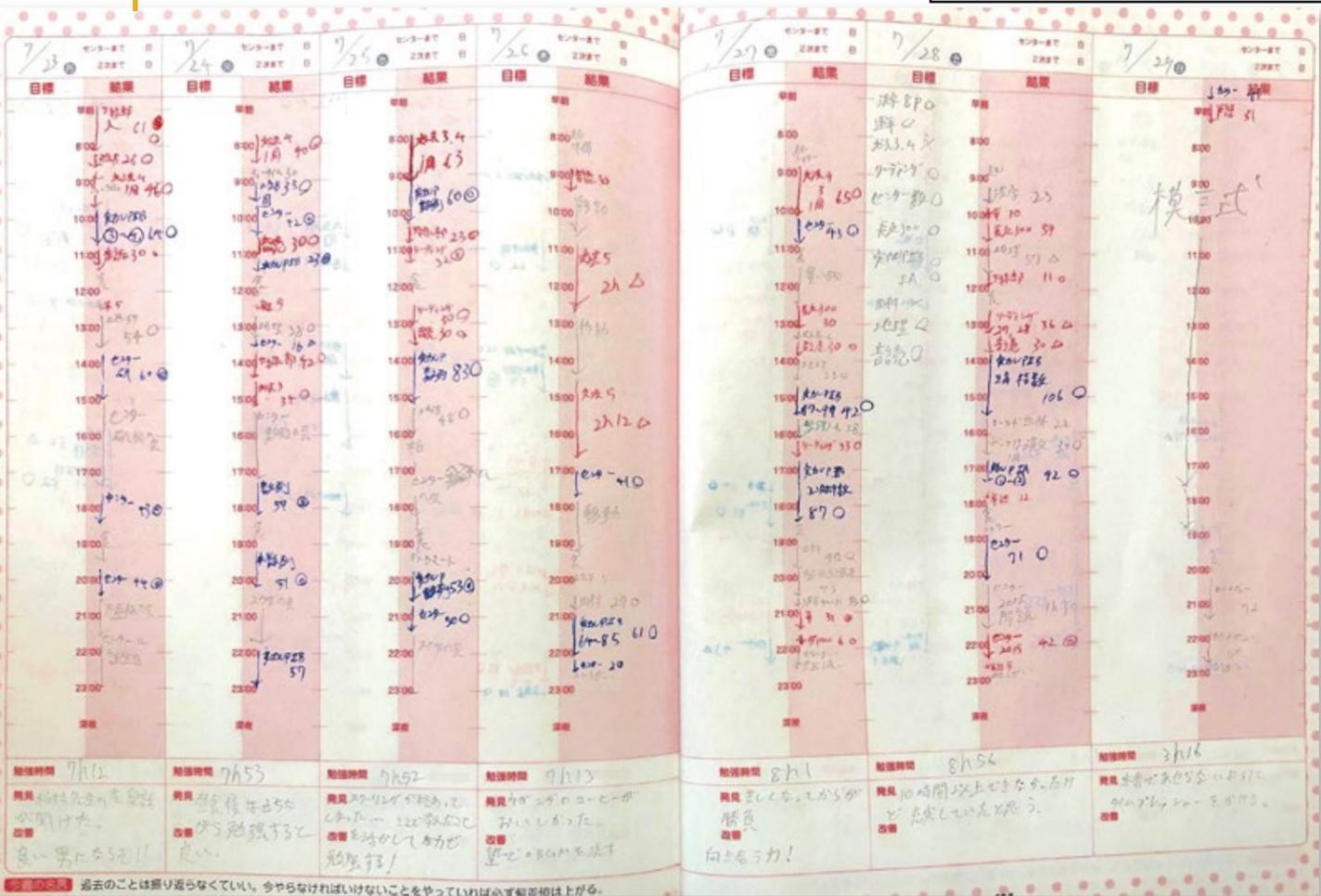


受験生の頃から憧れのよなたん。卒業してからは、動画編集に携わらせてもらっています。

pickup

横田琉緯くんの合格手帳を公開

僕は通信生だったので、毎日先生に会えるわけではありませんでした。なので、手帳は、毎日写真にとってメールすると、先生と約束。何も勉強しないわけにはいきませんでした。不調のときは送るのがイヤだなと思いましたが、それでも毎日送り続けました。返信は毎日ではなくても、どんな自分でも見てもらっている安心感がありました。



日の勉強が楽しかったです。しかし3月になり、彼女との仲が悪くなりました。そして4月には、別れることになってしまいました。それからは心にぽっかり穴が開いて、ごはんを食べるのも苦しくなり、勉強の内容が全く頭に入ってきません。この苦しみは12月の下旬くらいまで続いたのです！（笑）

基本を完璧にしたら、青学の数学で満点！

高1から、勉強への耐性はありました。学校の定期テストではクラス1位、学年でも5〜6位くらいだったのに、模試だと全く得点できず、悩んでいました。

勉強法がわからず、ただ勉強時間を増やしたり、難しい参考書や問題集を解きまくったりしていました。でも、この方法は、間違っていました。難しい参考書や問題集をす

る必要はなく、英語は、『リーディング教本』、『レベル別長文、文法』、『ターゲット』などで、スラスラ長文を読めるようになりました。数学は、『元氣が出る数学』を50周以上反復し、それだけで青学の入試で、余裕で満点を取ることができました。

恋愛の悩みは、「勉強」で乗り越えられる

僕の受験勉強は、恋愛との戦いでした。4月に別れた彼女のことをひきずり、直前期まで苦しみました。失恋と勉強の苦しさから、何度も逃げてしまったり。勉強したいのにその気力がわかず、妄念妄想が邪魔をして、なかなか集中できませんでした。

でも、塾のスタッフに支えられ、勉強を通して失恋の壁を乗り越えることができました。この1年で、メンタルも人間力も鍛えられ、親からも「たくましくなったね」と言われるようになりました。今となっては、「あの時、彼女と別れて本当に良かった」と思っています。先生方には感謝しかありません。

一生役立つ知恵と、学びがある塾。

素直に「ありがとう」と言える人間へ成長させてくれました！



「立教大へ行く」と
心に決めた高1の夏

元々、僕は大学受験をする気がなかった。中卒で入れる専門学校に行つて美容師になろうと思っていたが、高校だけは出てくれと母を泣かせてしまい、仕方なく高校生になった。転機は高1の夏に訪れた。大学のオープンキャンパスに3つ以上参加し、レポートを書く宿題が出た。クラスの大半はやってなかったが、当時の僕はなぜか素直に受け取っ



た。でも、この受験勉強を通して出会った先生、師匠、仲間、応援してくれるすべての人が、僕の成績がどんなに下がろうと、センターで大コケしようも、支え続けてくれ、応援し続けてくれたことで、立ち向かう勇気や信じる事を学んだ。素直にありがとうと言え、支えてくれる人をもって涙ができるようになった。これです少し大人になれたと思う。

塾では、師匠の村田先生やよなたんとのコミュニケーションが楽しみだった。勉強会やセミナーと一緒に過ごす時間、スクーリングに行った時はもちろん、冬スクの最後の日の夜に村田先生が手を握ってくれたことは大事な思い出である。よなたんと師匠が言うことは、100%信じ抜く原動力になった。

もし、これを読んでいる人で、通信に入会しようか迷っているなら、胸に手を当てて、「呼吸吸いて、自分に問いかけてみてほしい。自分が本当に求めている道は、どの選択なのか。答えは自分が一番よくわかっているはず。その想いに従って、動いてほしい。」

隙間がなくなるくらい、書き込んだ教材。背表紙が破れてしまった本も。



大学の図書館。ミスターステップアップで学んでから、勉強することが楽しかった。

大学生になってからも、塾の系列店の「白金ゆにわ」でよく卒業生たちと集います。



pickup 後藤喜斗くんの合格手帳を公開

ある時、先輩の合格手帳を見せてもらった。文字で埋め尽くされていた。衝撃を受け、自分も同じくらい書こう、と決めた。後で読み返したとき、やる気がわくようにできるだけポジティブなことを書いた。

頼れる先生との別れが、次の出会いにつながる

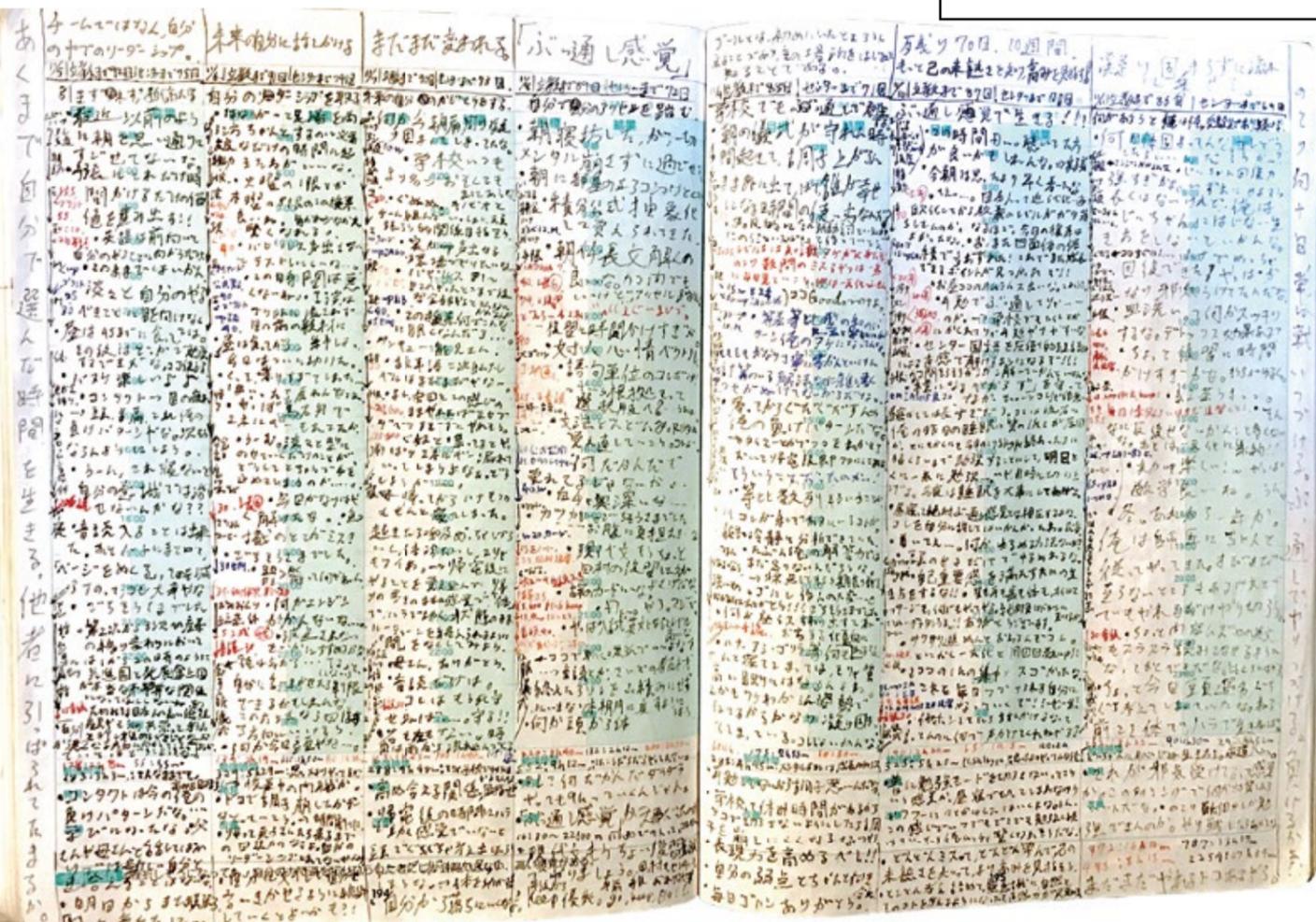
て、立教、青学、理科大に行った。青学も理科大もピンとこなかったが、立教の経営学部の体験授業を受けている時、「雷に打たれたような」感覚になった。「俺はココに行く！」「神様に呼ばれている」そんな感覚。そうして、大学ではなく「立教大学経営学部」に行くこと決めたのである。

高校受験の頃から通っていた地元の個別指導塾に、気の合う大学生の講師がいた。僕が高3になる春、その講師は大学を卒業してバイトをやめてしまう。わかっていただけだけど、1人でやっていける自信がなかった。僕はその頃から、定期テストの成績を下げず、ラクに切りぬけるために、勉強法調べに夢中だった。そんな時、よなたんのブログが目にとまり、紹介された暗記法を実践すると、定期試験の単語が満点に。苦しめられてきた単語帳にはじめて愛着をもてた。「よなたんに教わる塾はドコだ?！」と調べ、ミスターステップアップと出会った。

勉強法だけでなく、一生役立つことを学べた通信コース

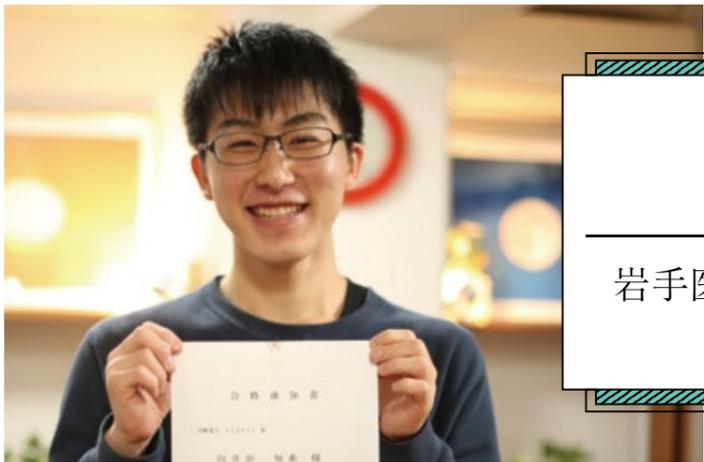
通信コースに入会してから驚いたことは、正直多すぎて書けない。でも一つ言える事は、この塾で先生から教わることは、本物の知恵であるということ。その場しのぎのテクニック的なモノを教わったことはない。一生役立つことを、たくさん学ばせてもらった。いつでもどこでも勉強する生き方・あり方。これが一番大きな変化だった。

僕は何をするにもこわがっていた。あるいは無責任に言葉をふり回し、人を傷つけてしまうような人間だった。本気で誰かを信じることもできず、帰りたい場所もなかった。



入試が始まる10分前に、こみあげた感謝。

あの気持ちで、この一年を物語っていました。



Congratulations!
むかいだ ともき
向井田 知希
岩手医科大学 (医学部)

生まれ変わる場所

浪人が決まった時に、母から『限界突破勉強法』『大逆転勉強法』の書籍をすすめられました。その内容は全てが自分にとって新しく、感動し、スクーリングを決意しました。私の実家は青森です。この塾で学びたくて、10日間の短期合宿に行きました。この10日間はとても濃密で、勉強以外にメンタル面や生活面で多くのことを学びました。特に印象に残っているのは、「受験勉強は本気でやれば3カ月で終わる」という村田先生の言葉。今まで自分が出会ってきた人とは、熱量も、考えていることも全く違うスタッフさんとの出会い、自分が変われるのはこの場所しかないと考え、入塾を決意し、青森から大阪に来ました。今思い返すと「一日一日が新しいことだらけで、常に何かを学ぼう」という姿勢でやっていました。

気づけば20kg痩せていた

一人暮らしでの食事も、社員食堂ゆに

わの塾生セットを食べることで、エネルギーを蓄えることができ健康的です。外部模試を受けに行った時などは塾にいる時より多くのエネルギーを使うため、模試から帰ってきた後のごはんはエネルギーをもらい、どんなに疲れていても勉強しようという姿勢に自然となれました。そして驚いたのが、入塾当時、ちょっとぼつやりしていました。何の努力もせず、卒業する頃には20キロ痩せていたことです。

短命県を救いたい

また、この塾の「食」に対する考えから、自分の夢も大きく広がりました。私の故郷である青森県は寒い地域のため、塩を多く使った食事が多く、そのため短命県と呼ばれています。ある日、柏村先生から「マクドナルドがなぜハッピーセットを赤字だったとしても売っているのか」という話を聞きました。その理由が、子どもの頃の食生活が大人の食生活と同じになるから、つまり、子どもの頃からマ

クドナルドの化学調味料の味を覚えさせるためだという衝撃的な事実を知り、青森県の食生活を子どもの頃から変えることにより、短命県を脱することができるとは思いませんでした。それを目標に医師を目指し受験勉強に取り組んでいました。

「出ているやー」の精神

塾では勉強以外に、メンタル面や「今後の人生をどう生きるか」について多くを学びました。特に印象に残っているのが、村田先生の「高田延彦方式で乗り越えろ！」という話です。プロレスラー高田延彦さんには、「出ているやー」という名セリフがあります。強い相手に向かって、あえて挑発するのです。それと同じ心意気で、「自分の弱さに屈するな、苦手に負えないな、限界を超えていけ。人はビビっていると、勝手に自分の心の中で不安や恐怖を大きくしてしまう。それは幻想に過ぎない。けれど、相手は挑発するような強気していると、不安も恐怖も、おのずから去っていく」という教えでした。それがすぐくしくりきて、勉強中にまわりがうるさくて集中力が切れてしまう時なども、「もっとうるさくしていー」と、心の中で唱えました。すると本当に、どんな

環境でも動じない心が保てるようになりました。ここで学んだことは、今後の人生で活かせることばかりでした。

ご縁を感じた瞬間

先生方から、「自分に縁のある大学にいきなさい」と言われてきました。が、受験を終えた今、本当にその通りだと思えます。私が合格した大学は、自分の生まれた場所であり、父母の母校です。面接時には、自分の子どもの頃を知っている先生と、マンションの隣の部屋に住んでいる人が面接官でした。ご縁を感じずにはいられませんでした。

このように縁のある大学は必ずあります。受験生の皆さんは、ぜひご縁のある大学に行つて学び尽くしてほしいと思います。

これから受験する皆さんへ

これからミスターステップアップの入塾を検討している方へ。この塾はきつと日本で唯一受験勉強から人生を学べる塾です。この塾でしか経験できない受験生活や、学べることがたくさんあります。そして人間的にも成長することが出来ます。遠方からでも入塾して良かったと思うくらい、濃密な時間を過ごすことができます。



限界突破コースは私語厳禁。無我夢中で勉強する背中で、互いに語り合った。戦友のような絆がうまれた。



受験本番を迎えた時に、この場所で過ごしたかけがえのない時間を思い出した。濃密な時間は一生の宝になる。

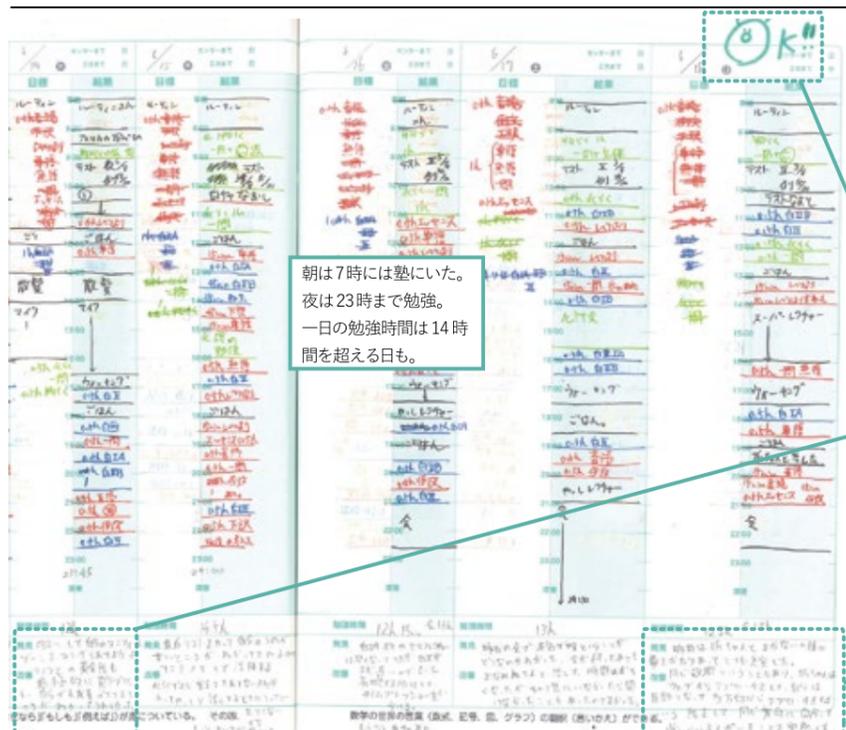
ました。現状、自分の将来のビジョンがわからない人や、ヤル気が湧いてこない人、自分の人生を絶対変えたい人、どんな人でも、この塾で自分の人生を変えることができます。ぜひ一度この塾に来てみてください。その瞬間から人生が変わり始めます。

本番10分前にこみあげてきたもの

実は、入試が始まる10分前。私は泣きそうな気持ちでした。何の涙か。この一つの試験を受けるまでにどれほど多くの人に支えられたのかをありありと感じて、「ありがとう」という言葉が自然に湧いてきたからです。この塾でなければ、こんな経験はできなかったと思います。この一年間、自分を支えてくださった家族、スタッフの方々、本当にありがとうございました。次は自分の夢、目標を叶えるために東北で活躍します。

pickup

向井田和希くんの合格手帳を公開



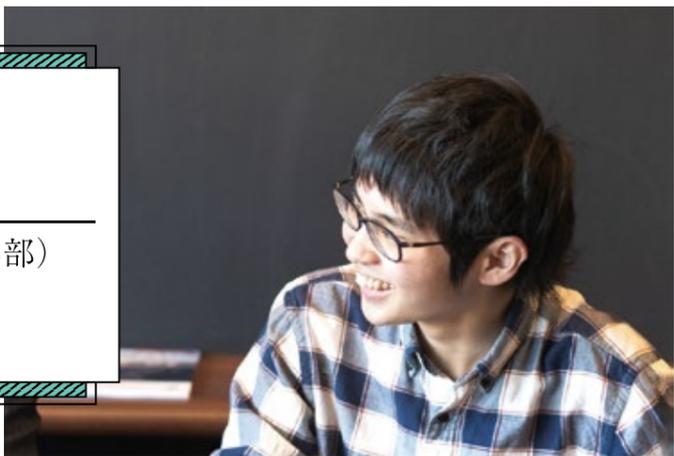
講師の弓場先生に手帳をチェックしてもらった日には「コッコマーク」が、一日にやったことを丸ごと報告することで、いつも行動のズレを修正していた。

思い切った坊主にした日。勉強だけに集中するため、煩惱をぬぐうような気持ちで丸刈りにした。

同じ青森出身のスタッフと、食事の席で地元の将来のことや、互いの夢を語り合った思い出の日。日々の熱い対話によって志がより大きく、高くなった。

朝は7時には塾にいた。夜は23時まで勉強。一日の勉強時間は14時間を超える日も。

この合格は自分の力だけではない。 不思議な力に支えられた1年でした！



Congratulations!
みずの たかまさ
水野隆雅

兵庫医科大学 (医学部)
岩手医科大学 (医学部)
金沢医科大学 (医学部)
近畿大学 (医学部)

現役時代から 塾への想いをつのらせて

僕は中・高一貫の進学校に通っていましたが、しかし成績は悲惨で、とても医学部に行けるような状態ではありませんでした。ミスターステップアップは、高3の夏休みのスクーリングが最初でした。1ヶ月間のスクーリングが終わった時、まだ現役の夏だったにもかかわらず、「浪人して、この塾で勉強したい」と思いました。直感的に「ここなら自分を変えられそうだな」と思ったのです。結局浪人することになり、迷うことなく入塾を決めました。

毎日のごはんが元気の源だった

入塾して、自分の変化をはっきりと自覚したのですが、それは間違いなく仲間や先生と食べる毎日の食事のおかげです。塾の近くにある社員食堂ゆにわで頂くのですが、こんなにも元気の出る食事は他にないと思います。入塾するまではスナック菓子やカップラーメンをひたすら食べていて、食事の大切さを全くわかっていませんでした。いろんなスタッフに食べ方を教えることと得られるエネルギーが大きくなるよと教えてもらい、食べ方にも意識を向けるようになりました。

温かいものが身体に溜まり 落ち着いて勉強できた

僕は、自分の集中力のなさにほとほと悩んでいました。どんなに良い勉強法を教えてもらっても、集中力が欠けていて、なかなか成績が上がりませんでした。現役の時は、3時間勉強机に座っていても解いた数学の問題がたった1問、ということもざらでした。それが毎日塾で食事をするとようになり、食べ方を変えた結果、次第に身体にじんわりと温かいものが溜まっ

手作りの合格弁当が 土壇場で救ってくれた

もう一つ、入試の日に食堂スタッフが作ってくれてくれる「合格弁当」。正直これがなかったら、途中であきらめていた試験は幾つかありました。例えば本番一発目、岩手医科大学です。数学が全然できなくて、もう無理か...と諦めムードになりましたが、「合格弁当」を食べたら次の教科で取り返せばいい、と前向きに考えられるようになりました。もし「合格弁当」がなかったら多分落ちていた、と本気で思っています。自分の力ではなく、何か不思議な力に助け

ていく感覚がありました。そして、気がつけば落ち着いて勉強に取り組めるようになり、苦手な場面でも目の前の課題から逃げなくなりました。以前の僕からしたら信じられないくらい集中して勉強できるようになったのです。



スタッフさんたちが、早朝から作ってくれる合格弁当には、心の底から救われた。

られたと思いました。こんな経験もあり、食事でこんなに変わるなんて...と感謝の気持ちでいっぱいです。
一緒に受験を乗り越えた塾生仲間には本当に刺激されたし、朝やっていた円陣は良い思い出です。ミスターステップアップに入って僕は変わりました。もちろん、これからも学び続けます。本当にありがとうございました！



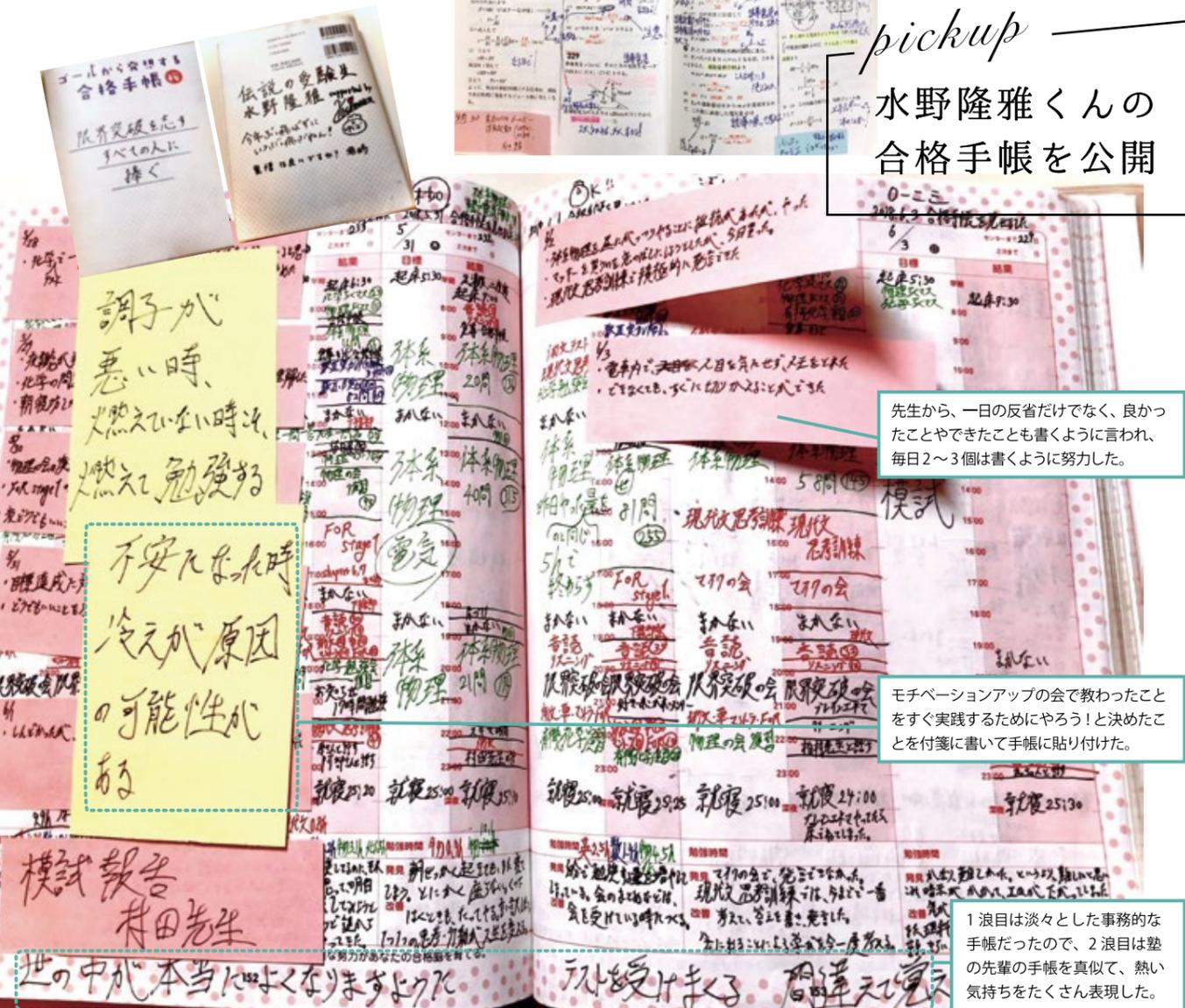
体系物理の問題集。物理は苦手だったので苦戦した。どうしても物理を好きになりたいと、対話するような気持ちで書き込んでいった。

pickup 水野隆雅くんの 合格手帳を公開

先生から、一日の反省だけでなく、良かったことやできたことも書くように言われ、毎日2〜3個は書くように努力した。

モチベーションアップの会で教わったことをすぐ実践するためにやろう!と決めたことを付箋に書いて手帳に貼り付けた。

1浪目は淡々とした事務的な手帳だったので、2浪目は塾の先輩の手帳を真似て、熱い気持ちをたくさん表現した。



あちこちに感動が散りばめられていた塾での生活。

人生観が変わり、新たな一步を踏み出せました。

Congratulations!
ささの あつのり
笹野 敦功

金沢医科大学 (医学部)



求める気持ちも導いてくれた塾との出会い

私は、何かを求めていました。その大事な何かが、自分とはかけ離れたところにあると思い、勉強に真面目に向き合えずにいました。そんな私を、一冊の本が待ち構えていました。『大逆転勉強法』です。雄大さをたたえるその本は、ページをめくる度に私を温かきで満たしてくれました。ついに本を購入。その後、しばらくして、カウンセリングコースを受けに行くことができました。それが期待以上に素晴らしい、次はスクーリングに参加しました。ここでは、嫌々ではなく、楽しみながら勉強でき、充実感がありました。それまで求めていた何かと勉強法が一つになっているようでした。『限界突破勉強法』も読み、チャレンジすることの素晴らしさを感じて入塾しました。

塾での生活は、気づきと発見の連続！

実際に塾へ足を運ぶと、その良さにさら

に気づきました。塾は、大事なことが凝縮された空間で、いきいきと勉強することができました。先生たちは長くつきあえばつきあうほど、心に染みるよい人たちで、生き様が大事であると教えてくれました。いつしか、私の心から迷いがなくなっていきました。

世のため人のため、という生き方が、近くに感じられるようになりました。医学部合格との心理的距離もしぜんと縮まりました。どの先生も本質をついた多くの鋭い見方を語ってくれました。どの教科に対してもしっかりと心理的な壁を取り払われ、のめり込めるように勉強できました。

この塾で教わった勉強法は、私の勉強の概念や人生の見方を変えてくれました。勉強だけでなく、人生のあらゆる局面で、根本的に正してくれました。

そうして、これまでのちっぽけな自分を捨てて、日々どんどん別人に生まれ変わっていくようになりました。特に私の印象に残っているのは、「死に物狂いで勉強してみなさい」という南極老人からのメッセージです。この言葉は、私がストイックに勉強している

「つもり」のときに頂きました。まだ詰めが甘かったのです。さらに当時は、死に物狂いで勉強することがみつともない、という思いこみもありました。ところが、それはむしろ逆で、死に物狂いで勉強することに受験勉強の意義や美徳があり、それを実践しなければ、今後出会う患者さんに対しても失礼に当たるとの、ということに気づきました。

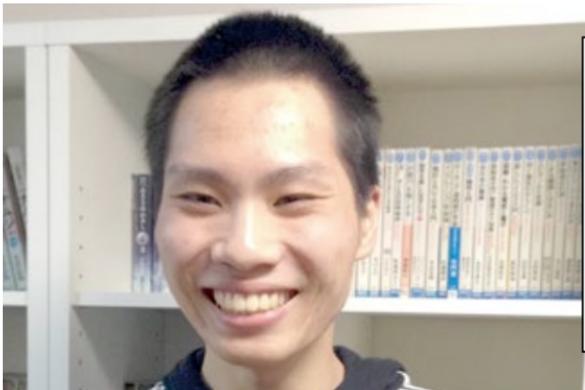
この塾で学んで、新しい一步を踏み出せた

塾での生活は、至るところに小さな感動がちりばめられていました。

一見困難なことも乗り越えていくうちに、それが当たり前となり、まだ見たことのない自分との出会いがありました。年間を通して勉強に集中することを可能にしてくれたのは、素晴らしい環境や多くの方々への支えのおかげです。

最後までずっと見守り続けてくれ、必要な時に救いの手を差し伸べてくれたスタッフさんが心強かったです。大事な一步を踏み出せるように導いてくださり、新たなスタートを切ることができました。本当に、ありがとうございました。

覚悟を決めて、 限界突破勉強法に取り組みました！



Congratulations!

ひだかしゅんぺい
日高 舜平

自治医科大学 (医学部)

兵庫医科大学 (医学部)
獨協医科大学 (医学部)
愛知医科大学 (医学部)

絶望の中での一大決心

僕は現役の時に『大逆転勉強法』に出会いました。現役の時は、学校の勉強と受験勉強とが両立できず、結果、国公立大学の試験で足切りになってしまいました。絶望に打ちひしがれていた僕が、この先どうすればいいのか途方に暮れていた時に、真っ先に思い出したのが「ミスターズ テップアップ」でした。「宮崎を出て、塾のある大阪に行こう」と強く決心し、入塾説明に足を運びました。

すべて託して、僕は変わった

もともと、僕の得意科目は英語でしたが、毎日モントラを続けた結果、英単語が向こうから飛び込んでくるような感覚を得て、飛躍的にレベルアップすることができました。物理は現役の時はセンターで53点でした。今にして思えば、基礎がまったくできておらず、難しい問題集に手を出していたことが原因でした。今年は一ツ、徹底的な理解ができるように、繰り返し反復練習をしました。そのおかげで、本番では91点を取ることができました。



柏村先生のコメント

何よりの変化は、心理面でした。現役のころ僕は「自分が医者になっていいのか？」という迷いを抱えながら勉強していました。しかし、この1年間は信頼できる先生方に自分のすべてを託して、勉強に専念。その結果「すべての受験生の中で自分が一番医者になさわしい！」と思えるほど、高いセルフイメージを持つことができました。

「1年間本当にいろいろとお世話になりました。受験勉強に限らず、人生において大切なことを数えきれないほど教えていただきました。ここで1年間勉強できたことが、僕にとって何よりの幸せです」合格発表の直後、日高くんが私たち講師のところに訪ねてきた時のセリフです。その表情から、限界突破勉強法を最後までやりぬいた達成感があふれていました。

日高くんの座右の銘は「覚悟」でした。朝は7時から夜は23時まで、自分を追い込み、他の人が日高くんに話しかけるのをためらうほど、毎日ストイックに勉強に向き合っていました。

した。自分の調子が悪いと感じた時ほど、講師のもとに相談に来ました。日高くんの覚悟に心えようと、幾度となく、彼には厳しく接しました。普通の受験生であれば、もっと優しく接するべきだったかもしれない。普通を受験生であれば、立ち直ることができなかったかもしれない。しかし、私は日高くんの覚悟を前にして、生半可な言葉や姿勢は、むしろ失礼だと感じたのです。そして見事に、彼は何度も立ち上がってきました。自分の弱点や課題に真摯に向き合い、逃げ出すことなく、自分の限界を突破していったのです。

日高くんは言います。「自分が合格できたことは、自分の力だとはまったく思えません。こんな最高の環境で勉強させていただいたこと、それが僕の合格の秘訣だと思います。自分がいただいたこの恩は、一生忘れません。これからは、この受けた恩を、世のため人のために返していきたいと思えます」

「できないこと」は、数えだすとキリがないけれど、
「できること」を見ると、悩みが消えた。

手を抜いて、言い訳材料をつくるのは、もうやめた

Congratulations!
ふじい やすひと
藤井 康仁

聖マリアンナ医科大学
金沢医科大学 (医学部)



入塾説明に行つて、入試までに何をやるべきなのかを詳しく教えてもらい、「ここなら絶対に合格できる!」と思い、入塾を決めました。入塾した当初は、すぐに弱音をはいたり、不安になってしまいました。しかし、先生からアドバイスをいただき、「できないこと」ではなく、「できること」に目を向けるように心がけました。そのおかげで、セルフイメージも高まり、小さなことで落ち込まなくなり、弱音をはかなくなりました。

さらに、物事に全力で臨むことの意味を学びました。以前までは、ある程度の力でやればよいと思つていましたが、この考え方は、できなかった時の逃げ道をつくり、言い訳をしてしまいます。全力で臨んで失敗すれば、逃げ道はできません。その失敗を真正面から受け止めて、次に活かそうと思つて、僕はこの一年、一切言い訳ができません。本気で受験勉強に向き合うことができました。

得意教科をより得意に
苦手教科は徹底特訓

得意教科は化学でしたが、それぞれの分野の理解ができて、全体的なつながりがあり理解できていませんでした。それを先生から教えていただいたおかげで、知識が上がり、全体が見え、より深く理解できるようになりました。

苦手教科は英語でした。はじめは英語構文をとることができず、苦労しました。しかし、下線部和訳の添削演習を通して、英語力を鍛えていくことができました。先生方は塾生のことを本当に親身に考えてくれます。どんな人でもミスターステップアップで過ごせば、人として成長することは間違いありません。特に、悩みの多い人や今年で絶対に合格したい! という人にオススメです。全力でやれば、明るい未来が待っています。ぜひ、全力投球で頑張ってください。



柏村先生のコメント

習慣を変えれば、成績は上がります。藤井くんは入塾当初、「ほんとに合格できますか?」「これで良いのかな?」と、弱音をはくのがすっかりクセになっていました。このような状態では、一生懸命勉強しても、なかなか成績は上がりません。いくら考えても答えのないことを、エンドレスに考えている限り、潜在意識はフル活用できません。

私から藤井君には、「合格できるとしたら...」と考えるようにアドバイスしてました。藤井君はだんだんと明るい表情になり、話す言葉も、ポジティブになっていきました。ちょうどそのタイミングです。藤井君の成績が一気に上がりだしたのは、入試直前期に行う面接の練習では、堂々と自信をもって、ハキハキと質問に答える彼の姿がありました。藤井君自身も、「入試本番の面接でも、しっかりと自分の気持ちを伝えることができました!」と、自分の変化を実感しているようでした。

毎日15時間勉強するのがあたり前になり、
医学部に行く覚悟とともに一年間を過ごしていました。



Congratulations!

たかはし まり
高橋 茉里

聖マリアンナ医科大学
東海大学 (医学部)

『限界突破勉強法』に
人生を懸けた

私は何としても、『限界突破勉強法』を実践したくて入塾しました。私のように、特別勉強ができるわけでもない、ごく普通の人間でも医学部に入れるのかな...とすれば良いのか...と思つていたとき、インターネットで見つけたミスターステップアップ。衝撃的でした。ただがむしゃらに努力するのではなく、感覚を変える空気の溢れた場所で勉強する...。いままでに聞いたことのない話でした。でも、だからこそ、ここで勉強すれば私でも医学部に合格できる!と思いました。『限界突破勉強法』に人生を懸けたいと思つたんです。

塾のスタッフに会うと
元気になる!

入塾して嬉しかったのは、とにかく、スタッフの皆さんがよく声をかけて下さったこと。勉強がうまくいかないときも、一日も休まず塾に来たのは、自分ひとりじゃないことをいつも実感できたからです。会

やる気になる空気があった

うと元気になる、力が湧いてくるんです。スタッフの皆さんの塾生を支えようという気持ちは、本当に、スゴいです。皆さんが私の合格を私以上に喜んでくれたことは、「合格したこと」よりも本当に嬉しかった。ゆにわの美味しいまかないも良かった。これは、入塾の決め手にもなったものです。一人暮らしでも安心して勉強することができたのは、ゆにわのごはんがあったからです。

毎朝決まった時間に塾に行つて、まず最初にすることを決めていきます。そうすると1日のエンジンがかかります。それと、昼夜のごはんの時間が決まっているのも、「ごはんまで!」と良いペースメーカーになりました。受験勉強は、勉強法で悩むのと同じくらい、モチベーションの維持で悩みます。合格はしたいけれど、イマイチやる気がでない。そんな人はぜひこの塾に来てみて下さい。塾の空気に触れたら、「私もここなら勉強できる!」と、根拠なく思えますから。



柏村先生のコメント

四年制大学を卒業後、医者を目指した高橋さんは、再受験のためにミスターステップアップに入塾。大学受験から離れて5年以上たったいたので、なかなか勉強が軌道にのりませんでした。特に苦意識が強かった数学の成績が伸び悩んでいました。しかし限界突破コースを受講した彼女は、休まず、遅刻もせず毎朝9時には塾に来て、14~15時間コンスタントに勉強。毎日のやるべきことを確実に終わらせていきました。医学部に行くための勉強をこなす覚悟が、彼女にはあったのです。

合格するために必要だったのは、「絶対にできる!」と自分を信じることでした。彼女がその感覚を会得したのは受験本番。「これほど問題集を反復してきたのだから絶対に大丈夫だ!」と信じることができました。一年間、自分に課したノルマをこなし、自分を裏切らなかつたこと。そして、圧倒的な勉強量。彼女の合格は当然です。

対人関係の悩みがなくなりました！

Congratulations!

岡田 真央

藤田医科大学 (医学部)



勉強だけに エネルギーを注げる幸せ

ミスターステップアップに通って、一番良かったことは、対人関係に悩むことがなくなったことです。

駄弁禁止という厳しい環境の中だったけれど、そのおかげで人間関係に悩むことなく、勉強だけにエネルギーを使うことができました。また、それまでの栄養のない食生活とは違って、ゆにわの食堂で食べるご飯はとてもおいしいし、エネルギーもたくさんもらえました。

毎日「合格手帳」を書くので、自然とムダな時間は減り、集中して勉強できる時間が増えました。同じ教材を7回以上完璧になるまでやることで、特にセンター英語の文法は、短期間でほぼ間違いない答えられるようになりました。

また、去年の敗因は、基礎が固まっていない状態で色々な問題に手を出してしまい、結局何も身につけなかったところでした。なので、この塾で教わった「7回以上

の反復」は、かなり合格につながったと思います。

苦手な面接も 先生との特訓で乗り越えた

大逆転の会では、勉強の話や食事のことや偉人の話など、様々な話を聞くことができました。ミスターステップアップの卒業生の話を聞くことも多く、先輩方の話を聞くことで、より自分もがんばろうと思えました。

先生方からは、一年間たくさんアドバイスをいただきました。特に、医学部の場合、面接試験があるのですが、私は面接が苦手なものにもかかわらず、去年は全く練習せずに試験を受けていました。結局、上手く答えることができず、トラウマになってしまっ

た。今年柏村先生や村田先生と何度も練習しました。反省はありますが、去年のやりきれなかった面接とは違い、しっかり答えられたと思います。

アドバイスを実行して、新しい自分に生まれ変わった

最初は不安になることが多く、やっぱり医学部にこだわらず受かった大学に行った方が良かったかなと後悔したこともありましたが、それでも、毎日の食事からエネルギーをもらい、大逆転の会で色々な話を聞くうちに、そんな後悔もなくなり、絶対合格するんだという気持ちに変わってしまいました。

ミスターステップアップで先生から聞いたアドバイスは、全てではなくても、自分ができる限りのことを実行していれば、いつの間にか、1年前の自分とは全く違う自分になれると思います。

大人になる。 この誓いが私を変えた。



Congratulations!

葉山 莉名

川崎医科大学 (医学部)

中学の頃の延長ではダメだと気づき、入塾を決意

私が中学生の頃、高校から寮生活がしたい！という一心で猛勉強し、偏差値を20上げ、医学部の附属高校に合格しました。しかし、その時の勉強法はというと、高校に進学するためだけの勉強で、中身なんから、自分なりに努力をしてみるもの思うように成績は伸びず、気が付けば進学も危ない状況になりました。そんな時、ミスターステップアップのホームページを発見し、早速入塾を決めました。

「もう逃げない！」と 覚悟を決めた瞬間

ミスターステップアップには高2の冬から通っていましたが、当時は塾でおいしいまかないを食べて満足するものの、勉強はまったくやらないという日々でした。そんな中身のないスリカスカな私でしたが、高校3年になった春、今までそばで勉強していた一つ上の塾生たちが皆、卒業して大学生になっていくのを見て、

徐々に変わっていきました。

それまでは、塾のスタップに心が開けず、その上、附属高生というコンプレックスで、正直、塾に私の居場所はないと思っていました。でも、必死になって勉強していた先輩方が大学生になり、キラキラしている姿を見て思ったんです。このまま寂しさや自分の醜さと向き合わずに逃げていたら何も変わらない！私は大人になります。そう自分に誓い、何もかもを自分から取り去った結果、残されたのは「もう、やるしかない」という覚悟だけでした。

泥臭くやり切ったから 今の自分がある

移動時間は録音した暗記事項を聞いて頭に叩き込み、塾以外でも所かまわず勉強し、苦手科目は毎日5分でもやって、好きになるところから始めました。そして、自分から先生に手帳を見せに行き、相談に何度ものつもらい、塾に対して徐々に心が開けるようになっていきました。おかげでそれまでは怖かった村田先生とも、たくさん話せるようになりました(笑)。

それからは、勉強の楽しさも分かります。はじめ、実力が上がっていくのを実感しました。しかし、テストはそんなに甘くはありません。前より順位が下がっていたのです。

こんなにも努力しているのに、自分のやっていることが合っているのか間違っているのかわからない。寮で泣きながら村田先生に電話しました。その時はテストのことで心がズタズタで、言われた内容はほとんど覚えていませんが、先生の声を聞いて大逆転の会を思い出し、『これが逆境か！』どんな結果になっても、とにかくやりきってみよう！と決めたことだけは覚えています。

私は、附属高校出身です。でも全てを取り返すくらい勉強して人の心や命を救う人間になる。そう決めました。これまで過ごした毎日を決して完璧ではなかったし、嫌というほど泥臭かった。でも泥臭かったからこそ、今の自分があるんだと思います。私は、塾生の一人一人と、塾のあの空間が大好きで、感謝でいっぱいです。本当に、ありがとうございました。

信じて応援してくれた先生方と一緒につかんだキセキの合格



Congratulations!

おざわ こうすけ
小澤 皓介

京都大学 (教育学部)

**メンタルの弱さで
私立の医大は全敗**

秋頃から、メンタル問題が浮上し、勉強が手につかなくなりました。村田先生から「最高の医者になると決めたらいい」と言われました。その日から、このフレーズを、潜在意識に届くまで、毎日唱えました。自習机にもバンと大きく紙に書いて貼り出しました。

医者になったら、手を抜いていい瞬間なんかないのです！ 私の精神的弱さを、先生方は見抜いていました。ムリだと思った瞬間から全力を出さず、英語なら誤読が増え、数学なら計算ミスばかりします。

センターで失敗して「もうムリ……」と思ってしまう前は、私も全敗。完全にメンタルの弱さが原因でした。他学部も受けることになりましたが、今までの自分なら「他学部はイヤー」と言ってしまうと書いています。

でも、この時はやはり違いました。どの学部であれ、全力を出すことで、医学部の合格につながる気がしたのです。

**泣きたいなら
頼ればいいじゃないか！**

国立二次試験の2日前、埼玉医科大学の結果を見ると、結果は不合格。ここでプレたらダメだと思い、黙々と勉強しました。心の中では涙を流していたのですが、素直に頼れず、強がっていたのです。でも、強引に柏村先生に呼び出され、「泣きたいなら頼ればいいじゃないか！」と言われました。心のダム、決壊。涙はなかなか止まりませんでした。

国立2日前なのに、全く勉強できず……。でも、柏村先生はずっとそばにいてくれたのです。先生方は、私がどんなに迷惑をかけても、どんなヒドイことを言っても、私を見放すことはありませんでした。

本番に起きたキセキ

『E判定からの限界突破勉強法』には、「知っている問題が出る！」と書かれています。私は一度も経験したことがありませんでした。「医学部には縁がないのかな……」と感じていた頃、国立大学の入試で、数学の問題を見ると、なんと『実力

アップ問題集3』の問題と同じだったのです！ このキセキは、私一人でつかんだものではありません。ニガテだからずっと避けていた問題があることに弓場さんが気づき、「今日中に完璧にしなさい！」と怒ってくれた問題でした。何度も反復したおかげで、解法も完璧に覚えていました。

私にもキセキが起きましたが、合格発表までは、私立医学部の後期試験に向けて勉強を続けました。「3月末まで勉強を続けなさい！」と、先生方から何度も言われていたためです。普段の自分の姿勢が、前期の国立の結果を決めると思っ、勉強をやめませんでした。

そして合格発表の日、結果はまさかの合格。瞬時に「これは自分の力じゃない。叱咤激励してくれた先生やスタッフの皆さん、私を信じてくれた両親のおかげだ」と思いました。そして、もしわたしにも理由があるとしたら、秋に「最高の医者になる」と決意したことだと思います。ミスターステップアップでは、普通じゃない何かが絶対にあります。本当にありがとうございました。

メンタルを鍛えたら、本番でも動じなくなりました！



Congratulations!

おざわ こうすけ
小澤 皓介

京都大学 (教育学部)

**毎日たった30分のラジオで
弱点を克服できた**

僕はメンタルの弱さが一番の課題でした。第一志望の京都大学の入試は2日間あります。現役の時、1日目の国語と数学が思うようにいかなくて終わった瞬間「もうダメだ」と諦めモードに。「どうせムリだ」と思いながら、2日目の受験をしました。当然ですが、結果は不合格。そんなときに見つけたのが、よなたんのYouTubeです。中でもメンタルの話に惹きつけられました。そして、「ここで学べばメンタルが鍛えられそうだ」と思い、通信コースへ入会を決めました。

通信コースの中でずいぶん助けられたのが、モチベーションアップのためのラジオ音声です。朝は約10分、夜は約20分の音声が配信されます。モチベーションを上げる方法や、メンタルを強くする方法や日常の習慣など、いろんな角度からやる気の出る話してくれます。この音声を聴いているうちに、メンタルが強い人の感覚がうつってくるのです。落ち込んだ時も、ラジオを聴けば「そう考えればいいのか！」と前向きにな

**直前期も、本番も
先生の言葉に救われた**

印象に残っている経験と言えば、やっぱり直前期です。ラジオから受験で人生を変えよう」と言うフレーズが聞こえてきて、心にグサツとききました。だからこそ、真剣にその言葉を受け止め、「自分も受験で人生を変えるぞ！」「今、ここで自分を変えないで、いつ変える？」と、何度も自分に問いかけました。特に共通テスト前は、かなりナーバスになっていましたが、一日一日をちゃんとやりきろう、今日が合否の分岐点だ、という気持ちで取り組みました。問題集は何十回反復したかわかりません。だからでしょう、前日は「これでいける」って腹が据わった感じになりました。共通テストの当日の朝も、ラジオを何回も聴いて、「絶対にあきらめない、ここで挽回(ばんかい)できたら面白いじゃん」とつぶやきながら、試験会場に向かいました。

数学は順調でした。なのに途中、現代文でお腹をこわしてしまい、ト

**反復したことが
本番でも生きてきた**

こんなに前向きでメンタルが強い自分に生まれ変わったのは、毎日塾から送られてくるラジオ音声を聞いていたおかげです。家で先生方の話を聴きながら、頭の中で反芻(はんすう)して、実践して、自分のものにしていった日々が、良い結果につながったと思います。ラジオの内容を日常の中で繰り返し反復するうちに、自然と血肉になつていきました。

先生の話我每天聞く、ということは受験と関係ないように思えるかもしれませんが、でも、受験は心理戦です。心理戦を制することができ、これが大きかったと思います。

先生方がいなかったら、この合格はなかった



〚宣言〚で自分を鼓舞し、最後の一秒まで闘いぬいた

印象に残っているのは、国立二次試験です。試験は2日間あったのですが、1日目为例年とは違った問題形式になっていてパニックになりました。

「もうムリだ…」と気持ちが折れそうになったのですが、これではダメだと試験が終わってから、弓場先生に電話をかけた。

「明日に向けて気持ちを切り替えないといけないけど、悔しさや、やるせなさも感じていて、どうしたらいいかわからないんです」

と感じていることを正直に打ち明けました。すると弓場先生は、

「ここまで勉強してきたから、今悔しく思ってるんじゃない？ 今まで、心が折れそうになっても、相談しながら何度も立ち上がってきたやん。明日の小論文の試験もあるから、最後まで頑張ろう！」

と励ましてくださったのです。話しているうちに、どんどん落ち着いてきて元気になり、最後には「試験が

終わるまで、絶対にあきらめません！

〚と宣言。そうして2日目の試験は、最後の1秒まで手を止めずやり切れませんでした。

あの時、弓場先生と話していなかったら、この合格はなかったと思います。

一日を一生のごとく生きる！後悔のない勉強を続けた記録

現役のときからの課題が、ネガティブな感情を引きずりやすいことでした。気持ちの切り替えが下手で、何か失敗したり、うまくいかなかったことがあったら、後悔ばかりしていました。

それを村田先生に相談したときに、「一日一生」という言葉を教わりました。「一日一生」とは「一日を一生のごとく生きる」こと。まさに、今のわたしのための言葉だ、と思いました。

それからは寝る前に「今日一日、後悔のない勉強はできたか？」とどれだけ努力し、何を学んだのか？」と振り返り、合格手帳に書くようにしました。ポジティブなことだけを書いて一日を終

えるのです。そのおかげか、一日の勉強量も、勉強の中身も、どんどん濃くなっていきました。

先生と一緒に新聞を読み、思考力が鍛えられた

九州大学の二次試験で必要となるのが、英数と小論文です。

小論文を書くには、広い視野と自由な発想、順序立てた論理的思考力がどうしても必要でした。その対策として役立ったのが、武田先生(通称・やっし先生)と数人の塾生とで新聞を読みながら議論した経験です。

どんなギモンにも答えてくれる、東大博士号を取得されているやっし先生と、追求心の高い仲間たちと語り合ったことによる気づきは深く、多岐にわたります。議論のおかげで、思考も緻密になっていきました。

知識と知識が繋がっていくおもしろさは、何物にも代えがたい喜びでした。この感動を忘れず、大学に行っても、世のため人のためになる研究をしていこうと思います。

一年間、ありがとうございます。

E判定からの大逆転！最後まで諦めず、合格を掴み取った



E判定からのスタート。スクーリングが転機に

僕は、第一志望の京都工芸繊維大学に合格することができましたが、決して余裕があったわけではありませんでした。

実際、高校3年生の4月の時点で、模試はE判定。さらに、英語の単語を始めたのも、高校3年生の春で、全教科の勉強に至っては、部活が終わった8月からのスタートでした。

そんな、他の受験生に追いつくのが厳しい状況になった時、ミスターステップアップのスクーリングに参加しました。

スクーリングでは、どんな状況からでも第一志望に合格するための計画を、講師の先生と一緒に立ててくださり、勉強法を学ぶことができました。

そして、生徒たちの勉強している雰囲気を目の当たりにしたり、モチベーションアップの会に参加したりすることで、勉強の妨げになることを捨てて、全てのエネルギーを勉強に注ごうと思えるようになりました。

教えてもらったことを信じ、最後まで諦めなかった

スクーリング後から、勉強漬けの日々が始まりました。

また、スクーリングが終わっても自分の中で守っていたのは、講師の先生を信じて、教えていただいた方法を実践し続けることでした。

例えば、何度も反復するのは、立ててもらった計画に書かれている教材だけにする。それまでは、学校でいろんな教材を勧められて、それをひたすらやる時期があったのですが、なかなか一つの教材を完成させることができませんでした。だから僕は講師の先生を信じて、計画通りに教材を終わらせて、反復学習するようにしました。

受験生はメンタルが大事だと教わりましたが、他の受験生が模試の結果が振るわず、勉強が手につかなくなったり、共通テストで失敗して、その後の二次の対策ができなかったりする中、僕はラジオを聞き続けていたので、直前期に勉強が手につかなくなることはありませんでした。

そうして、最後の最後まで諦め

なかったことで、合格を勝ち取ることができました。特に、勉強計画を立ててくださった柏村先生には、本当にお世話になりました。ありがとうございます。



柏村先生のコメント

部活に所属している高校3年生が志望校に大逆転合格するためには、綿密な勉強計画・効率の良い勉強法・圧倒的なモチベーション、この3つが欠かせません。

寺田くんの場合も、を引退して本気で受験勉強を始めることができたのは8月だったので、残り半年で成績をあげなければなりません。講師が立てた勉強計画を忠実に実践し、勉強法の肝である反復練習や音読などがズレていないのか確認し、通信コースのラジオでモチベーションを高め続けました。国公立の二次試験前には、過去問の分析の方法を講師に質問したり、答案の添削指導などを受けることでラストスパートをかけることができました。

合格おめでとう！

“限界突破”を繰り返した日々が、 成長する喜びを教えてください

Congratulations!

ふるたに たいと
古谷 泰斗

九州大学 (理学部)

東京理科大学 (理工学部) 立命館大学 (理工学部)
同志社大学 (理工学部) 関西大学 (システム理工学部)
明治大学 (理工学部)

諦めきれない！
強い思いが私の背中を押しした

現役の時、センター試験で思うような結果を出せず、第一志望の九州大学を諦めざるをえなかった。二次試験に乗り気ではなかった私を見かねた母が「九大に行つて、自分の気持ちを確かめておいで」と言ってくれた。翌日、一人で九大に行つてみると「やっぱりここで学びたい！」という強い思いがこみあげてきた。

けれど、当時の自分では、浪人してもこの難関大学を合格する自信がなかった。しかし、尊敬する先生が勧めてくれた『限界突破勉強法』を読み直すと、自分を変えたい、やっぱりここでしか変えられない！と思い、ミスターステップアップで浪人しようとした。両親に相談したら初めは反対されたが、とりあえず入塾説明に大阪へ一緒に来てくれた。塾内を見学し、食事のすばらしさ、勉強面、生活面を支えてくださる体制に母は安心し、入塾に賛成してくれたのだ。

最後まで踏んばり
どんな壁にも打ち勝ってきた

自分の限界を突破するのは、容易ではなかった。1日13時間以上の勉強はあたり前。弱い自分、醜い自分との葛藤の日々。叶えたい夢があるにもかかわらず、辛く逃げだしたいと思うこともあった。

でも、そうなる度に、先生方やスタッフの方々が絶えず支えてくださった。同じ部屋の限界突破生の頑張る姿には、いつも励まされた。

前半期は、模試で結果を出せず悩んだが、先生を信じてやり続け、秋ごろには良い成績を残せるようになった。そして、センター試験本番ではしっかり得点できた。

しかし、二次試験当日、緊張のせいか発熱してしまい、全力は出し切ったものの、手応えを感じられないまま終わった。塾に帰ってきて、中期、後期の勉強になかなか着手できず、最も精神的にきつい時期だった。

その時、先生方がモチベーションアップの会を開いて下さり、ただ終わるのではなく、最後まで踏んばり通す大切さを教えて下

さった。「もう無理だ」、何度そんな壁がやってきてもそれを打破し、乗り越えることが限界突破。これを達成した時に見える世界に、ものすごく成長した自信あふれる自分がいる！と信じた。「あと何日」と幾度となく言い聞かせ、一日一日を過ごした。苦しくても、その中であがく尊さを、先生方は伝えてくださったのだ。

最高の環境が
なりたかった自分に変わってくれた

第一志望に合格できた今、感じることは、激しく勉強したあの期間が、自分を飛躍的に成長させてくれたということだ。ここで学ぶことができて本当によかった。今はやり切れたと笑顔で言える。

私にとってミスターステップアップは、大学合格だけでなく、なりたかった自分に変わることでできた最高の環境だったということには間違いない。この経験ができたことを思えば、浪人したことはむしろ幸運であったと思う。

これからも、ここでの経験を活かし躍進したい。そして最後に、受験を控えている方々が、自分を極限まで磨き、限界を超えたいことを願っています。

Congratulations!



中北 将吾

神戸大学
(国際人間科学部)

失恋の悔しさをバネに入塾

僕の現役受験は、不完全燃焼に終わりました。大学に落ちたことよりも、自分を変えられなかったことが悔しく、浪人を即決。勉強法の本は30冊も読み、参考書も買い込みました。そんな中で出逢ったのが『大逆転勉強法』。これには衝撃を受けました。そして、少したったある日、3年つき合った彼女に突然フラれたのです。その悔しさが僕を変えました。この悔しさのエネルギーを受験勉強に投入し、ダメな自分と戦おうと決意したのです。

ステップアップに入塾し、毎日13時間、血を吐くほど勉強しました。会話禁止、携帯禁止の厳しい環境でしたが、勉強だけに集中できることは幸せでした。入塾3ヶ月後には偏差値70を超え、東大合格も射程内でした。

「本気でやらないとむっかしい」
先生の言葉に救われた

しかし、大学受験は甘くありません。秋口から調子を崩し始め、勉強できなくなりました。気づけば

11月。ほとんど勉強していないと知らたら先生はどう思うだろう。そう考えていた時、村田先生と目が合いました。罪悪感と申し訳なさが高み上げて涙が溢れました。それから深夜まで、村田先生は僕の話をもじつと聞いてくださり、最後にこう言われました。

「人間は完璧じゃない。弱いところも含めて自分なんだ。そう認めたいんで、どう生きるかは自分で決めればいい。ただ受験勉強は今しかできないから、本気でやらないとむっさいよ」と。

その言葉を聞いて、徐々に調子を取り戻しました。相変わらず弱い自分はいまいましたが、勉強できるようになり、直前のセンター模試では総合9割を突破。その後もストイックに勉強を続けました。

しかし、センター試験本番で失敗し、計画は狂いました。出願は、前期は京大、後期は神戸大。いずれも判定はDです。納得いく私大にも合格していないという崖っぷちでした。

そうして受けた京大の結果は不合格。泣きたかったけれど、2日後には後期試験です。今できることを全力でやろうと思ひ勉強しました。

最後までやり抜いた自分を
誇りに思えた

そして試験当日、朝5時半に塾に行くけど、なんと僕だけのために、酒崎さんと柏村先生が、朝食に美味しいマフィンと紅茶を用意して下さいました。最後まで一緒に戦ってくれたことが本当に嬉しく、絶対に負けられない！と思いました。

受験が終わった帰り道、これまでのことを振り返りました。『必死で努力したけど、何も上手くいかなかったな』と悲しくなりましたが、清々しさもありました。受験に満足していないけど、もう一浪しようと思わなかったのは、僕は変わることができたからです。最後まで戦い抜いた自分を、やっと認めることができ、誇らしいとさえ感じました。

それから10日後、合格発表を見るため神大のホームページを開いたとき、目を疑いました。そこに僕の受験番号が！最後の最後で努力は報われました。こんなにドラマチックな受験ができて、本当に幸せ者だと思えます。ありがとうございました！

毎日13時間、勉強に没頭。 最後まで戦い抜いて神大に合格！

最高に幸せな受験生活でした。

Congratulations!



伊東 梨沙

お茶の水女子大学
(生活科学部)

しぜん頑張れる 塾の環境が大好き!

センター試験が終わった後、『E判定からの大逆転勉強法』の本に出会って、今までの自分の勉強のやり方がいかに間違っていたかということに気づきました。

親からは浪人を反対されましたが、「南極流勉強法を実践せず、ミスターステップアップに通わずには大学に行きたくない!」と、何回も親を説得しました。

塾では、一人ひとりに自習机があつて、重い参考書を毎日持ち帰らなくて良いという環境は、理想的でした。塾なら何時間でも勉強でき、気づいたら「1日中勉強する」ことが当たり前になっていました。他の塾生も「勉強するのが当たり前」で自分の限界を越えるために頑張っている人ばかり。私は、この雰囲気が好きです。そういう環境を整えてくださっているスタッフさん、いつも会ったら温かくあいさつをしてくださいました。

そして、受験勉強だけでなく、大学生になつてからも役立つ事など、モチベーションの

上がる話をたくさんしてくださいました。全てのスタッフさんが、塾生のために尽くしてくださるという所が、集中できる環境につながっているんだろうなと思いました。

卒業してからも役立つことを学んだ

また塾では、受験勉強だけではなく、「どうやったら幸せになれるのか?」、「充実した大学生活を送るためには?」など、知りたくても誰も教えてくれなかったことをたくさん教わりました。ゆにわの食事からは、食事の大切さを学び、「料理によって人を元気にする」という言葉の意味を身体で実感することができました。

ミスターステップアップに来て、最初に驚いたのは「下宿生が多い」ということです。日本全国、さらには韓国の学校から来ている人。色々な人に出会えて、すごく刺激になりました。もちろん、ここは勉強するたにに通っているので、友達が増えるという意味ではなく、とにかく「志の高い人が集まつて、勉強している」という事がとても良かったです。

人生を変えるために 入塾を決意

高校時代は、本当に、全く勉強しませんでした。無気力で、どんな頭がさびついでいくのが、自分でもわかつたぐらいです。当時は医学部志望だったので、成績が下がったことをキッカケに、本当に医者になりたいのか? と考えました。心底医者になりたいと思つてないとかつたのは、高2の1月。受験勉強のスタートを切るべき時期に目標を失い、ただ突然と日々を過ごしていました。気がつくくとセンター試験まであと7日。このまま受験生活を終えてもいいのか? と思つた時に、高1の時に母親が買ってきてくれた『大逆転勉強法』が目にとまりました。その本を読むと、やる気がどんどんできて、自分だって頑張れば何でもできると思えました。入塾を決定させる決定打は、『人生を変える』というフレーズ。大学合格が目標というよりは、受験を通して成長したい、人生を変えたいと思えました。この塾に入塾するために浪人したといっても過言ではないと思います。

受験勉強とおし、 どう生きたいかが明確に

受験勉強をしていて嬉しかったのは、試行錯誤しながら課題を乗り越えようとする中で、自分がどんな人間なのか、どう生きたいのかということがわかつてきたことです。

高校時代に目標を失っていたので、アンテナが立っていたからかもしれません。また、この塾は受験という観点から、人生について役立つことを本当にたくさん教えてくれる唯一の塾だと思います。先生やスタッフさん、大学生から素晴らしいことを教えていただくことができました。入塾の理由を考えると、もはや自分はこの塾に来る運命だったときえ思います。しかも、塾では、ありのままの自分で過ごすことを許してくれます。自分はこんなにも周りに気を使って生きていたんだ、と気づくと同時に、本当の自分との対話がしやすくなりました。

それから、なんといっても毎日のまかないが「生きる喜び」でした。直前期は、まかないがなければおそらく戦線離脱していたらと思うほど、エネルギーをいただいていた。

私は入塾した時「こんな成績で国公立大学を目指すのか?」という、本当にE判定からのスタートでした。でも、全てを受け止めてくださったスタッフさんのおかげで、自分に出来る最大限の努力をすることができました。入塾を検討している方、特に「楠葉」近隣の人にはオススメです!「楠葉にこんなすごい塾があるのか!」と驚くことまちがいないです。



柏村先生のコメント

近くに相談や質問に伝えてくれる人がいたとしても、遠慮や恥ずかしさからなかなか行動に移せない人は少なくありません。もちろん、このような感情は受験にとつては必要なものなのです。

しかし伊東さんは違いました、毎日のように講師のもとに質問や相談をしに来ていました。化学の入試問題がまったく理解できなかつたり、勉強の進め方がわからなくなつてしまつたり、一生懸命勉強してもなかなか成績が上がらなかつたり。これだけ何度も質問や相談に来てくれたのは、講師のことを頼りにしてくれていたことでもあります。それが同時に「絶対に合格するんだ!」という強い意志によって突き動かされていたのだと思います。強い意志は未来を切り開く力を持っているのです。

ました。試験会場で、『あのまかないを食べて一年勉強した自分は、周りの受験生より一歩リードしている!』と思いました。合格できた理由はそれしか考えられません。入塾するかどうかは、まかないを食べるから考えてほしいです!

自分を変えた先生の一言

試験の直前にトラブルがあつたのですが、それは完全に自分で防げるものでした。それに対して、村田先生から『手を抜かないこと』をアドバイスされました。1年間教わったことによる土台と、先生の丁寧な言葉選びで、その時の自分の心にすつと溶け込みました。それまで、私は何をすることも適当で、口癖は『まあ、いいや』でした。それ以降は、きちんと考えて行動するようになりました。『考えて行動しろ』と言われるより、何十倍も説得力があつたし、行動に直結できたので、かなり驚いています。優しく、頼もしくて、かっこよくて、笑顔がすてきな村田先生だからこそそのなせる技だったと思います(笑)。

受験を通して成長したい、人生を変えたい!

私の思いに応えてくださいました。



Congratulations!

くぼき ちひろ
久保木 千裕

大阪大学 (理学部)

明治大学 (理工学部)
関西大学 (理工学部)

勉強法を変えたとたん、

A判定の成績優秀者に。

何十回という反復練習で「できる感覚」が身についた

現役時代、僕は進学校に通っていて、わりと早い時期から予備校にも通っていました。でも、必要のない授業をたくさん受け、勉強の合間にはファストフードを食べ、毎日イライラしていたという、今思えば最悪な受験生活を送っていました(笑)。現役時代も京大を受けましたが、不合格。浪人が決まり、予備校は「近いから」という理由でミスターステップ・アップにしました。そんな単純な理由だったのですが、今までの人生で一番良い選択だったと思います。

入塾後、成績は順調に上がりました。京大模試でA判定は当たり前前で、成績優秀者の欄にも何回か名前が乗りました。これだけ聞くと、もともと成績が良かったんじゃないの?と思われるかもしれませんが、決してそんなことはありません。

今だから言えるのですが、現役の時、京大模試を5回受けて、数学で6回中一完すらできた記憶がありません。200点中10点取れて喜んでいました。浪人して初め

ての京大模試で、初めての1完です。入塾してからは、同じ問題集を体に染みつくまで徹底的に反復するという勉強法でした。数学は、1年間を通して『白チャート』と『マセマの実力UP問題集』と過去問だけ。その代わり、何十回も反復しました。この反復を通して典型的な問題パターン、正しい思考の流れ、そして何より大事な「できる」という感覚が身につきました。

自分の価値観が変わりやりたいことが明確に

僕がこの塾で学んだ一番大きなことは、勉強以外の部分です。僕は現役の時にも京大を受けましたが、終わった後、やりきった感が全くありませんでした。そもそも受験の意味をわかっておらず、その先も何を目標せよばいいのか、まったくわかっていませんでした。

ミスターステップ・アップでは、先生だけでなく、起業家や経営コンサルタントの方など、色々な人の話を聞く機会があり、今まで聞いたことのないスゴイ話をたくさん聞

き、どういう生き方をすればいいのかを教わりました。そして、自分と向き合っていく中で、徐々に自分の中の価値観が変わりました。何をしたいのかが見えてきて、勉強する必要性がわかりました。実際、直前になつて志望する学科を、工学部の地球工学科から情報学科にしました。曇っていた視界が晴れていくようで、自分のやっていることに確信を持てるようになった気がします。

浪人は人生の遠回りではなく近道だ

浪人は、一見、遠回りに見えますが、実は近道。僕は、浪人のおかげで答えを見つけた感じがすね。もはや浪人して良かったとすら思います。この一年で学んだことを活かして、大学に入ってから頑張りたいと思います。

受験生の皆さん、受験は決して楽なものではありません。だからこそ、その先に明るい未来が待っている。僕のように、センターが本番だけうまくいく人もいますし、二次試験も、直前の一週間で突然点数が上がることもあります。最後まで、どうなるかわからないものです。だから諦めずに頑張ってください。充実した受験生活を送れることを祈っています。

この塾で、ずっとほしかった
「答え」が見つかりました。

Congratulations!

かとう しょうたろう
加藤 祥太郎

京都工芸繊維大学(工芸科学部)

立命館大学(情報理工学部)

龍谷大学(理工学部)

心の中の問いが塾との出会いへ導いてくれた

「なぜ受験勉強をするのか?」高校時代の私は、ずっとその答えを探していました。でも今になってみると、その時間は本当に無駄だったなあって思います。

私がこの塾に通うことになったきっかけは、親のススメがあったからです。高校時代は広島に住んでいたのですが、浪人が決まって、未開の地である大阪で一人暮らしをするのは抵抗がありました。しかし親が見せてくれた『大逆転勉強法』の本を読んだ時に、私がずっと知っていた答えが、この塾にあるのではない、勇気を出して入塾を決めました。

絶望の連続。そこから周囲の支えで立ち上がった

正直なところ、この1年は絶望の連続でした。特にひどかったのはセンター試験以降。センター試験で大失敗をしてしまったのです。そのため京都工芸繊維大学はD判定…。「今までの頑張りはなんだったんだよ!」

さらに畳み掛けるように、滑り止めで受けていた関関同立でも全敗…。本当に辛くて何度も受験勉強をやめたいと思いました。

それでもやりきることができたのは支えがあったからです。先生方が私の合格を信じて、本気で指導してくださったことで、私の心に火がつかしました。食堂スタッフの皆さんが作ってくださる料理のおかげで安心感を抱くことができました。さらに、共に戦う仲間たちの姿を見て「自分も頑張ろう!」と奮い立たせることができました。これらの支えがなければ、私は、最後までやり通すことができなかったと思います。

魂に刻まれる受験生活で得たのは、一生の宝物でした

そして今でも忘れられないのは、2次試験が終わった瞬間…。私は涙を流していました。それは試験の手応えがあったための喜びの涙ではありません。全力で私のことを応援してくださったみなさんに対する感謝の涙でした。「本当にありがとうございます」



共に過ごした仲間たちと。合格祝賀会にて。

合格発表の日、自分の受験番号を見た時、喜びで震えが止まりませんでした。と同時に、高校時代に悩んでいたことの答えも見つかったのです。それはこんな「美しい受験」をするためだったんだと思います。塾で過ごした1年は自然にそう思えるほど熱く、色濃く、魂に刻まれました。

受験勉強をする目的を見出すことができないからこそ、ぜひミスターステップ・アップで「日1生(毎日、生まれ変わったように生きる生き様)」の受験生活を送ってほしいと思います。きっと受験を終えた時には、言葉では言い表せない宝物が見つかりますよ。

自分を否定しなくなりました。

どこまでも信じてくれる人がいたから。

Congratulations!



いのうえ たかひと
井上 貴仁

筑波大学（生命環境学部）



多くの支えのおかげで
受験を乗り越えられた

講師の柏村先生、武田先生、村田先生、ゆにわのスタッフさん、切磋琢磨して受験勉強をしてきた仲間、尊敬できる素晴らしい人達に出会い、共に一年間を過ごせたことは、僕の人生で最高の宝物です。本気で夢を叶えたい、自分自身を変えたい、という熱烈な気持ちに込められるだけの環境がミスターステップアップにはあります。

高校生まで僕は自分のことが嫌いでした。「なんでこんなに数学が解けないんだ、なんでこんなに英語の長文が読めないんだ」といつても自分を否定していました。

けれどミスターステップアップに入塾し、スタッフの方々など多くの人の支えのおかげで、どんなにつらくとも勉強し続けることができるようになっていきました。入試直前には理屈抜きに「自分はすごいヤツなんだ」と認められるようになっていました。

ミスターステップアップは受験勉強を学ぶだけでなく、受験勉強を通して今後の人生

の土台を築くことができる最高の塾です。誠の心を持って勉強していればきっと実感できます。最後の最後まで心配をかけたのですが、合格できて本当に良かったです。



柏村先生のコメント

井上くんは、大逆転勉強法を忠実に実践して、「大逆転の会（モチベーションUPの会）」では熱心にメモをとり、いつも自分の机を整理整頓していて、本当にお手本のよいうな南極流の実践者でしたね。実際に、周囲の受験生も井上くんから良い刺激を受けていました。

同じ自習室の塾生が、「いつも自分の身の回りと、机の上をキレイに掃除する井上君を見習い、整理整頓同盟を作ろう！」と言って一年間、毎日、掃除、整理整頓をみんなですっかりやっていたことがとても印象的です。

二ガテ意識を持っていた数学に関しても、あきらめることなく、必死に取り組んでいた姿は今でもハッキリ覚えています。自分で考えても理解できない問題は講師に



筑波大学キャンパスにて

質問し、教えてもらった問題は何度も復して完ぺきにすることを徹底していましたね。成績が上がったこと以上に、二ガテを乗り越えてくれたことが何よりです。井上くんの地道な努力は、結果にもあらわれましたし、何より、井上くん自身の心を、一回り大きくしてくれたことと思います。

マイナスの言葉をやめたら 本当に全てが良くなりました。



Congratulations!

おの ひろよ
小野 裕代

大阪大学（外国語学部）

おしいごはんで
別人のように元気になった

現役の時は、友人につられて大手の塾に通ったり、個人塾に通ったり、塾をかけもちしていました。でも、有名講師の授業を受けても、問題集をがむしゃらに解いても全く成績が上がっていませんでした。「このままでは絶対ムリ……」と思ったので、スクーリングの時に世話になったミスターステップアップに入塾を決めました。

良かったことの1つ目は、食事です。入塾したての頃は、ストレスと不規則な生活のため顔色も悪く、精神的にもまいっていました。しかし、毎日ゆにわでごはんを食べ続けた結果、別人のように元気になりました。塾であんなに美味しいごはんが食べられるなんて信じられませんでした。

2つ目はサポートの手厚さです。自分がどんな状態でもスタッフの方は常に気をかけてくれていました。落ち込みすぎて前に進めない時に、夜遅くまで話を聞いてもらい何度も助けられました。また、塾で行われるモチベーションアップの会で聞ける

た話は、どれもすばらしくて、自分の生き方・価値観を見つめなおすきっかけとなりました。

成績が上がらない原因が
まさか言葉遣いだったとは

私は、「どうせやってもムリだ」とか「もともと頭悪いし……」といったネガティブな思い込みからなかなか抜け出せずにいました。そんな時、ネガティブな言葉を言わないようにアドバイスされました。「考え方が行動パターンをつくり、行動パターンが人生をつくる」と教わりました。私の成績が上がらない原因の一つは、合格につながるような考え方が身につけていないことでした。

「言葉を変えれば考え方も変わる。だからネガティブな言葉をやめるべきだ」と何度も指摘されるうちに、自分の考え方がいかにダメだったかということに気付かされました。ヤル気はあるけれど困っている方、本気で自分を変えたいと思っている方は、ぜひステップアップに一度足を運んでみてください。この塾ほど最高の環境はないですよ。



柏村先生のコメント

ふだんの言葉遣いが、自分の「性格」にまで影響していることを、ほとんどの受験生は知りません。彼女もその一人でした。

「ムリだ……」「できない……」という口癖がマイナス思考を生んでいる。本人には自覚なし。まず気づかせることから始めました。

ふとした瞬間にネガティブな言葉を使うので、そのたびに指摘。「あ、今のあかんー」と、普段のなにげない一言でも、徹底的に言い直させました。あまりのしつこさに「もう放っておいてくださいよー」と泣かせたことも。でも、放っておくわけにはいきません。そこに彼女の合否が、そして将来すらも、かかっているのですから。

年末頃、ようやく彼女の言葉が変わりました。「ありがとう」と笑顔が増えた。「ああ、これは受かった」と思いました。同時期に、入塾当初は30点ほどだったセンター数学が80点に急上昇。そして阪大に合格。いい顔で、卒業していききましたね。本

こんなに手厚く受験生を

サポートしてくれる塾は、他にありません

特待生!

Congratulations!
かない たかひろ
金井 敬寛関西大学(経済学部)
関西大学(生命科学部)
関西大学(人間健康学部)
関西大学(社会安全学部)丁寧な勉強計画で
ここなら頑張れると思った

高校3年の夏まで、僕は部活や趣味に没頭していて、勉強は定期テスト直前にやっとなんとか乗り切る程度でした。夏が終わる頃に、そろそろ受験勉強するかと重い腰を上げましたが、成績は全く上がらず、結果、全落ちして浪人が決まりました。

その時、「これからどうやって勉強すれば成績を上げることができるのか?」と思い、本屋に寄って勉強法の本を2、3時間くらい立ち読みしました。そこで『大逆転勉強法』に出会い、ミスターステップアップを知りました。

入塾説明の時、村田先生から大学受験の全体像や、勉強計画を説明してもらったのですが、それが論理的かつ丁寧だったことに感動し、ここなら1年間勉強できると確信しました。また、そこで出てきた紅茶がとても美味しく驚きました。

ステップアップほど、
勉強しやすい環境はない!

高校の時は学校の自習室や近くの図書館に勉強しようと足を運んでみても満席で、結局、自分の部屋で勉強することが多々ありました。しかし、塾には塾生一人一人に自習席があり、遊んでしまう誘惑もなく、冷暖房、空気清浄機、加湿器、アロマ、さらに、こまめな掃除のおかげで、勉強に集中できる環境でした。またウォーキングの会やボデイワークの会で、うまく気分転換もできました。先生やスタッフは毎日塾にいてくれるので、わからなかったことはすぐに解決できたのも良かったことです。

高校の時は、不安を一人で抱えたり、生活リズムが崩れたりして勉強に集中できず、勉強時間のバランスがよく偏りました。しかし塾では、毎日合格手帳を書いて先生に見せて話すので、自分を客観的に見てもらえ、良くないところを改善できました。大逆転の会などでは、村田先生が抽象度の高いゴールを持つことなど、モチベーションが上がる話をしてくださり、大きな励みとなりました。また、勉強中、やる気を失っても、食堂でおいしい食事を食べてやる気を取り

戻し、再び勉強に向かうことができました。試験の日も、食堂のスタッフさんが早朝から「合格弁当」を作ってくれ、とにかく至れり尽くせり、感謝の気持ちでいっぱいです。

悔しさがバネになり
最後までがんばれた

僕は国語が大の苦手でした。「この文章は何が言いたいのかさっぱりわからん」と、どうしようもない状態でした(笑)。でも、勉強していく中で、文章や問題の解き方を理解するため、もがきながらも、ベストを尽くしました。でも、センター1ヶ月前でも6割ぐらいしかとれず、結局、本番では、数学と国語でこけてしまいました。あの時は本当に悔しかったです。でも、悔しさをバネにして、その後も必死に勉強し続け、結果見事、合格をつかみ取ることができました。僕が1年間勉強を続けられ、大学に合格できたのは、先生や塾スタッフ、両親、一緒に勉強した塾生たち、陰で支えてくれたスタッフさんのおかげだと思っています。本当にありがとうございました。

MARCH・関関同立に全勝! これまでの努力が報われた受験でした



Congratulations!

たなか みずき

田中泉鶴季

同志社大学(文学部)
関西大学
法政大学周りを気にしてしまう
私が変わった!

私は根っからの勉強嫌いの上、最後まで何かをやり遂げたことがなく、大学を中退して二浪していました。この先いつたいたいと思ったらいいのか、と途方に暮れていたときに、よなたんのチャンネルに出会いました。

今まで聞いたことがない話に惹かれて、全落ちして三浪目が決まったとき、意を決してミスターステップアップに入塾を決めました。

入塾して教わった勉強法は、想像をはるかに超えるものでした。周りもみな必死に勉強していて、それぞれ別の勉強をしているはずなのに、不思議な一体感がありました。

そんな中、私は(自分が音読する声で、周りから集中できないと言われるのではないかと嫌われるのではないかと)と気にして、自習席に座ることさえ緊張していました。

思い切って村田先生に悩みを打ち明けたとき、
「嫌われてるって、誰かから何か言

われたの?表情や振る舞いから、他の人の気持ちや完全に読み取ることができないんだから、根拠がないのに、自分の憶測で『嫌われているんじゃないか?』と思わない方がいいよね」と言ってくださって、本当に心がラクになりました。

それから余計な思い込みが減り、講師の先生ともコミュニケーションが取れるようになって、ニガテナことにも挑戦できるようになりました。

これまでの努力が報われた

直前期は、受験への不安が襲ってきましたが、「後悔だけはしたくない!」と泣きながら勉強に食らいつきました。

あと10点、20点取れるにはどうしたらいいのかを考えて、夢にまで出てきたこともあります。そうやって考えていたからか、入試前に勉強したことが偶然テストに出たこともありました。

そうやって、自分の弱い部分と向き合い続けた結果、2年間落ち続けた、MARCH・関関同立に今年全勝することができました。今

までの努力が報われた、と肌で感じられた瞬間でした。

苦しかったですが、もがき続けた3年間は、決してムダではありませんでした。

講師の先生方や、スタッフの方々、一緒に戦ってくれた塾生や家族、全ての方に感謝しています。

ミスターステップアップは最後まで合格する可能性を信じてくれるし、どんな悩みでも真剣に向き合ってくれます。私みたいに、めんどくさがりで意思が弱い方、コンプレックスを抱えている方も、変わりたいと思うなら、この塾しかありません。ぜひ一度、入塾説明に足を運んでみてください。



「大丈夫。まだ間に合う」
かけてもらった言葉を信じて、最後まで全力を尽くしました！



秋の模試で『E判定』 薬にすぎる思いでステップアップへ

僕は浪人の前半まで、勉強自体のやり方が分からず、勉強法を模索していました。

序盤期は、1日に3時間勉強できれば良い方で、全く勉強しない日もありました。7月の共通テスト模試では、当たり前のように偏差値35でした。

そんな散々な成績でも「まだ7月だ」と自分に言い聞かせるだけで、できない原因と向き合っていなかったため、成績は上がるはずありませんでした。

そして9月に受けた模試の結果を見てみると、志望していた全ての大学に『E判定』の文字が。このまじや間に合わないんじゃないか？という不安と、どうすればいいのか？という焦りが一気に押し寄せてきました。

いても立つてもいられなくなり、薬にもするが思いで、ミスターステップアップに電話をかけました。そこでかけてくださった言葉が「大丈夫。まだ間に合う」でした。僕が一番に欲していたものでした。そこで、ミスターステップアップ

の通信コースに入って、残り全ての期間を勉強に捧げることに決めました。

通信コースが合格に導いてくれた

勉強と向き合って気づいたのは、「今まで逃げていたな」ということです。通信生になって、自分の勉強方法もメインでも間違っていたと気づきました。ラジオで聴いた素晴らしい話の数々が、僕を大逆転合格に導いてくれたと言っても過言ではありません。

通信生になってから、勉強時間は平均10時間を超えていましたが、11月の終わりに絶不調になってしまいました。12月になっても不調が続いており、この状況をどうにかしようと、10日間のスクーリングに行きました。

共通テスト直前は、プレッシャーに押しつぶされそうで、勉強中も雑念だらけでしたが、ステップアップの方々から、雑念を振り切って勉強をすればいいよ、と教えてもらったので、できる限りそれを実行しました。

すると、自分に対するイメージが変わ

って、不安がなくなり、全力をぶつけることだけに集中しようと思えました。

調子が悪くても全力を尽くした

しかし、共通テストの結果を見てみると、志望していた島根大学の合格はほぼ不可能でした。

絶望しかけたましたが、残りの試験全てに力の限りを尽くそうと気持ちを切り替えました。きつとステップアップに入っていなかったら、とっくに諦めていたでしょう。

私立も二次も、試験の直前は基本的に体は不調でしたが、できることを全力でやりました。結果、立命館大学や高知大学をはじめ、受けた全ての大学に合格させていただきました。受験をする皆さんが自分の限界を突破して、志望校だけでなく、最高の未来をも掴み取れるようにと、切に願います。ここまで支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

ステップアップに出会う前とは 全然違う自分がいました。



運命の出会い

受験を意識し始めた高1の3学期の頃、頻繁に、学校帰りに本屋に寄っては勉強法の本を読みあさっていました。20冊くらい読んだ内の1冊『大逆転勉強法』に惹かれた自分がいました。

その後、現役の春、夏、冬と1浪の6月にスクーリングに行き、『大逆転勉強法』の理解を深め、先生方と話したりしました。あとは電話で模試の結果についてアドバイスをもらったり、今の勉強内容について相談のついでにいただきました。私は宅浪だったので特に電話は重要でした。とにかく受験生の合格を第一に考えてくれました。これは一番感謝しています。あと、ステップアップの塾生が食べる、「ゆにわ」のごはんも大好きです。「ゆにわ」よりもおいしいごはんを食べたことはありません。

変わっていく自分に満足

東大に合格できたこと。いまだ実感がありませんが、やはり嬉しいものです。しかし、一番良かったことは、成長できたこと。実を言うと、もう

受験勉強中のことはあまり覚えていないんですが、入塾前の自分とは明らかに違うのがわかるんです。きっと他の塾に通っていたら、こうはならなかったはず。今の自分はステップアップのおかげなんです。そして私は今の自分をいたく気に入っています。ステップアップに身をゆだねて本当に良かったです。

我流を捨ててよかった！

私は現役で失敗しましたが、その原因は我流に走りすぎたことだと思っています。たいして思考錯誤していないなら、我流では上手くいきません。私は初めから偏差値60ありましたが、それでも我流はうまくいきません。入塾するなら無条件でなにかもを受け入れてください。入塾しても我流を貫き通すのならどこにいても同じでしょう。素直に受け入れられるのであれば、こんなにいい塾はありません。努力も必須ですが、素直さも重要です。



柏村先生のコメント

1年間、自宅で浪人した小倉くんは、『大逆転勉強法』と『限界突破勉強法』を組み合わせて取り組みました。スクーリング(短期合宿)に、たびたび参加した彼は、毎回、質問をたくさんぶつけてきました。

- いつまでにどの教材を終わらせればいいのか
- どんな風に反復すればいいのか
- 赤本(過去問)はどのように研究すればいいのか

といった質問です。私たちは、彼と個人カウンセリングでとことん話し合い、志望大学合格までの計画を練りました。そこから、迷いなく勉強できるようになった小倉くん。1年の計画を頭に入れて、勉強に臨んでいました。

そうして『大逆転勉強法』と『限界突破勉強法』をうまくブレンドして、偏差値70以上の感覚をつかむことができ、東大合格を勝ち取りました。彼も最初から勉強ができたわけではありません。努力とアツい思いと、正しい勉強法を実践したからこそ、合格をつかみとれたのです。

悩んだ時に、

スタツフさんに支えられました！

思ってくれる人がそばにいる
それが何より嬉しかった

『大逆転勉強法』、『限界突破勉強法』の本を読んで、ここなら人生変えることができそうだなと思い、入塾を決めました。ミスターステップアップに通って一番嬉しかったのは、自分が悩んだり、壁にぶち当たった時に、スタツフさん全員で自分がその悩みや壁を乗り越えられるように導いてくれたり、支えてくれたりしたことでした。大逆転の会から、日常の何気ない会話の中まで、自分のことを思ってくれる人がいるんだと感じられた事が、この一年を通して一番嬉しかったです。

集中できる環境に助けられ
勉強を頑張れました

高校生の時は自分が勉強している時、周りで友達が笑ったり、話したりしていると、なかなか集中できず、勉強をやめて遊んでしまっていました。塾はとても落ち

着いていて、自習室に自分専用机もあり、自然と勉強時間を増やすことができました。また、どんな環境であつても(入試本番でも)周りのことを気にすることなく、集中して勉強できるようになりました。

また、入塾前は国語と英語が本当に苦手で、どうしたら成績を上げられるかわからなかったし、やってもつまらないなと思っていました。でも、塾に入ってから先生の話を聞いたり、塾にある本を読んでいるうちに、途中から苦手教科を勉強するのがむしろ楽しいなと思えるようになりました。

遠方に住んでるとい理由で
入塾をあきらめていた人へ

もし、入塾したくても、遠くて無理だなとあきらめてる人がいたら、一度塾に電話をして相談することをオススメします。本当に人生を変えたいと思ってるなら、先生方がいろいろな形でサポートしてくれます。

Congratulations!



山本 諒

関西大学 (工学部)

北里大学 (海洋生命科学部)



Congratulations!



一ノ瀬 寛之

東京農業大学 (農学部)

北里大学 (海洋生命科学部)

熱くなれる塾です!

絶対に、人生を変えることができます。

本音で生きるために
入塾を決めました

僕がミスターステップアップを選んだきっかけは、現役の時に『限界突破勉強法』と出会ったことでした。それからホームページを見て、スクーリングコースに参加しました。

スクーリングに1カ月参加し、最終日が近づくにつれ「この塾でもっと学びたい! 残りの日数、全力を尽くしたい! 南極流勉強法で人生を変えたい!」という本音が出てきました。最終的に、「最後までこの塾でやりきる!」と思いい、入塾を決意しました。

つねに高い
モチベーションを維持

一番嬉しかったことは、ゆにわのめちゃくちゃ美味しいごはんです。僕が気にしていた体重はみるみる減っていき、それと同時に、ものすごいエネルギーをもらい、1日中熱い気持ちで頑張れたのです。

良かったことは、大逆転の会やスタツフさんや先生たちへの相談で、モチベーションが常にながっていったことです。悩んだ時には相談して、スッキリして勉強に没頭することができました。

人生を変えるぐらい
熱い1年を過ごして

成長できたと思うのは、志を立てて毎日熱く勉強ができたことです。目標を立てることで、苦しい時でも向き合って勉強することができました。入塾してからは勉強時間が増え、家ではだらけていた自分が、塾では一生懸命必死にやることができました。苦手教科に對しては、絶対に究めてやるという熱い気持ちになり、自分ももっとできるという自信が持てるようになりまし。現役の時に逃げてきた自分が、真正面から課題と向き合って挑戦し続けました。後悔しない受験生活を送りたいなら、ミスターステップアップが絶対にオススメです! 本当に自分



大学を卒業後、当社の飲食部門でパン職人となり、陰ながら塾生を応援している。



がやりたいことが見つかります。そして熱くなれます! 絶対に人生を変えることができます!



村田先生のコメント

大学受験は、夏までにどれだけ基礎を固めるかが重要です。そして後半戦は、とにかく勢いが大切なのです。一ノ瀬くんはバスケットマンで、もともと、勉強は決して得意ではありませんでした。けれど、持ち前の明るい性格で、勢いを味方につけていました。

勉強しながら「わかった!」「すげえ、そういうことか!」「おれ天才!」と、自分自身に声かけをすることで気持ちを盛り上げていた彼。そのポジティブさで、塾全体の雰囲気まで盛り上げるムードメーカーになっていました。その空気に励まされた塾生もいたと思います。

勢いが勝敗を左右する。これはスポーツにも受験にも通じることでしよう。

無条件で信じてもらえる嬉しさ。
塾は私にとって特別な場所でした。

Congratulations!

坂東由紀乃

立命館大学(食マネジメント学部)
京都産業大学(現代社会学部)

家とも、学校とも違う、
自分の居場所ができた！

大学受験なんてしたくない。多くの高校生がそう感じているんじゃないかと思えます。私もその一人でした。高校三年生になって、勉強しなきゃと思いつつも、スマホ三昧。そんな時に姉から紹介されたのがミスターステップアップでした。

他に思いづく選択肢も無かったので、とりあえず入塾説明に行きました。そこで村田先生の話を聞くうちに、自分の中のモヤモヤしたものが晴れていくようでした。うまく言葉にはできませんが、「ここに来るしかない」と思いました。

ですが、入塾してすぐ勉強できたワケではありません。むしろやる気がない状態が続きました。そんな私にとって塾は、特別な場所でした。学校や自宅が辛かったわけではありません。たぶんこの時は心が疲れていたのだと思います。村田先生、柏村先生、ゆばさん、よなたん、スタッフさんや大学生にたくさん話を聞いてもらいました。

どんな私でも無条件で
信じてくれた先生たち

そんなこともあって、現役の間は全く何も勉強できないまま浪人生活に突入しました。浪人生活がはじまって、それなりに勉強するようにはなりましたが、できない日も多かったです。完璧からはほど遠く、計画通りにいくなんでマレ。諦めたり、逃げたりの繰り返しでした。

でも、頑張っている時も、頑張っていないときも、塾の先生やスタッフの方々は、ずっと私を見てくれていました。頑張っているからいい子とか、頑張っていないから気にかけない、なんてことは一切なかった。

たいてい人は、大なり小なり人間関係に損得や好き嫌いが入るものです。可愛いから、頭いいから、社交的だから、仕事ができるから、いい子だね……と。

でも、本当はそれ以上の人間関係を探している。そして探していると思うのです。なんでもない自分を見てくれて、そばにいてくれて、「あなたならできる」と、心から信じてくれる「誰か」を。

浪人時代という
ボーナスタイムで得たもの

もちろん、私もその一人でした。なんでもない私のそばにいてくれる人を求めていた。だから、頑張らなくても、なんの才能もなくても、失敗しても、先生たちが私のことをいつも信じて本気で向き合ってくれたことが、どれだけ嬉しかったか。

大学受験は、大学生というステータスを得るためのただの我慢。そう思っていました。でも、この塾で受験を終えた今は、「人生のボーナスタイム」だと思います。じっくり自分と向き合っていると、自分がちゃんと見えて、未来が少し見えてきます。「仕方ない」「どうせ私にはできない」と言い訳して、見ないようにしてきたことにも、「本当は、どうしたいのか?」と、向き合う力がついてくるのです。

本当の気持ちを知って、叶えられるのはごく一部の人かもしれませんが、でも、この塾を見つけたあなたは、その理想を叶えていける人だと思います。応援しています。

人生の大切なことを たくさん教わった『大逆転の会』



Congratulations!

おおしか たいせい
大鹿 泰成甲南大学(文学部)
関西大学(社会安全学部)『大逆転勉強法』の
奥深さを知った

高校1年生の時に、『大逆転勉強法』に出会い、「自分もこの勉強法で人生を変えたい」と思い、入塾を決めました。振り返ってみると、「大逆転の会」でいろいろなることを学べたことが、もともと印象に残っています。入塾したての頃は「なんでわざわざ貴重な1時間を勉強以外のことに使わなければならないのか」と邪魔扱いして出席しなかった日もありましたが、回を重ねるとにその重要性に気が付き、それから「今日は、大逆転の会があるかな」と期待する日々でした。

自分と向き合い、
学んだことの多さ

塾では、物事を合理的に考えるということ、ゴールから発想するということなどを学べました。以前までの僕は勉強時間を気にして、時間がムダにかかっってしまう非効率な勉強ばかりしていました。しかし合格手帳を書き続けることで真の自分と向き合い、徐々に効率良くで

きるようになっていったと思います。心理面でも、結果にいちいち一喜一憂しないということや学び、淡々と勉強できるようになりました。

勉強面では、入塾前は得意科目ゼロの状態でした。しかし、教材を反復しているうちに、徐々に得意と思える教科がでてくるのを感じました。以前まで問題を読む気になえず、よく考えずになんとかく解いていた苦手な英語と国語も克服し、さっぱり訳がわからなかった数学も「自分ならできる」とさえ思えるようになりました。

モチベーションを上げ続けて
くれた村田先生

村田先生が夏休みにしてくださいました「苦しみ」がテーマの大逆転の会が印象に残っています。

「レベルアップする前はいつも苦しい。けどそこから逃げていては、いつまでたっても成長しない。苦しいを乗り越えたその先にあるいいイメージをもって行動することが大事！」という内容でした。それを録音したものを何回も聞き続けた結果、気分が乗らない時でもモチベー

ションアップにつなげることができました。

塾での一番の思い出も、村田先生に怒られたことです。正直、僕は苦手科目をずっと放置していました。そのことに気付いてくれた村田先生には怒られました。同時に「ゴールからの発想や、過去をいつまでも気にしない」ということを学びました。ここで学んだことを今後の人生でもいかしていきたいです。

勉強以外を学べた時間は
一生の宝物

入塾を迷っている人には、「入塾した方がいいよ」とアドバイスしたいです。実際、僕も通塾するのに2〜3時間かかるようなところに住んでいたのに、入塾するのにならぬ悩みましたし、親を説得するのにもかなり苦労しました。それでも「塾に通いたい、塾で勉強したい」という思いが強かったため、親の了承も得て入塾できました。今思うと、あのとき入塾して本当に良かったなと思います。ここで学べるのは勉強だけではありません。僕にとってこの塾で得たことは一生の宝です。

モチベーションアップの会があったから、
全落ちしても諦めずやり切れた！



入塾のきっかけは『大逆転勉強法』

高校で勉強についていけなくなり、何かいい勉強法はないかと書店で探しているときに、『大逆転勉強法』に出会いました。

本を読むたびに、不思議とやる気が出てきました。とくに、最後の「伝説の受験生」のページは、自分ももしかしたらこんなふう勉強ができるようになるかもしれない！とワクワクしました。

受かっている大学はありましたが、どうしてもミスターステップアップで勉強がしたくて親に頼み込み、入塾することができました。

暗記の苦手を克服！

現役のときは、英単語の暗記を避けていましたが、講師の先生から英単語の暗記は必須だと教わったので、覚える覚悟を決め、必死に暗記しました。

最初は見覚えのある単語が多く、順調に進みましたが、先に進むにつれて暗記しづらくなり、覚えるのに苦労しました。

それでも、一度やると決めたことなので、何度も声に出し、できる限り毎日反復を続けました。すると、12月頃になつて過去問を解くときに、長文が読みやすくなっていることに気がつきました。

単語の暗記量が増えたことで長文への抵抗感がなくなり、正答率が上がって、本番で合格点を取ることができました。

「本気になれ！」のメッセージに火が点いて…

モチベーションアップの会は、先生方のエネルギーをもらえる不可欠な時間でした。

特に響いた言葉は「人生は解釈で決まる」です。初めて聞いたときは、あまり意味が分かりませんでした。でも入試が始まってから、この言葉に救われました。

「周りに認められたい」がスタートだった

高3のときに、担任の先生からの提案で神戸大学を目指すことになりましたが、正直なところ、「神戸大学を目指したら、周りから認められるだろう」という思いから勉強していたので、当然成績は上がり、現役の時是不合格でした。

浪人をして、現役の時よりも勉強をしていたのですが、共通テストでは、現役よりも点数が下がってしまった教科もあって、自分の勉強法が間違ってるんじゃないかと怖くなりました。

そこで、共通テストの後に、5日間のスクーリングに通わせてもらいました。

スクーリングに来る前は、頑張ろうという熱量が冷めてしまっていました。講師の憩さんに何時間も話をしてもらった時、自然と「ただ人のため、世のために勉強しよう」と、忘れかけていた熱い気持ちが出てきました。

入試本番の日も、そのことを思い出して、安心した状態で試験に臨めました。

先生がいたから、自分の弱さを受け入れられた

調子を持ち直したものの、私立の中で一番行きたかった立命館大学に、1点差で落ちたことで、「これだけやってるのになんで？」と本当に悔しくて、勉強をしても涙が出てくるほど、感情が揺さぶられていました。

それでも、毎日届く、あたたかく思いのこもったラジオやLINEから、エネルギーをいただいで、本当にぎりぎりの状況でしたが、泣きながら机にへばりつくことができました。

それでも、国公立の入試が近づいてきたとき、もう自分にはどうにもできなくて、信頼していた柏村先生に、ずっと心の奥底で抱えていた、自分のネガティブな思いを全部聞いていただきました。

どんなことを言っても、見放さず寄り添って下さって、それまで、自分の人生で目を背けてきた気持ちを、初めて認めることができました。

そして、立命館の追加合格の発表日から、一日過ぎた日のこと。全く期待はしていなかったのです

実は、私は前期の私立大学に全て落ちてしまったのです。これまでだったら、あまりのつらさに勉強を投げ出していたと思います。

そのとき、「人生は解釈で決まる」という言葉を思い出し、目が覚めました。「全落ち」というショッキングな出来事を通して、勉強から逃げて、全然本気ではなかった私に、神様が「もっと本気になれ！」というメッセージをくれたのではないかと考えたのです。

そして、こんな絶望的な状況でも、スタッフの方が変わらず応援してくださるので、「ここで逃げるわけにはいかない！」と腹を決め、最後まで駆け抜けることができました。

今となっては、中途なまま合格せず、本気になれるチャンスを与えてもらったと、全落ちしたことに対して感謝の気持ちすら感じています。

今後も、どんなことが起ころうとも、「これも自分に必要なメッセージなんだ」と起こったことを前向きに捉えていきたいです。

多くの愛情を注いでくださった先生方・スタッフの方、そして両親に心から感謝します。

ありがとうございました。

受験が終わっての心境

が、なんと、追加合格することができたのです。

多くの方々の応援のおかげで、不完全ながらも走りきれた今、受験に対する未練はないです。今振り返ると、1点差で落ちて、猛烈に悔しくて、つらい思いをしたからこそ、初めて本気の失敗を経験できましたし、自分が合格できた背景には、多くの受験生の苦しみや悔しさがあることに気づけました。



よなたんのコメント

平田さんは、配信したラジオにはほぼ毎回コメントをしてくれたり、ライブ配信でも質問をしてくれたり、通信コースを最大限活用してくれていました。そのため、スクーリングで初めて会ったときも、お互いに何度も会ったことがあるような感覚でした。すでに勉強法を実践してくれていたの、スクーリング期間中には本人のニガテナ分野に特化した、より深い指導ができました。

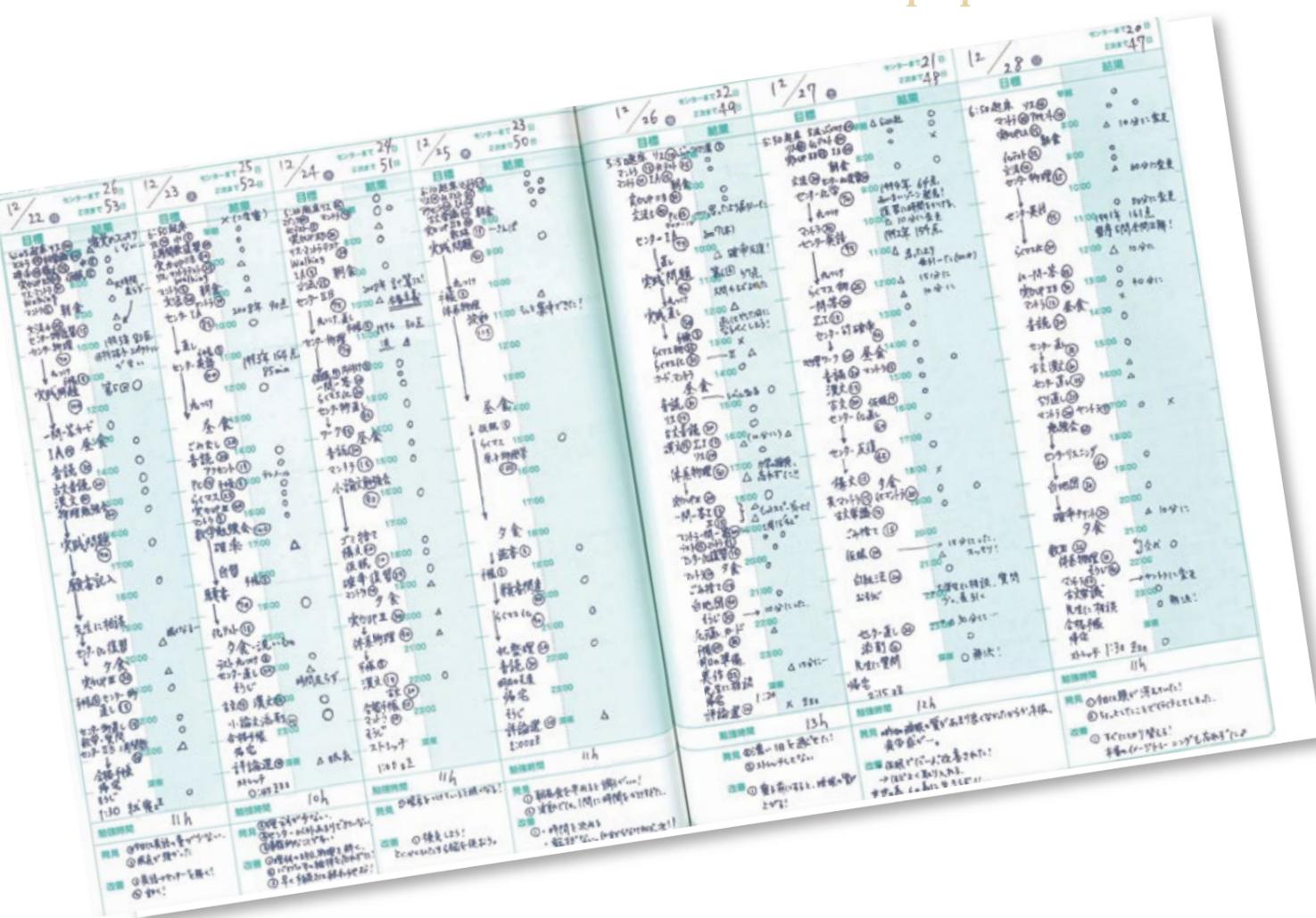
認められたい気持ちを乗り越え、
合格を掴み取った一年。



心のブレーキを外すことができました!

次はキミの番だ。 ここにどんな伝説を残す?

Follow your dreams!
We are waiting for you
at Mr.Stepup.



Congratulations!

はら こうき
原 光輝

同志社大学 (生命医科学部)

立命館大学 (生命科学部)

近畿大学 (理工学部)

龍谷大 (理工学部)

挫折があったから この塾と出会えた

高校3年間部活ばかりに熱中し、勉強を全くしていなくて、このままではまずいと思っていました。本屋で勉強法の本を探していたところ、たまたま『大逆転勉強法』を見つけた。

読み進めていくうちに何か熱いものを感じ、ここだったら今の自分を変えてくれるかもしれないと、ミスターステップアップに入塾することを決めました。

最初は、1日中勉強するのが辛かったです。しかし、だんだんと耐性がついてきて、途中からは勉強するのが当たり前になりました。

僕は高校3年間、勉強も部活も全然上手くいかず、苦しい高校生活を過ごしていました。それは生まれて初めての挫折でした。この挫折がきっかけで物事を前向きに捉えられなかったのですが、1年間寮で生活し、スタッフさんから色々な話を聞くうちに、気持ちが変わっていききました。今では、自分に自信がもてるようになっただけでなく、あの挫折があったからこそ、塾に出会

い、今の自分があるのだと、過去の悪かった経験を肯定的に捉えられるようになりました。

解法パターンを反復して 実力がついた

得意教科は数学でしたが、感覚で解く癖があり、できる時とできない時の点数の差が激しくできていました。先生から、数学はパターンだということを教えてもらい、解法パターンを何度も反復しました。そのおかげで、どんな問題でも安定して点数を取ることができるようになりました。

苦手教科は英語でした。中学の時から英語には頭を悩ませていました。単語・熟語の語彙数は十分なはずなのに、なぜか長文の内容を読み取ることができなかったのです。ところが先生に相談し、いただいたアドバイスを実践していくと、すぐには上手くいかなかったのですが、だんだんと内容をつかむことができるようになりました。最後は、同志社大学の英語で7割近い点数を取れたのです。

ピンチの時、 先生からの喝が効いた!

塾での一番の思い出は、センターが終わり、いよいよ私立大学試験が始まる二週間前のこと。勢い良く勉強を進め、成績も徐々に上がっていましたが、終盤に差し掛かるにつれて、自分の気持ちに変化が生じました。どこか勉強と向き合えない、集中できない。センター直前期となり、周りの受験生が必死になって勉強している中で、自分はどこか冷めていたのです。そのような状態で挑んだセンター試験は、案の定悲惨な結果。このままではまずいと焦る反面、受験勉強を諦めている自分もいました。そんな姿を見て、いつもは優しい柏村先生が、厳しい言葉で喝を入れてくれました。そこで何かが吹っ切れ、過去問とも向き合えるようになりました。その結果、私立試験は全ての大学に合格。

ダメダメだった自分でも、成長することができました。これから入塾する皆さんも、自分にとって大切なものや、信念は何なのかを問い、これだけは譲れない、というものを見つけてほしいと思います。